

# サステナビリティレポート 2020

サステナビリティレポート  
ダウンロード

## ESG経営



ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）





Environment  
環境




Social  
社会



Governance  
ガバナンス

▶ [新型コロナウイルス（COVID-19）への対応（347KB）](#) 

### 関連資料

[ESGデータブック  
（598KB）](#) 

[GRIスタンダード対照表  
（728KB）](#) 

[サステナビリティレポート  
ダウンロード](#)

## 本報告書について

### 編集方針

#### 統合報告書とサステナビリティレポート

不二製油グループは、社会の一員として、ステークホルダーとの対話に基づき、事業活動を通して当社グループの継続的な企業価値向上と社会の持続可能な発展に貢献することを目指すESG経営を進めています。ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を年次で発行しています。

「統合報告書」は、当社グループの事業全体像および中長期的な企業価値をお伝えし、ステークホルダーの皆様との対話においてご意見を賜ることで、さらなる経営の進展を図ることを目的としています。

「サステナビリティレポート」は、社会の持続可能性に与え得る影響に対する考え方や取り組みを、広範なステークホルダーの皆様に対して網羅的かつ誠実に報告することを目的としています。

|                  |  |
|------------------|--|
| 報告対象範囲           | 不二製油グループ<br>▶ グループ会社一覧   |
| 報告対象期間           | <b>ESG経営</b><br>2020年6月時点の情報に基づき掲載しています。<br><br><b>2019年度活動報告</b><br>不二製油グループ本社および日本のグループ会社は2019年4月1日～2020年3月31日、海外グループ会社は2019年1月1日～12月31日の実績です。ステークホルダーの皆様にとって重要な情報については、一部上記期間以外の活動も含まれます。   |
| 発行時期             | 2020年7月（日本語版）<br>2020年9月（英語、中国語版）  |
| 参考にしたガイドライン      | <b>GRIスタンダード</b><br>本報告書はGRIスタンダードの中核（Core）に準拠しています。   |
| GRIに基づく開示情報の決定方法 | 「サステナビリティレポート2020」においては、以下の考え方により、持続可能な社会を実現するために貢献が期待されるテーマについてご紹介しています。<br><br>① 不二製油グループのマテリアリティ※は、マテリアリティマップ上でステークホルダーの関心度が「高」、およびステークホルダーの関心度が「中」かつ事業戦略上の重要度が「高」と評価されたテーマとしています。これらについて、グループレベルで対応し、情報開示を行っています。<br><br>② ①以外と評価されたテーマについても、関連する各社・各部門で対応し、ステークホルダーの意思決定に影響し得る情報を開示しています。<br><br>※ マテリアリティの詳細については、以下のURLをご参照ください。<br>▶ <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/materiality/">https://www.fujioilholdings.com/csr/materiality/</a> |
| 第三者保証            | 情報の正当性を担保する目的で、Scope1および2での全CO <sub>2</sub> 排出量の70%以上において第三者保証を得ています。  |

サステナビリティレポート  
ダウンロード

統合報告書2020



## サステナビリティ

### C“ESG”Oメッセージ

新型コロナウイルス（COVID-19）によりお亡くなりになられた方々へ謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。また、医療現場や生活必需品の生産・販売現場など、パンデミックの最前線で尽力されている皆様に敬意を表しますとともに、感謝を申し上げます。

今回のパンデミックを通して、社会の価値観や行動が大きく変容しています。企業には経済的な価値の追求のみならず、その基盤として人の健康や雇用を重視することが期待されます。社会が直面する劇的な変化に呼応し、企業もこれまでのやり方・慣習を変えなければ生き残れません。私たちは、このパンデミックを経た世界の潮流が一層サステナビリティに向かうことを確信し、ESG経営の推進の重要性をさらに認識しています。

歴史的に疫病は家畜の飼育や森林の開拓など、人間が自然界に進出することで発生してきたと言われています。地球環境・生態系との共生を探ることが人類のサステナビリティ実現のための命題であり、不二製油グループとしてはこの壮大なテーマに対して、植物性食品素材の力で社会にソリューションを提供していきたいと考えています。人の健康に貢献するためには、地球の健康が前提です。ESG経営を通して提供したい価値として掲げる「PBFS（Plant-Based Food Solutions）」が、コロナ後のニューノーマルで求められる価値であることを確信しています。

当社グループのESG経営は「人のために働く」という不二製油グループ憲法の価値観を原点としていますが、未曾有のパンデミックに対峙している今こそ「人のために働く」価値観を発揮し、社会のサステナビリティのために、「食」という人々の生活に必要な不可欠なビジネスを通して貢献していきたいと考えています。

2019年度は、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）を設置した初年度として、将来からのバックキャストの思考を大切にしながら、ESG経営の重点テーマを中心に事業活動を通してESGを推進しました。

例えば、食資源不足へのソリューションとして、動物性たん白源の代替となる大豆ミートなどの植物性たん白素材の開発・改良・市場への提案を進めてまいりました。2019年9月には、大阪市にある大丸心齋橋店に、大豆ミートやチーズ風豆乳など、植物性食品素材のみを使用したハンバーグや唐揚げ、ラザニア、デザートなどを販売する惣菜店として「UPGRADE Plant based kitchen」をオープンしました。当社グループの事業はBtoBですが、消費者に直に植物性食品素材の価値を提案し、フィードバックを得る場として位置づけています。

人権分野については、国連ビジネスと人権指導原則の提唱する人権デュー・ディリジェンスのプロセスにのっとり、サステナブル調達推進やグリーバンズ（苦情処理）メカニズムの運用、「人権週間」の制定による人権教育などを実施しています。「不二製油グループが特に優先的に対処す



べき人権リスク」の一つとして特定しているパーム油やカカオのサステナブル調達に関しては、2030年、2025年目標を2020年6月に策定いたしました。この目標達成を目指し、さらに環境・人権に配慮した調達の取り組みを、エンゲージメントを重視しながら進めてまいります。

また、環境分野については2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030」を策定しており、そのうち地球温暖化問題に関連する「CO<sub>2</sub>の排出量削減」については、2020年3月に「Science Based Target (SBT)」の認定を取得しました。SBTの新基準に基づく意欲的なCO<sub>2</sub>削減目標は、スコープ1と2について総量で40%削減を、スコープ3について総量で18%削減を掲げています。これらの達成は決して容易な道程ではありません。しかしながら、「人のために働く」の価値観のもと、この目指す姿に到達するためのイノベーションを加速させていきたいと考えています。加えて、加速する気候変動に対する機会・リスクを特定し事業戦略やステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに役立てる目的で、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures）の提言を踏まえたシナリオ分析を実施いたしました。その結果については、本サステナビリティレポートにてご覧いただけます。

## 【関連ページ】

- ▶ 食資源不足へのソリューション提供  
[https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food\\_resources/](https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food_resources/)
- ▶ パーム油のサステナブル調達  
[https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm\\_oil/](https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/)
- ▶ カカオのサステナブル調達  
<https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/>
- ▶ ビジネスと人権  
[https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human\\_rights/](https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human_rights/)
- ▶ 環境ビジョン2030  
<https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/management/>
- ▶ 気候変動リスクと機会  
<https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/>

本サステナビリティレポート2020では、ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）を中心に、サステナビリティに関する考え方や進捗をご報告しています。また、ステークホルダーの皆様にとってご理解いただきやすいレポートへと変革するために、本レポートにてはじめて「GRIスタンダード」にもとづく報告を実施し、「ESGデータブック」や「GRIスタンダード対照表」を掲載しました。

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションは、ESG経営推進の基盤であり、ドライバーです。誠実かつ透明性をもって対話に努めることが、当社の学びと活動推進および社会への知恵の共有につながると考えています。本サステナビリティレポート2020が、ステークホルダーの皆様とのよきコミュニケーションのツールとなれば幸いです。

不二製油グループ本社株式会社  
最高ESG経営責任者（C“ESG”O）

門田隆司

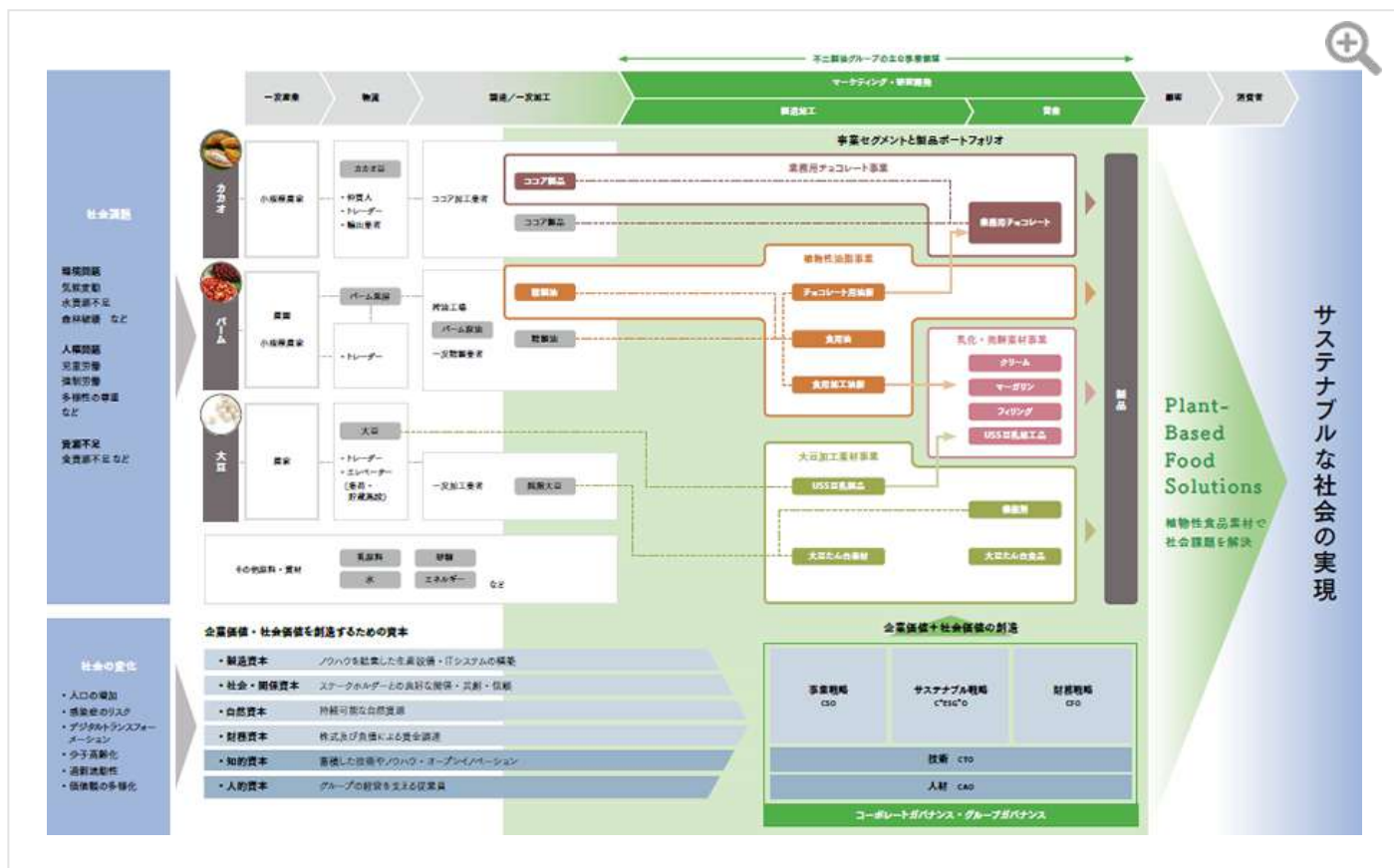
サステナビリティ

不二製油グループの概要とESG経営

社会の中の不二製油

不二製油グループのバリューチェーン

不二製油グループは、植物性油脂事業、業務用チョコレート事業、乳化・発酵素材事業、大豆加工素材事業の4つの事業を展開している、BtoBの食品素材メーカーです。パーム・カカオ・大豆といった農作物を主原料に、チョコレート用油脂や業務用チョコレート、ホイップクリーム、マーガリンや大豆たん白素材などのさまざまな食品素材を開発・製造・販売しています。お客様は、BtoCの食品メーカーや外食店、コンビニエンスストアや小売店などさまざまな業態にわたります。



サステナブルな社会の実現

Plant-Based Food Solutions  
植物性食品素材で社会課題を解決

事業戦略 CIO  
サステナブル戦略 C'SiC'O  
財務戦略 CFO  
技術 CTO  
人材 CAO  
コーポレートガバナンス・グループガバナンス

- 企業価値・社会価値を創造するための資本
- ・製造資本 ノウハウを結集した生産設備・ロジスティクスの構築
  - ・社会・関係資本 ステークホルダーとの良好な関係・信頼・信頼
  - ・自然資本 持続可能な自然資源
  - ・財務資本 株式及び負債による資金調達
  - ・知的資本 蓄積した技術やノウハウ・オペレーション
  - ・人的資本 グループの経営を支える従業員

# ESG経営の概要

## ESG経営の全体像

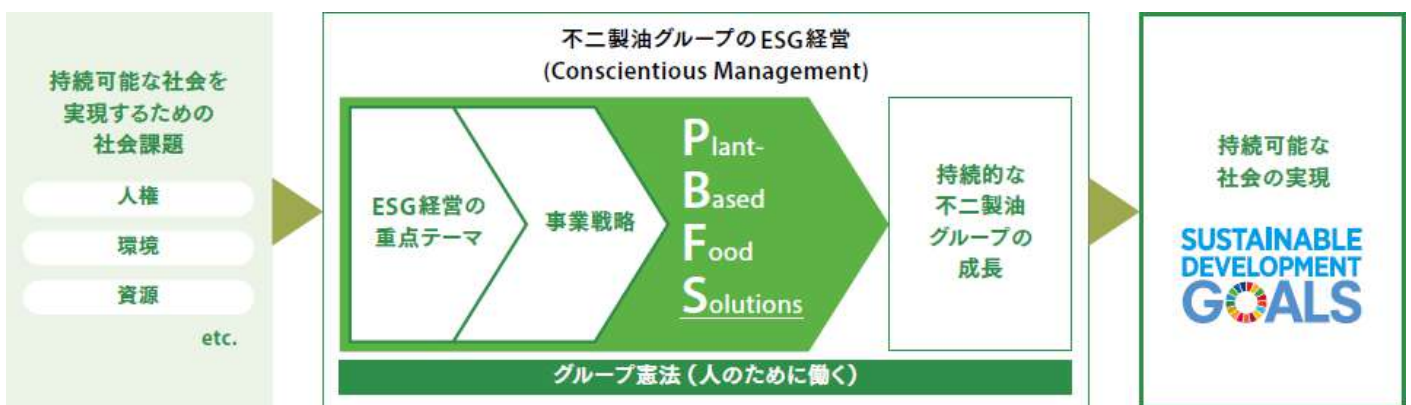
不二製油グループは、「不二製油グループ憲法<sup>※</sup>」に基づき、事業を通じた社会課題解決（Plant-Based Food Solutions）によって、持続的な当社グループの成長と持続可能な社会の実現の両方を追求する「ESG経営」を推進しています。企業が事業活動を通して持続可能な社会に貢献することを期待されている中で、当社グループにとってはこの「ESG経営」の推進がCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）を果たすことであると考えています。

「不二製油グループ憲法」とは、当社グループのミッション（私たちの使命）、ビジョン（私たちの目指す姿）、バリュー（私たちが行動する上で基本となる価値観）、プリンシプル（私たちの行動原則）を表明し、グループ全従業員と経営者が従うべき行動の原理原則を示したものです。その中で「バリュー」に掲げる「人のために働く」という言葉に象徴されるように、社会の一員として、社会から必要とされる会社であるように事業活動を展開することが、当社グループ憲法の中核的な考え方です。

「Plant-Based Food Solutions（PBFS）」は、事業活動を通して社会に提供する価値を表す言葉です。当社グループは、単なるモノづくり（製品の提供）ではなく、植物性の食素材によって社会課題を解決することを追求していくという意思を表明しています。

このPBFSを実現するための具体的なテーマとして、「ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）」を特定し、「中期経営計画 Towards a Further Leap 2020」を策定しています。

## 不二製油グループ経営概念図



※ 不二製油グループ憲法の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/constitution/>

## ESG経営推進のための4つの活動分野<sup>※</sup>

不二製油グループは、ESG経営推進に資する活動を下記4つの分野に分類・整理し、それぞれの活動指針を定めています。

※ 従来、「CSR活動4つのカテゴリー」として整理していましたが、2020年5月に「ESG経営推進のための4つの活動分野」として再整理しました。



| 活動分野                        | 活動指針   |   |
|-----------------------------|--|---|
| 1. ポジティブ・インパクト<br>(正の影響)の創出 | 事業活動を通じて社会課題の解決に寄与する   | <b>事業活動<br/>そのもので<br/>推進する</b><br>(特に注力すべき<br>テーマをESG経営の<br>重点テーマとして特定) |
| 2. ネガティブ・インパクト<br>(負の影響)の低減 | 事業活動が社会に及ぼし得る負の影響を<br>低減・是正する                                      |   |
| 3. 社会貢献活動                   | 良き企業市民として、地域社会の発展に<br>貢献する   |   |
| 4. ステークホルダーとの<br>コミュニケーション  | 1~3の活動について、透明性をもって、<br>ステークホルダーに対し誠実にコミュニケーション<br>を行い、懸念や期待の把握に努める |   |

## ESG経営推進の仕組み

### 推進体制

「CSRは経営そのもの」という考えに基づき、グループ全体でESG経営を推進しています。

ESGに関してステークホルダーの期待に応えるESG経営を強化する目的で、不二製油グループ本社取締役会の諮問機関として「ESG委員会」を設置しています。ESG委員会は、年2回以上開催し、不二製油グループがCSRを果たし続けるための課題や目標・戦略の審議やESG経営・重点テーマの進捗状況のレビューを行います。同委員会には有識者をアドバイザーとしてお招きし、社会の視点を取り入れるようにしています。その結果については、同委員会の開催都度、取締役会に対して報告し、取締役会のレビューを受けています。C“ESG”Oが同委員会の委員長を担っています。

ESG経営の推進を強化するために、2019年4月より、不二製油グループ本社に最高ESG経営責任者（C“ESG”O）を設置しました。取締役を兼務するC“ESG”Oは、「持続的な企業価値向上」と「社会の持続可能な発展」との両立を図るため、取締役会と連携しながらESG経営を統括し、ステークホルダーの期待に応える役割を担います。ESG経営推進の専任部門として、C“ESG”OのもとにESG経営グループを設置しています。社会とのコミュニケーションを通してステークホルダーの期待や懸念を把握し、当社グループの事業活動へ取り込む役割を担います。ステークホルダーからのフィードバックは、ESG経営グループより、取締役会の諮問機関であるESG委員会へと報告され、ESG経営の重点テーマのレビューやその審議に役立てられています。

## 不二製油グループ本社株式会社 取締役会

諮問 ↓ ↑ 答申・審議結果の報告

### < ESG委員会 >

#### 体制

- 委員長：最高ESG経営責任者 (C“ESG”O)
- 委員：CEO、CFO、CAO、CTO、CSO
- アドバイザー：有識者1名

#### 機能

- 当社事業に関するESGテーマに関する検討および取締役会への答申
- ESG経営の重点テーマの特定に関する審議
- ESG経営の重点テーマの進捗状況のモニタリング

↑ 報告

### ESG経営の重点テーマ

テーマ毎に推進責任者を選定し、各社・各部門において推進

## 教育

従業員一人ひとりが業務を通じてESG経営を実践するため、不二製油グループ従業員に対して教育・啓発活動を進め、当社グループのESG経営の考え方や活動、および社会が当社グループに期待することを伝えています。社内報（日本語・英語・中国語）でのESG経営に関する連載や、国内グループ会社での「ESG経営」の研修実施、海外グループ会社における「グループ憲法とESG経営」の説明活動等を通して、ESG経営に関する社内理解の向上を図っています。また、社外有識者を招聘し、（執行を兼務する）取締役を含む役員や関係部門を対象として、ESGに関係するテーマおよび社会的動向について研修、講演会を実施しています。

## インセンティブ

不二製油グループでは、ESG活動の推進に貢献したグループ会社あるいは部門を年に1度表彰する制度として、ESG経営賞を設けています。

## トピックス：SDGsアイデア公募

不二製油グループでは、持続可能な社会について従業員が自ら考えるきっかけを提供するために、2019年7月にCEOおよびC“ESG”Oの主催で「SDGsアイデア公募」を実施しました。「これから不二製油グループはSDGsにどう貢献できるか？」というテーマに対し、合計218件のアイデアが寄せられました。その内容は、社内の意識向上のための活動や、寄付や団体参画などの社外に向けた活動、さらに設備・包装材・サプライチェーンなどの改善、新事業提案までさまざまでした。応募されたアイデアは全てCEO、C“ESG”Oが審査し、そのうち10件が表彰されました。応募者からは「会社や社会が目指す方向に沿いながら、目の前のお客様のために自分がどうアプローチすれば良いのか、考えを深めるきっかけになりました。」といった声が寄せられました。



CEOとC“ESG”Oによる選考会



SDGsアイデア公募受賞者

## サステナビリティ

# ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）

## ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）の特定

### 考え方

不二製油グループは、事業活動を通じて、「社会の持続可能な発展への貢献」と「自社の持続的な成長・社会への価値創造」をともに実現するために、「ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）」を定めています。「ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）」は、ESG経営推進のための4つの活動分野※のうち、事業活動を通じた「1.ポジティブ・インパクト（正の影響）の創出」あるいは「2.ネガティブ・インパクト（負の影響）の低減」に寄与します。

※ ESG経営推進のための4つの活動分野の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

### 2020年度 ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）

2020年度のESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）は以下の通りです。各ESG経営の重点テーマに対する考え方や目標、取り組み状況等は「詳細ページ」をご参照ください。

| カテゴリ                                 | 重点領域          | ESG経営の重点テーマ※     | 管掌CxO | 詳細ページ   |
|--------------------------------------|---------------|------------------|-------|---|
| 不二製油グループの事業特性を活かし、業界を牽引する取り組みを創出する領域 | 食の創造          | 食資源不足へのソリューション提供 | CTO   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food_resources/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food_resources/</a> |
|                                      |               | 糖の摂取過多への対応       |       | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/carbohydrate/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/carbohydrate/</a>     |
|                                      |               | トランス脂肪酸含有量の低減    |       | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/trans_fats/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/trans_fats/</a>         |
|                                      | サステナブル調達（主原料） | パーム油のサステナブル調達    | CSO   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/</a>   |



| カテゴリ             | 重点領域           | ESG経営の重点テーマ※          | 管掌CxO   | 詳細ページ   |
|------------------|----------------|-----------------------|---|---|
|                  |                | カカオのサステナブル調達          |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/</a>                                       |
|                  |                | 大豆のサステナブル調達（GMO問題含む）  |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/soy/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/soy/</a>   |
| 事業活動の基盤として取り組む領域 | 食の安全・安心・品質     | 食の安全と品質の徹底            | C“ESG”O   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food_quality/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/food_quality/</a>                                   |
|                  | 労働安全衛生         | 労働安全衛生の推進             |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/safety/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/safety/</a>   |
|                  | 気候変動           | CO <sub>2</sub> の排出削減 |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/co2/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/co2/</a>   |
|                  | 水資源の保全         | 水使用量の削減               |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/water/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/water/</a>                                       |
|                  | 省資源化と廃棄物の削減    | 廃棄物の削減                |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/waste/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/waste/</a>                                       |
|                  |                | 包装材の削減（プラスチックゴミ問題含む）  | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/packaging_materials/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/packaging_materials/</a> |   |
|                  | フードロスの削減       | フードロスの削減              | CTO   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/food_loss/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/food_loss/</a>                               |
|                  | 環境にやさしいものづくり   | 環境負荷の低い製法の開発          |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/research_and_development/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/research_and_development/</a> |
|                  | ダイバーシティ        | ダイバーシティ経営の実践          | CAO   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/social/diversity/">https://www.fujioilholdings.com/csr/social/diversity/</a>   |
|                  | リスクマネジメント      | 実効性のあるリスクマネジメント       | C“ESG”O   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/">https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/</a>   |
| 情報セキュリティマネジメント   |                | CFO                   |   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/#information">https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/#information</a>                   |
| ガバナンス            | グループガバナンス      | CSO                   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/group_governance/">https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/group_governance/</a>         |   |
|                  | コーポレートガバナンスの向上 | CAO                   | <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/corporate_governance/">https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/corporate_governance/</a> |   |

※ 2020年度重点テーマと、2019年度重点テーマの相違点は以下の通りです。

- 2020年度重点テーマとして、「糖の摂取過多への対応」「トランス脂肪酸含有量の低減」「包装材の削減（プラスチックゴミ問題含む）」「フードロスの削減」の4件のテーマが新規で特定されました。その他15件のテーマは、2019年度からの継続です。

- 2019年度重点テーマとして特定され、2020年度に重点テーマから除外したテーマは0件です。

## 2020年度ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）特定プロセス

不二製油グループでは、年1回マテリアリティのレビュー・特定を行っています。新たな社会課題など、ステークホルダーとの対話の結果当社に寄せられた助言に基づき、2020年度に取り組む「ESG経営の重点テーマ」を特定しました。特定に際しては、マテリアリティマップをもとにESG委員会での審議を行い、取締役会の承認を得ました。マテリアリティマップについては、ステークホルダーの皆様によりご理解いただきやすくする目的で、2020年度より類似する課題をグループ化し、マテリアリティマップ上で評価しています。従来のマテリアリティマップにプロットされていた課題は、すべて2020年度マテリアリティマップに包含されています。

## 2020年度ESG経営の重点テーマ（マテリアリティ）特定プロセス



## マテリアリティマップ

|                  |   |   |  |  |
|------------------|---|---|--|--|
| ステークホルダーの<br>関心度 | 高 | 重点領域（ESG委員会で取り扱いグループレベルで対応）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードロスの削減</li> <li>・環境にやさしいものづくり</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の創造</li> <li>・サステナブル調達（主原料）*</li> <li>・食の安全・安心・品質</li> <li>・労働安全衛生</li> <li>・気候変動</li> <li>・水資源の保全</li> <li>・省資源化と廃棄物の削減</li> <li>・ダイバーシティ</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・ガバナンス</li> </ul> |
|                  | 中 | ・雇用における人権(自社)   |  |  |
|                  | 低 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナブル調達（主原料以外）</li> <li>・コミュニティとの共生</li> </ul> | 基本領域（関連する各社・各部門で対応）  | ・人材育成  |
|                  |   | 低   | 中  | 高  |

**事業戦略上の重要度**

※ サステナブル調達の重要な観点に生物多様性も包含されています。

## サステナビリティ

# ステークホルダーエンゲージメント

## 不二製油グループのステークホルダー

当社グループは、事業活動が正・負の影響を及ぼし得る主要なステークホルダーを以下の通り特定しています。

| 主要なステークホルダー | コミュニケーション（頻度）  |
|-------------|--|
| 従業員         | <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員研修（随時）</li> <li>コンプライアンス通報窓口（随時）</li> <li>従業員満足度アンケート（隔年）</li> <li>イントラネット／社内報（随時） など</li> </ul> |
| 株主・投資家      | <ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会（年1回）</li> <li>決算説明会／電話会議（随時）</li> <li>スモールミーティング（随時）</li> <li>個別ミーティング（随時） など</li> </ul>       |
| 顧客          | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の営業活動（随時） など</li> </ul>   |
| 消費者         | <ul style="list-style-type: none"> <li>マスメディアを通じた情報発信（随時） など</li> </ul>  |
| 取引先／業務委託先   | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の購買活動／取引（随時）</li> <li>サプライヤーエンゲージメント（随時）</li> <li>調達方針に関する個別説明（随時） など</li> </ul>                  |
| 地域社会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域イベントへの参画・協賛（随時）</li> <li>地域社会への貢献活動（食育プロジェクト：随時）</li> <li>自然災害時の支援（随時） など</li> </ul>              |

| 主要なステークホルダー | コミュニケーション（頻度）  |
|-------------|--|
| NGO・NPO／有識者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>有識者ダイアログ（随時）</li> <li>グリーンバンスメカニズム（随時）</li> <li>協働プロジェクトの推進（随時） など</li> </ul> |
| 学術機関        | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究（随時）</li> <li>講演（随時） など</li> </ul>  |

## ステークホルダーとの対話

不二製油グループが社会の一員として、ステークホルダーとの対話を通して当社グループに対する懸念や期待を把握することは、ESG経営のベースとなる重要な活動です。ステークホルダーあるいは有識者との対話を通して、サステナビリティに関する当社グループへの期待やアドバイスを把握し、活動の改善に努めています。ステークホルダーとの対話の結果はマテリアリティの特定やサステナビリティレポートの制作といった活動にも役立てています。

| ステークホルダーからの意見・アドバイス（例）  | 当社の活動  |
|---|--|
| 2016年9月 ビジネスと人権指導原則を参考にすべき  | 2017年4月 人権方針の策定・人権デュー・ディリジェンスの導入                     |
| 2017年9月 重点テーマの特定プロセスを見える化すべき  | 2018年1月～4月 マテリアリティマップを使った重点テーマの見直し                   |
| 2017年11月 苦情処理メカニズムの構築を図るべき  | 2018年5月 苦情処理メカニズムの構築・公表                              |
| 2018年4月 パーム油苦情処理メカニズムの運用に際して、サプライチェーンの情報を開示すべき  | 2018年6月 搾油工場（ミル）リストの公表                               |
| 2019年 パーム油苦情処理メカニズムの運用に際して、以下を対応すべき <ul style="list-style-type: none"> <li>国連ビジネスと人権指導原則にのっとりプロセスを改善すべき</li> <li>グループレベルのグリーンバンスへの対応</li> </ul> | 2020年4月 左記を踏まえた改訂版グリーンバンスプロセスの公表                     |
| 2019年9月 糖分摂取過多が社会課題となる中で、不二製油グループのスタンスを開示すべき  | 2020年度マテリアリティとして「糖の摂取過多への対応」を特定し、サステナビリティレポートでの開示を開始 |



ステークホルダーとの対話として、「ビジネスと人権に関する有識者ダイアログ※」を設けています。本助言はその中でいただいたものです。

※ ダイアログの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human\\_rights/](https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human_rights/)

## 外部イニシアチブへの参画

ステークホルダーと協働して社会課題解決に貢献するために、外部イニシアチブに参画しています。

### 【参画・賛同している主要な外部イニシアチブ】

- 国連グローバル・コンパクト
- The Consumer Goods Forum
- RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil)
- Global Shea Alliance
- World Cocoa Foundation
- Science Based Targets イニシアチブ
- TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)
- JaSPON (Japan Sustainable Palm Oil Network)
- 開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォーム
- RTRS (Round Table on Responsible Soy)



不二製油グループは、2013年1月、国連グローバル・コンパクトに署名しました。人権・労働・環境・腐敗防止の4分野10原則を実践していくことで、当社グループだけでなく、社会全体の持続可能性向上への貢献を目指しています。

当社グループは国連グローバル・コンパクトに賛同し署名しています。

## 社会からの評価

2019年度は、以下の評価をいただきました。

| 分野            | 社会からの評価（一例）  |
|---------------|--|
| 社会とのコミュニケーション | 20年2月 GPIF発行レポート「改善度の高い統合報告書」に選出<br>20年2月 日経アニュアルリポートアワード 優秀賞受賞  |
| ESG全般         | 19年12月 MSCIジャパンESGセレクトリーダーズ構成銘柄入り  |
| 環境            | <div data-bbox="928 383 1114 568" data-label="Image"> </div> 20年2月 CDP森林「A」評価<br>20年1月 CDP気候変動「A-（マイナス）」評価<br>20年2月 CDP水「A-（マイナス）」評価 |
| 女性活躍          | 17年8月 日本 厚労省「プラチナくるみん」認定<br>19年12月 MSCI日本株女性活躍指数構成銘柄入り   |
| 健康経営          | 20年3月 日本 経産省「健康経営優良法人ホワイト500」認定  |

## サステナビリティ

# Environment (環境)

### 数字で見る環境への取り組み



搾油工場までのパーム油の  
トレーサビリティ  
(2019年度)

CO<sub>2</sub>排出量削減率  
(Scope 1&2、総量)  
(2019年度、2016年比)

水使用量削減率 (原単位)  
(2019年度、2016年比)

## マネジメント

### 環境マネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ 環境監査
- ▶ マネジメント認証の取得
- ▶ 教育
- ▶ インセンティブ
- ▶ 環境に関する重大な違反および措置
- ▶ 外部からの評価

### サステナブル調達マネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

# 重点領域の活動報告

## サステナブル調達（主原料）

### 重点テーマ

#### パーム油のサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### カカオのサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### 大豆のサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 環境にやさしいものづくり

### 重点テーマ

#### 環境負荷の低い製法の開発

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step

## 気候変動

### 重点テーマ

#### CO<sub>2</sub>の排出削減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 水資源の保全

### 重点テーマ

#### 水使用量の削減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み



## フードロスの削減

### 重点テーマ

#### フードロスの削減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 省資源化と廃棄物の削減

### 重点テーマ

#### 廃棄物の削減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### 包装材の削減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ Next Step

## 食の創造

### 重点テーマ

#### 食資源不足へのソリューション提供

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 基本領域の活動報告

#### シアナッツのサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 具体的な取り組み

# データブック

---

ESGデータブック  
(598KB)



## サステナビリティ

# 環境マネジメント

## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは食品素材メーカーとして、自社の操業とそのサプライチェーンにおいてCO<sub>2</sub>排出、水使用、廃棄物といった環境テーマに影響を及ぼし得ることを認識しています。環境に関連する各テーマと事業活動との関わりについては、各テーマのWEBページ※に掲載しています。

※ 環境関連テーマのWEBページの一覧は、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/>

### 考え方

近年、地球温暖化等の気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与え始めています。このような状況の中、不二製油グループは社会の一員として、国連のSDGsで提唱される「持続可能な社会」に貢献したいと考えています。経済的価値を創出するだけでなく、地球環境に配慮した事業活動に取り組むことが必要であると考えています。

不二製油グループは、以下4項目から成る「環境基本方針」を定めています。また、2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030」において、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出削減、水使用量削減、廃棄物削減に対するコミットメントを表明し、環境への取り組みを推進しています。また、気候変動が事業に及ぼす影響を認識し適切にステークホルダーの皆様に対して情報開示することが重要であると認識し、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に対する賛同を表明しています。

### 環境基本方針

1. 環境保全活動の継続的な改善に努める。
2. 環境関連の法およびその精神を順守する。
3. 環境に配慮した製品開発・技術開発に努める。
4. 社会とのコミュニケーションに努める。

## 推進体制

不二製油グループ本社ではESG経営を推進すべく、ESG委員会を取締役会の諮問機関として設置し、同委員会統括のもとで環境分野を含むESG活動を展開し、進捗・成果等を確認しています。その結果については、ESG経営のさらなる進展の審議に資すべく、定期的を取締役会に答申・報告されています。

また、ESG活動の推進のために、環境分野を含む「ESG経営の重点テーマ」を特定し、テーマごとに管掌役員※を定めています。

※各テーマの管掌役員については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/materiality/>

## 目標・実績

### 2030年目標

2030年を目標とした「環境ビジョン2030」を2018年度に策定しました。CO<sub>2</sub>排出量の削減に対する社会の期待のさらなる高まりを受け、2020年4月にCO<sub>2</sub>排出量の削減目標について見直しました。

### 2030年目標に対する進捗

|                                | 目標  | 2019年の実績         | 達成率※2 |
|--------------------------------|---|------------------|-------|
| CO <sub>2</sub> 排出量の削減（グループ全体） | スコープ1&2：2030年に総量で40%削減（基準年※対比）<br>スコープ3（カテゴリ1）：2030年に総量で18%削減（基準年※対比） | スコープ1&2<br>16%削減 | 40%   |
| 水使用量の削減（グループ全体）                | 2030年に原単位※3で20%削減（基準年※対比）   | 24%削減            | 100%  |
| 廃棄物量の削減（グループ全体）                | 2030年に原単位※4で10%削減（基準年※対比）   | 3%増加             | 0%    |
| 資源リサイクル（国内）                    | 2030年まで再資源化率99.8%以上を維持  | 99.33%           | 0%    |

※ 基準年：2016年

※2 2020年4月に環境目標を改訂し、CO<sub>2</sub>削減目標を24%から40%に見直したことから、新しい目標に対する達成率で記載しています。

※3 生産量あたりの水使用量

※4 生産量あたりの廃棄物量

## 環境監査

---

国内グループ会社では、ISO14001に基づく「外部審査」に加えて、各グループ会社の生産管理向上を目的として安全・品質・環境の「内部監査」を実施しています。2019年度は、ISO14001認証部署の95部署が「外部審査」および、「内部監査」を受審し、不適合が「外部審査」で1件、「内部監査」で1件、指摘されました。それらについては、原因追求し、適切な対応を行い是正処置を完了しました。

「内部監査」では、環境規程および環境関連法規制に基づく活動状況の確認に留まらず、なぜそれが重要なのかを説明しながら進めています。監査を通じて各グループ会社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言することにより環境保全活動の推進、改善・向上を図っています。

海外グループ会社では7社において「内部監査」を実施しました。国内グループ会社同様、監査を通じて各グループ会社の取り組みを検証、評価し、改善すべき点を助言することにより、環境保全活動の推進、改善・向上を図っています。

## マネジメント認証の取得

---

不二製油グループでは、法令の順守や環境保全活動を推進するために、環境マネジメントの国際規格であるISO14001：2015年版※の認証を取得しています。

生産拠点を有する国内グループ会社5社中、国内の最大生産量を担う不二製油（株）をはじめ、2社で取得しています。これら2社の生産量の国内グループ生産量に占める割合は約98%です。生産拠点を有する海外グループ会社は17社中5社で取得しています。これら5社の生産量の海外グループ生産量に占める割合は42%です。

※ 最新のISO14001取得状況の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/iso14001/>

## 教育

---

安全・品質・環境に関する専門知識を持つ戦略立案組織として、不二製油グループ本社に生産性推進グループを設置しています。生産性推進グループが定期的にグループ会社を訪問し、安全・品質・環境に関する教育や啓発活動を実施しています。2019年度は40%のグループ会社を対象に活動を実施しました。

また、海外グループ会社の経営層に対しては、テレビ会議を活用して環境ビジョン2030等の説明会を実施しています。

## インセンティブ

---

「環境」の分野を含め、ESGに関して優れた取り組みを行った部門・グループ会社を表彰する仕組みとしてESG経営賞を設けています。

## 環境に関する重大な違反および措置

---

2019年度は、不二製油グループにおいて環境分野に関する法令などの重大な違反はありませんでした。

## 外部からの評価

---

- CDP森林質問書2019 Aリスト
- CDP気候変動質問書2019 A-（マイナス）
- CDP水質問書2019 A -（マイナス）
- 三井住友信託銀行との「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約締結（世界初）
- DBJ（日本政策投資銀行）環境融資 最高評価
- 工場・事業所における省エネ定期報告書 省エネ優良事業者（Sクラス）（4年連続）



## サステナビリティ

# サステナブル調達マネジメント

## マネジメント情報



### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの基幹原料であるパームやカカオなどの農作物は、生産現場（農園）での環境・人権問題が社会的に懸念されています。また、製品供給の責任を果たすためにも、持続可能な方法で生産された、高品質で安全な原材料の安定的調達が重要だと考えます。

### 考え方

当社グループは社会的存在として、環境的・社会的・経済的に持続可能な調達活動を推進します。特に当社グループの主原料であるパーム油、カカオ、大豆については、それぞれの生産現場（農園）における環境問題や人権問題に対する社会的な懸念が大きいことから、主原料（パーム油、カカオ、大豆）のサステナブル調達について重点的に取り組みを推進しています。

### サステナブル調達に関連する各種方針とその対象範囲

| 方針名          | 対象範囲  | 掲載先   |
|--------------|---|---|
| 責任あるパーム油調達方針 | 不二製油グループが購入、取引、加工、販売するあらゆるパーム、パーム核油およびパーム由来原料のサプライヤーすべて | <a href="https://www.fujioilholdings.com/news/2016/_icsFiles/afieldfile/2018/01/12/160310.pdf">https://www.fujioilholdings.com/news/2016/_icsFiles/afieldfile/2018/01/12/160310.pdf</a>      |
| 責任あるカカオ豆調達方針 | 不二製油グループが購入、取引、加工、販売するあらゆるカカオ豆およびカカオ製品のサプライヤーすべて        | <a href="https://www.fujioilholdings.com/news/2018/_icsFiles/afieldfile/2018/08/07/180808_1.pdf">https://www.fujioilholdings.com/news/2018/_icsFiles/afieldfile/2018/08/07/180808_1.pdf</a>  |

| 方針名              | 対象範囲                                | 掲載先  |
|------------------|-------------------------------------|--|
| CSR調達ガイドライン（第2版） | 不二製油（株）、不二フレッシュフーズ、オーム乳業、トーラク※のお取引先 | <a href="https://www.fujioil.co.jp/news/2016/_icsFiles/afieldfile/2018/01/11/160405.pdf">https://www.fujioil.co.jp/news/2016/_icsFiles/afieldfile/2018/01/11/160405.pdf</a><br>□ |

※ 2020年7月1日付けでトーラク株式会社の全発行済み株式を譲渡いたしました。

## 推進体制

主原料（パーム油、カカオ、大豆）のサステナブル調達については、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、これらについてはESG経営の重点テーマとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 具体的な取り組み

### 主原料のサステナブル調達

不二製油グループの主原料である、パーム油、カカオ、大豆のサステナブル調達の取り組みの詳細については、以下のURLをご参照ください。

パーム油のサステナブル調達

▶ [https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm\\_oil/](https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/)

カカオのサステナブル調達

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/>

大豆のサステナブル調達


▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/soy/>

### CSR調達ガイドラインとサプライヤーアンケート

#### CSR調達ガイドライン

持続可能な調達のためにはお取引先様のご協力が重要であるという考えのもと、不二製油（株）、トーラク（株）※、フジフレッシュフーズ（株）、オーム乳業（株）の国内グループ会社4社のお取引先様へのお願い事項を「CSR調達ガイドライン（第2版）」として策定・公表しています。

※ 2020年7月1日付けでトーラク株式会社の全発行済み株式を譲渡いたしました。

▶ [CSR調達ガイドライン\(第2版\) PDF \(300KB\)](#) 

## ■ サプライヤー様とのCSR調達を意識したパートナーシップ構築

CSR調達ガイドライン（第2版）に基づいた調達の実現を目的に、お取引先であるメーカー様および商社様に対して、当社ガイドラインをご説明するとともに、アンケートを実施し、その結果を取引先の選定等に活用しています。

2019年度は社内理解の向上を目的とした「環境に配慮した包装材勉強会」を開催しました。また、主要サプライヤー様に対して、社会課題解決への活動をともに推進するパートナーシップの考え方をご説明する会合を2019年11月に開催し、101社の主要なお取引先に参加いただきました。この会合では、従来の「経済性」「技術」だけでなく社会の持続可能性の観点から経営を考える「サステナビリティ」を加えた3つの観点による「不二製油グループのESG経営」を説明し、SDGsへの貢献、環境への配慮並びに公正な取引への取り組みに向けた宣言をご理解いただきました。

サステナビリティ

パーム油のサステナブル調達

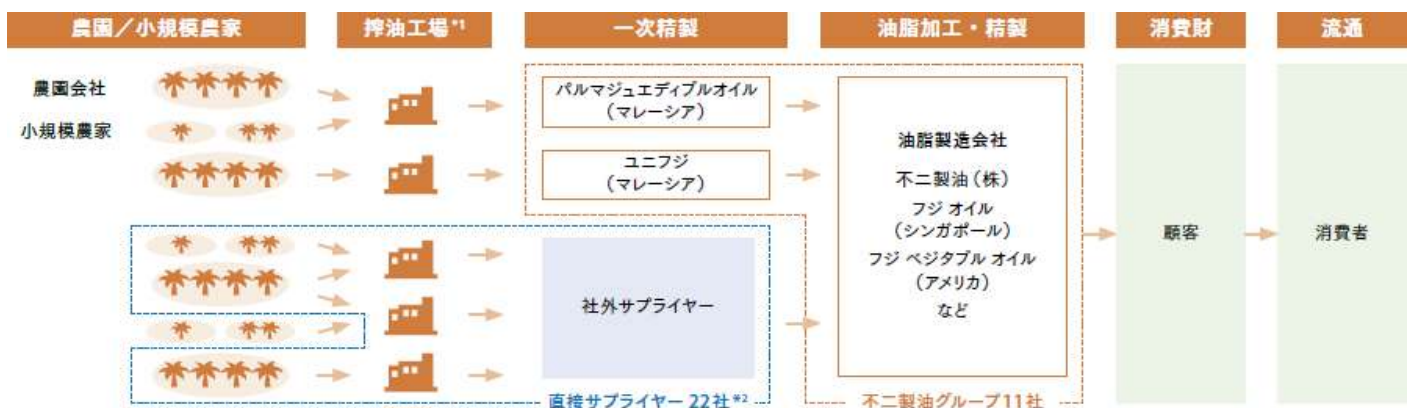
特に貢献を目指すSDGs



マネジメント情報

テーマと事業活動の関わり

パーム油は、東南アジアなどの熱帯地域に植生するアブラヤシから取れる油です。パーム油は、ほかの植物性油脂と比べて加工しやすく単位面積あたりの収穫量が大きいため、食品から化学品まで幅広く使われており、世界の植物性油脂原料の中で最大の生産量となりましたが、農園開発に起因する環境問題や児童労働・強制労働などの人権問題が危惧されています。不二製油グループは、主にマレーシアとインドネシア産のアブラヤシから取れるパーム油を調達し、基幹原料の一つとして植物性油脂事業等で使用しています。サプライヤーとの協業によるサプライチェーン上のリスク低減・是正に取り組むことで、パーム油のサステナブル調達に貢献します。



※1 2019年7月～12月の搾油工場リスト（ミルリスト）には、約1,300軒超の搾油工場を登録しています。

※2 2020年5月時点

## 考え方

### 責任あるパーム油調達方針

2016年3月、不二製油グループとして「責任あるパーム油調達方針」を策定し、公表しました。本方針では、人々と地球環境を尊重するサプライヤーから責任ある方法で生産されたパーム油を調達することを約束しています。当社グループは、ステークホルダーと協働して責任あるパーム油調達方針に即した調達に努めています。今後も、パーム油が持続可能な油脂原料として世界に受け入れられるよう、責任あるパーム油調達を推進していきます。

▶ 責任あるパーム油調達方針PDF (1.54MB) 

## 推進体制

パーム油のサステナブル調達については、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 搾油工場までのトレーサビリティ向上（2020年までに100%）
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）サプライチェーンにおける改善活動推進
- サプライチェーン上の問題（グリーバンス）への対応推進

### 2019年度実績

上記の目標に対する2019年度実績は以下の通りです。

- 搾油工場までのトレーサビリティ 100%
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤーに対するワークショップの開催（1回開催し、48社が参加）
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤー訪問を通じたエンゲージメント推進（4社訪問）
- 2020年3月末時点で101件のグリーバンス※ について対応（うち73件について、改善を確認、あるいは取引を停止し“Closed”）

※ グリーバンスへの最新の対応状況、詳細については、以下のURLの「Grievance List」をご参照ください。

## Next Step

今後も責任あるパーム油調達方針で表明する森林破壊ゼロ・泥炭地開発ゼロ・搾取ゼロの実現に向け、搾油工場までのトレーサビリティの向上やサプライチェーン改善活動などの取り組みを通して、不二製油グループとしてパーム油のサステナブル調達に取り組んでまいります。2020年6月には、パーム油サステナブル調達の「中長期目標」を策定しました。2020年度はこの中長期目標に基づき、搾油工場までのトレーサビリティ100%および農園までのトレーサビリティ60%（2019年度現在52%）を目指します。そのために、サプライチェーン改善活動やグリーンバンスメカニズム運営における「サスペンション（取引一時停止）&エンゲージメント プロトコル」の導入を推進する予定です。

## 中長期目標

2016年3月に責任あるパーム油調達方針を導入し、2020年に搾油工場までのトレーサビリティ100%を第一段階の目標として、トレーサビリティの向上やサプライチェーンの改善、サプライヤーとのエンゲージメントを推進してきました。2019年度の搾油工場までのトレーサビリティは100%に到達したことから、さらなるサプライチェーンマネジメント、そして責任あるパーム油調達方針の実現を目指し、新たに以下の中長期目標を策定しました。

- 2030年までにアブラヤシ農園までのトレーサビリティ100%
- 2025年までに労働慣行変革プログラム（LTP：Labor Transformation Program）を当社グループの一次精製会社であるパルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤーにおける実施率100%

※ 中長期目標の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/news/2020/1198316\\_2533.html](https://www.fujioilholdings.com/news/2020/1198316_2533.html)

## 具体的な取り組み

### 方針実現のための取り組み全体像

| 取り組み           | 目的                            |
|----------------|-------------------------------|
| 1.UNIFUJI      | サステナブルなパーム油の供給力強化             |
| 2.トレーサビリティの向上  | サプライチェーンの把握                   |
| 3.サプライチェーン改善活動 | サプライヤーとの協業によりサプライチェーン上のリスクを低減 |



| 取り組み           | 目的                     |
|----------------|------------------------|
| 4.グリーンバンスメカニズム | サプライチェーン上の問題の早期発見・改善   |
| 5.RSPO認証油の供給   | サステナブルな方法で生産されたパーム油の普及 |
| 6.学術機関・業界との連携  | 産業界全体での取り組み推進に貢献       |

## UNIFUJI (ユニフジ)

持続可能なパーム油調達を推進し、お客様や消費者に責任ある製品供給を果たすことは、不二製油グループの事業戦略上でも重要なテーマとして位置づけています。ユニフジは、持続可能なパーム油に対して志を共にするパートナーであるUNITED PLANTATIONS社との合併会社です。合併先のUNITED PLANTATIONS社は、世界で初めてRSPO認証油の生産を行った実績を持ち、農園労働者の人権や環境に配慮した持続可能な農園運営を行っています。2018年度に工場の稼働を開始したユニフジでは、UNITED PLANTATIONS社の農園から、高品質かつ持続可能なパーム油を調達し、当社グループの強みである分別技術をもとに、高付加価値のパーム油製品を生産・販売しています。2019年度のユニフジのRSPO認証油取扱量は約7万トンでした。ユニフジの工場は、UNITED PLANTATIONS社の農園内に位置し、バイオマスと排水からのエネルギーを利用しています。

## トレーサビリティの向上によるサプライチェーン把握

サプライチェーンを改善するためには、不二製油グループが購入・使用するパーム油について、どの地域で生産されたものなのかを特定する必要があると考えています。2020年までに、搾油工場までの完全なトレーサビリティ※を実現することを第1段階の目標とし、NPOのEarthworm Foundationにメンバーとして加盟し、サプライヤーとの協働で、トレーサビリティの向上に取り組んでいます。

不二製油グループでは、調達するパーム油の搾油工場までのトレーサビリティの進捗を、トレーサビリティスコア(%)により確認しています。同スコアは地域によって差があるものの、2019年下期においては当社グループとして100%を達成しました。これは、当社グループの調達先のサプライヤーとのコミュニケーションの継続的な強化に努めたことによるものと認識しています。2019年度下期の当社サプライチェーン上の搾油工場リスト※<sup>2</sup>には1,300軒超の搾油工場を登録しています。

※トレーサビリティ：食品の安全確保のため、生産履歴や流通経路を明らか(トレーサブル)にすること。その仕組み。

※<sup>2</sup> 搾油工場リストの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/pdf/en/csr/supplychain\\_database/h2\\_2019\\_mill\\_list.pdf](https://www.fujioilholdings.com/pdf/en/csr/supplychain_database/h2_2019_mill_list.pdf)



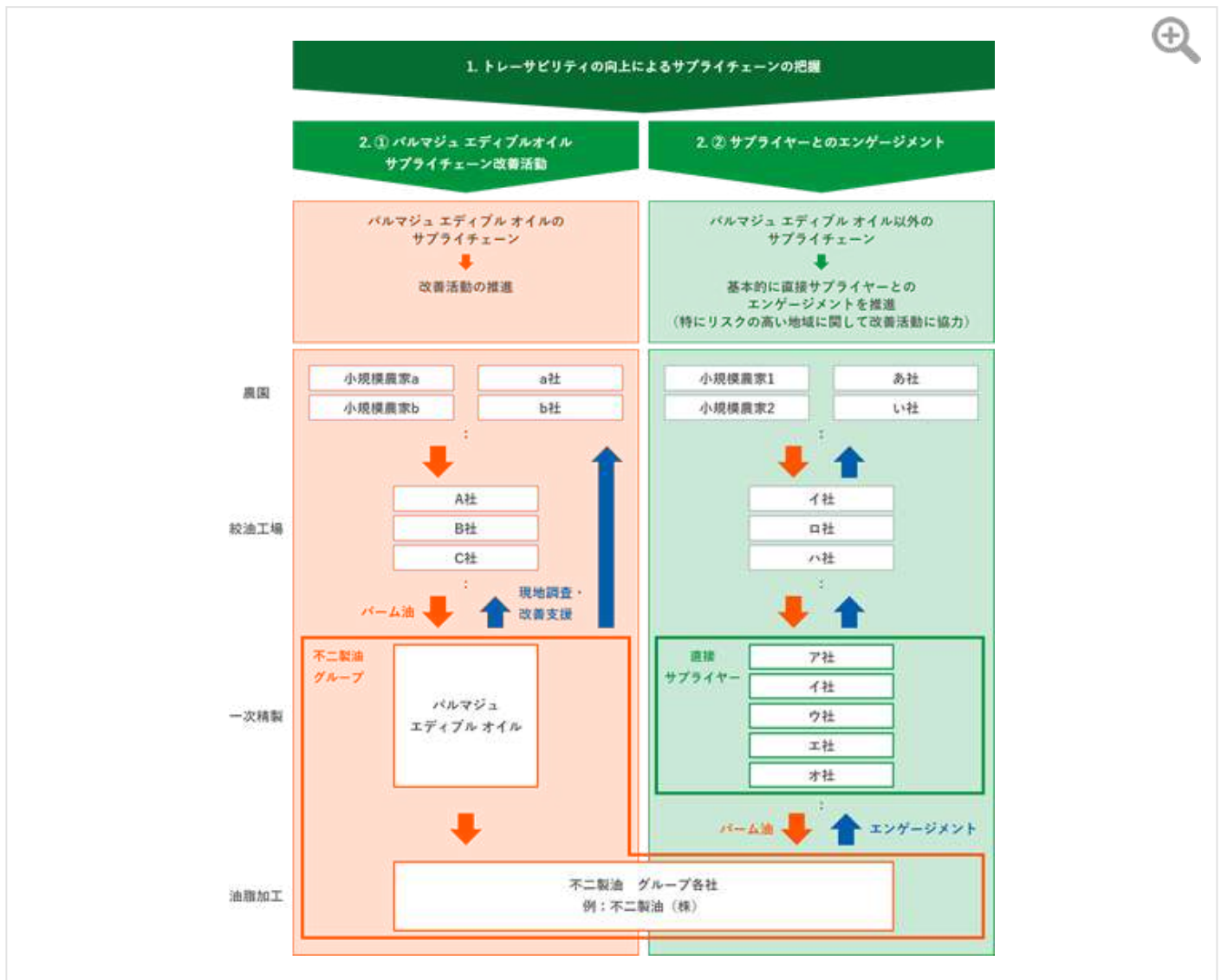
## サプライチェーン改善活動

調達方針に基づき、パーム油生産現場（農園）での環境・人権問題を解決するために、サプライチェーン改善活動を実施しています。不二製油グループでは、サプライチェーンを大別して以下①、②の2種類に整理し、それぞれ異なるアプローチで改善活動を推進しています。

① 当社グループの中で、サプライチェーン上でパーム油生産現場により近い位置にある一次精製会社「パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）」のサプライチェーンについては、農園や搾油工場に対する影響力を発揮しやすいことから、NPOや搾油工場と連携したフィールドワーク形式でのサプライチェーン改善活動を展開しています。

② パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）以外のサプライチェーンについては、基本的には直接サプライヤーとのエンゲージメント（積極的働きかけ）を推進することで、サプライチェーン改善を図ります。一部のサプライチェーンについては、サプライヤーとともに小規模農家支援などの改善活動を実施しています。

## サプライチェーン改善活動の全体像

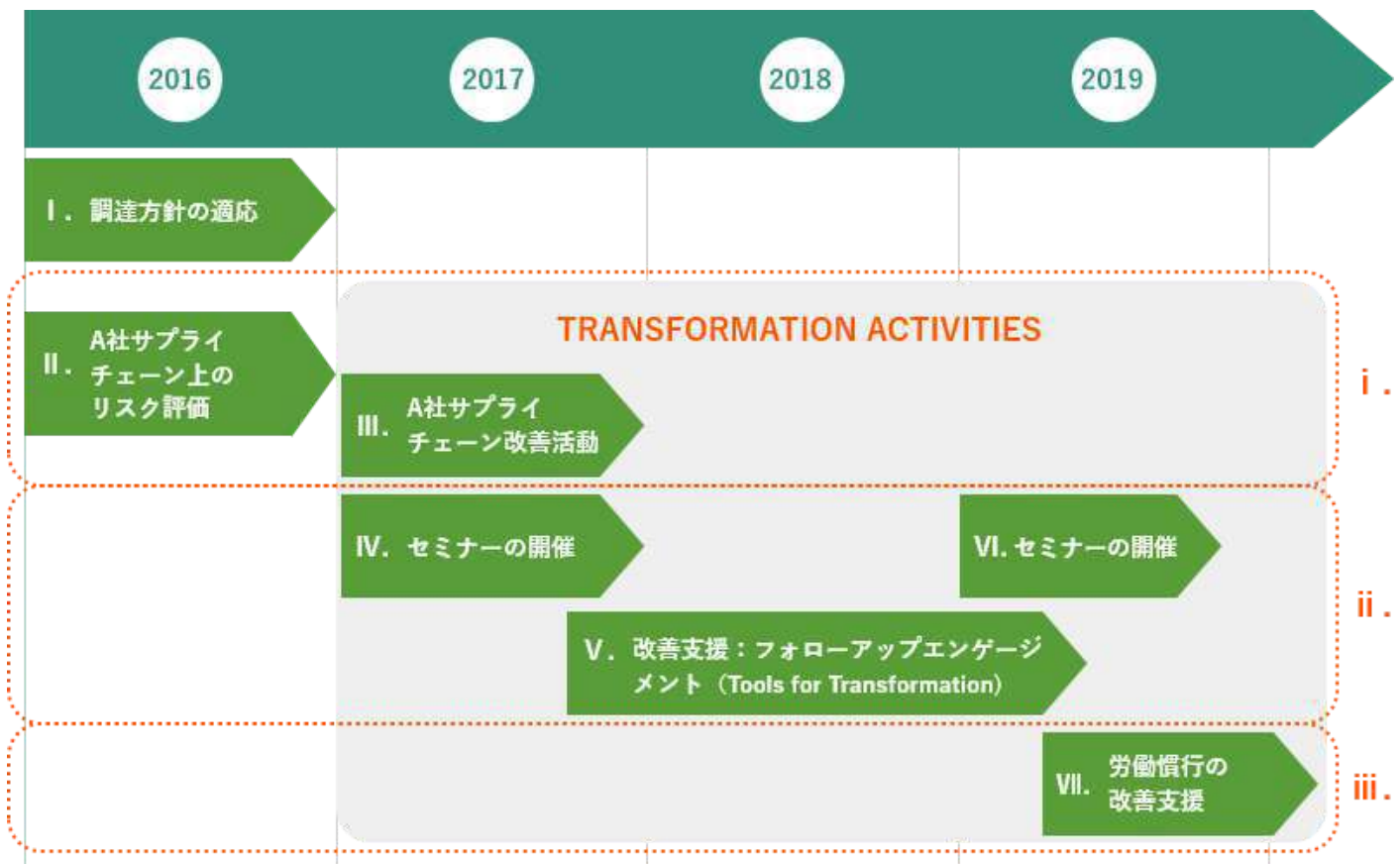


## ① パルマジュ エディブル オイル（マレーシア） サプライチェーン改善活動

不二製油グループのパルマジュ エディブル オイル（マレーシア）において、サプライチェーン改善活動として主に3種類の活動を推進しています。

- i. A社との改善活動：
- ii. A社以外のサプライヤーとの改善活動：
- iii. その他のエンゲージメント活動：

### 【パルマジュ エディブル オイル（マレーシア） サプライチェーン改善活動の概要】



### i. A社との改善活動：

サプライヤーのうち1社と、その搾油工場に関連するディーラーや農園の現地視察を行い、調達方針との適合性を評価し、課題の改善・是正を支援しました。支援の結果、2017年12月には、パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤーである搾油工場や農園で働く200名以上の移民労働者にパスポートが返却され、300名の移民労働者が彼らの理解できる言語で雇用契約書を締結することができました。この改善のノウハウは、後述の「ii. A社以外のサプライヤーとの改善活動※」に役立てられ、A社以外のサプライヤーに対しても横展開されています。

※ 改善活動の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.youtube.com/watch?v=sUWBgu07Tp8&feature=youtu.be> □

## ii. A社以外のサプライヤーとの改善活動：

A社以外のサプライヤーに対しても改善に向けた協働を進めています。

Earthworm Foundationが開発した「Tools for Transformationセルフアセスメント」ツールを用いて、パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のパーム油サプライヤー（搾油工場）に自己評価を行っていただいています。この自己評価を通して、当社の「責任あるパーム油調達方針」の要件であるNDPE※ とサプライヤーの事業慣行のギャップの把握を支援しています。

また、2019年には、以下の目的でサプライヤー向けのワークショップを開催しました。ワークショップには全48社のサプライヤーが参加しました。

- 2018年の「Tools for Transformationセルフアセスメント」のレビュー
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）サプライヤーへの「Tools for Transformationセルフアセスメント」の普及
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）の新規サプライヤーを対象とした第2弾の「Tools for Transformationセルフアセスメント」導入

※ NDPE：No Deforestation, No Peatland development, No Exploitationの略称。森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロを意味する。

## iii. その他のエンゲージメント活動：

「Tools for Transformationセルフアセスメント」を通して、特に労働慣行と基準を改善するための改善活動を強化する必要性が見えてきたため、当社グループは、訪問形式でのサプライヤーエンゲージメントを開始しました。実地訪問、改善支援、フォローアップ訪問を通して、以下の活動について取り組んでいます。

1. 労働者と人権に関する以下4領域に関する、パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤーにおける理解促進とキャパシティ・ビルディング※

- I. パスポート返却
- II. 倫理的雇用
- III. 雇用契約
- IV. 苦情処理メカニズム

2. 好事例の把握および現状の操業における課題の特定

3. 特定された課題を改善するための各社専用の支援活動の提供

※ キャパシティ・ビルディング：組織的能力を構築すること。

## ② サプライヤーとのエンゲージメント

不二製油グループのパーム油サプライチェーン全体を改善するためには、当社グループと直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントが肝要と考えています。エンゲージメントでは、当社グループの調達方針についてご理解いただくとともに、サプライチェーン上のリスクや、問題が発生した際のグリーンバンスメカニズムの連携について協議しています。

2019年度は、当社グループのすべてのパーム油直接サプライヤー（精製会社22社）に対して質問書を配布し、NDPE方針（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）の実現のための各サプライヤーにおける進捗を把握することができました。今後も継続して、直接取引のあるサプライヤーとのエンゲージメントを行い、リスク低減のための働きかけ・協業を進めていきます。

また、リスクが高いサプライチェーンについては、直接取引のあるサプライヤーと協働して、改善活動を行っています。2019年度は、インドネシアの「APTランドスケープイニシアチブ」とマレーシアの「小規模農家支援」の2つの改善活動に、サプライヤーとともに参画しました。

### ③ Landscape Approach※

搾油工場までのトレースを行った結果、インドネシアのスマトラ島のサプライチェーンにおいて、環境・生態系の観点から重要なエリアが森林破壊のリスクにさらされていることがわかりました。このリスクを低減・是正するために、当社グループは2018年度より「APT（Areal Prioritas Transformasi）ランドスケープイニシアチブ」に参画しています。

「APTランドスケープイニシアチブ」※<sup>2</sup>は、農園開発の脅威にさらされている、インドネシアの貴重な熱帯雨林の2地域（アチェ タミアン・南アチェ）を対象に、地元政府・NGO・企業・農園等のマルチステークホルダーが連携して活動を展開しています。これらの地域についてはパーム農園に限らず、NGOやコミュニティ・政府などのマルチステークホルダーが参画し、特定の地域全体で改善を図る手法（ランドスケープアプローチ）を用いて、以下の主要な目標に向かって取り組みを進めています。

- 計画のリーダーとしての地元政府の関与
- パーム油農園区域内での森林破壊停止の条件整備
- 小規模農家に代替の生計手段を提供し、コミュニティ単位で保全を強化することによる、パーム農園区域外でのパーム農園開発による森林破壊の予防
- 搾油工場および農園による、NDPE方針促進のための現状の取り組み強化

2019年には現地での集会に参加し、現地調査、タスクフォースの形成、複数の政府機関や地域社会等との行動計画策定などを実施しました。

このAPTランドスケープイニシアチブは現在、農園開発の脅威にさらされている、インドネシアの貴重な熱帯雨林3つの地域を対象に展開されています。このうちの2つの地域は、オランウータンやトラ、ゾウやサイなどが共存する最後の土地と言われ、アチェ州に所在しています。

※ Landscape Approach：特定した地域について、パーム農園に限らずNGOやコミュニティ・政府などのマルチステークホルダーが参画し、地域全体で改善を図るアプローチ。

※<sup>2</sup> 「APTランドスケープイニシアチブ」活動の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.earthworm.org/our-work/projects/aceh-tamiang-sumatra-indonesia> 

### ④ マレーシア・サバ州での小規模農家支援活動

パーム農園における環境・人権問題の要因の一つとして、小規模農家による生産性の低い農園運営が指摘されています。小規模農家が環境的・社会的・経済的に持続可能な農園運営のノウハウを得られるよう、不二製油グループは2016年1月、サプライヤーとWild Asia（NGO）による小規模農



家支援プロジェクト（WAGS：Wild Asia Group Scheme）に参画しました。本プロジェクトでは、当社グループのサプライチェーンの一部の小規模農家における生産性向上と労働環境改善を目指し、4年間の教育支援を行いました。

2016年1月に当社グループがWAGSに参画して以降2019年12月末に至るまで、支援先地域の認証取得農家は累計で191軒増加し、58,007トンの認証パーム油が生産されました。

小規模農家によるRSPO認証の取得は、小規模農家が人権・環境に配慮したパーム油生産を行えるようになったことを意味しています。また、小規模農家からは「購入する農薬量が減少し、コストカットにつながった」「生産性が向上し単位面積当たりの収穫量が大幅に向上した」とコメントを得ています。2020年度も現地との対話を重視し、支援を継続していきます。



2019年11月の支援先農家訪問

© 不二製油グループ本社株式会社

## グリーンバンス（苦情処理）メカニズム

「責任あるパーム油調達方針」を実現する目的で、2018年5月にグリーンバンスメカニズムを構築・公表しました。このグリーンバンスメカニズムは、ステークホルダーから不二製油グループに提起されたサプライチェーン上の環境・人権問題について、「責任あるパーム油調達方針」に基づいて直接サプライヤーとのエンゲージメントを行い、問題を改善する仕組みです。透明性を持ってグリーンバンスに対応するために「不二製油グループ グリーンバンスWEBページ（英語）」を設置しています。本ウェブサイトにおいて、少なくとも四半期に一度受け付けたグリーンバンス（苦情）への対応状況を更新し、ステークホルダーの皆様への情報開示に努めています。

※ グリーンバンスの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance\\_mechanism/](https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/)

2019年度は、グリーンバンスメカニズムを運用して得た経験とNGOやサプライヤーからのフィードバックを活かし、以下の2点に取り組みました。

### ① グリーンバンスプロシージャの改訂

サプライチェーン上の問題への対応の効率化および実効性向上を目的に、主に以下の観点でグリーンバンスプロシージャを改訂・公表しました。

<改訂のポイント>

- グリーンバンスとして指摘を受けた企業が、RSPOのメンバー規定における“グループ”に含まれるメンバーであれば、弊社のサプライチェーン上に関わりがなくとも、エンゲージを行います。



- 新たにサスペンド&エンゲージ プロトコル(一時停止・積極的関与手順)を導入し、直接・間接的に関わらずすべてのサプライチェーン上のサプライヤーに対して取り組みの強化を図ります。
- それぞれのグリーンバンスにおけるプロセスをより明確化しました。

## ② 対話・救済ガイドライン策定への参画

企業と社会の建設的な対話の促進、苦情処理・問題解決制度の強化および救済へのアクセスの確保を目的に、国連グローバルコンパクト・ネットワーク・ジャパンおよびBusiness & Human Rights Lawyers Networkを幹事協力団体とした「責任あるサプライチェーン研究会」によって、2019年12月に「対話・救済ガイドライン」が作成されました。同ガイドラインの策定には、不二製油グループも参画しました。

※ 「対話・救済ガイドライン」の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.bhrlawyers.org/erguidelines> 

## RSPO認証油の取り扱い

パーム油の持続可能な生産・消費体系を構築する趣旨に賛同し、不二製油グループは2004年より、RSPO※ に加盟し、認証油の取り扱いを進めてきました。RSPO認証油の需要は欧州・米国を中心に高まっており、2019年、当社グループの認証油取扱量は約19万トンで、これは、当社グループのパーム油取扱総量の約24%です。認証油の要望に対応するため、サプライチェーン認証取得など※<sup>2</sup> に積極的に取り組んでいます。



※ RSPO : Round Table on Sustainable Palm Oilの略。持続可能なパーム油のための円卓会議。

※<sup>2</sup> 私たちの進捗状況を [www.rspo.org/](http://www.rspo.org/)  でチェックしてください。

## 学術機関・政府・業界との協働

### ① 育種研究による生産性向上

パーム油の消費量が世界的に拡大する一方、アブラヤシの栽培に適した地域は非常に限られていることから、アブラヤシの品種改良によって生産性と品質を高め、単位面積当たりの収穫率を向上させていくことが求められています。不二製油グループでは、世界最大のパーム油生産国であるインドネシアの研究機関、インドネシア技術評価応用庁（Badan Pengkajian dan Penerapan Teknologi : BPPT）と「パームの生産性の向上および高品質化に向けた共同研究」を2011年より実施しています。これまで、アブラヤシの優良苗の生産や品種改良につながる組織培養技術の大幅な改良に成功するなど、インドネシアでのパーム研究の発展に寄与しています。今後も、パーム油産業の発展に貢献していくとともに、パーム農園の拡大に伴う熱帯雨林の減少などの地球環境問題の改善を図り、持続可能なパーム油生産に貢献していきたいと考えています。



育種研究が進められているBPPTバイオテクノロジー研究所



パームの組織培養の様子

## ② The Consumer Goods Forum Japan Sustainability Local Group パーム油ワーキンググループ

不二製油グループは、消費財の国際的な業界団体であるThe Consumer Goods Forum (TCGF) のJapan Sustainability Local Groupの一つである「パーム油ワーキンググループ」に、2017年度の設立当初から参画しています。

## ③ Japan Sustainable Palm Oil Network

不二製油グループ本社は、持続可能なパーム油の調達と消費を日本の産業界全体に促す趣旨に賛同し、2019年度よりJapan Sustainable Palm Oil Networkに正会員として加盟しています。

### トピックス「子どもたちへの教育・啓発」

サステナブル調達を推進するためには、消費者・市場に対する働きかけが重要なテーマの一つとなります。当社は、次代を担う学生への教育が重要であると考え、NPOのThink the Earthによる、「SDGs for school」※の出前授業に賛同し、その授業で使用するチョコレートの協賛を通して、学生に持続可能なパーム油、ひいては持続可能な社会について考えていただく機会の提供に努めています。

※ SDGs for schoolの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/social/community/>

サステナビリティ

カカオのサステナブル調達

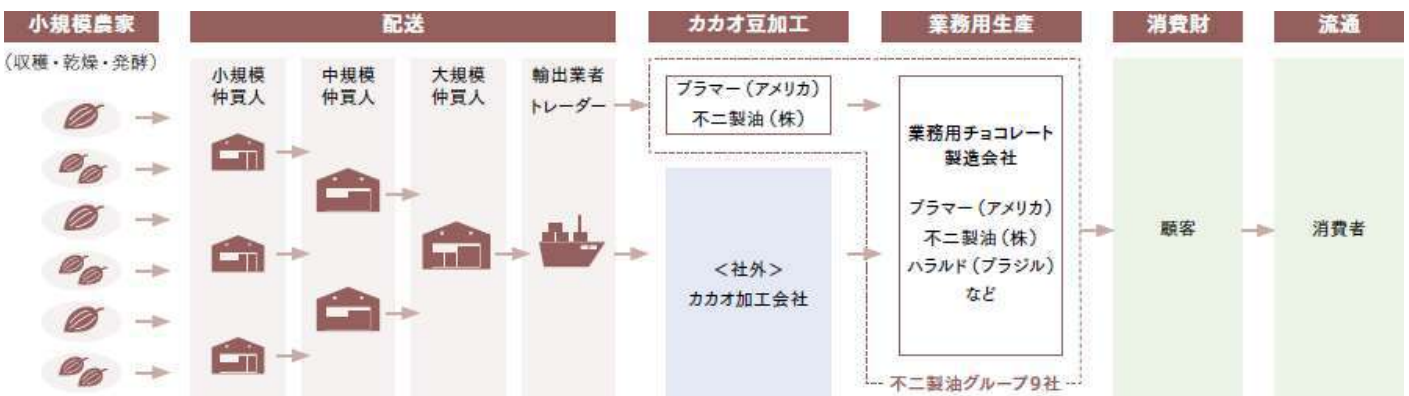
特に貢献を目指すSDGs



マネジメント情報

テーマと事業活動の関わり

不二製油グループでは業務用チョコレート事業の原料として、カカオを使用しています。カカオの生産国における農家の離農や高齢化、カカオツリーの老齢化、気候変動による生産地への影響、知識や資材不足による生産効率の低さといった供給面の問題から、将来的な需給のひっ迫が懸念されています。さらに、小規模農家が大半を占めるカカオ農家の貧困や児童労働、森林破壊、土壌汚染など、複雑に絡み合った人権および環境面での問題が指摘されています。このような背景を踏まえ、カカオ農家の支援等に取り組むことで、カカオのサステナブル調達に貢献できると認識しています。



## 考え方

業務用チョコレート事業は、不二製油グループのコアコンピタンスの一角であり、ココアリカー※・ココアバター※<sup>2</sup>・ココアパウダー※<sup>3</sup>等のカカオ由来原料は当社グループにとって基幹原料の一つです。当社グループが将来にわたり、持続可能なカカオを使用した製品を通じて食の喜びを届け続けるため、2018年8月に「不二製油グループ 責任あるカカオ豆調達方針」を策定しました。本方針に基づいて、持続可能なカカオ原料の調達活動を行うことを目指しています。

※ ココアリカー：チョコレート・ココアの製造工場の用語で、カカオ豆から外皮を取り除いて磨砕して出来るペースト状のもの。

※<sup>2</sup> ココアバター：カカオ豆を搾油して得られる植物油脂。

※<sup>3</sup> ココアパウダー：カカオ豆からココアバターを搾油した後のものを粉砕し粉状にしたもの。

▶ [責任あるカカオ豆調達方針PDF \(166KB\)](#) 

## 推進体制

カカオのサステナブル調達については、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- エクアドルの支援先カカオ農家における単位面積当たりの収穫量増加

### 2019年度実績

上記の目標に対する2019年度実績は 単位面積当たりの収穫量 5%増 です。  
これは農業技術支援活動による取り組みが寄与した結果です。

## Next Step

2020年6月に、責任あるカカオ豆調達方針実現のための「中長期目標」を設定しました。この中長期目標に基づき、農家支援などの取り組みを通して、不二製油グループとしてカカオのサステナブル調達に取り組んでまいります。2020年度はガーナにおける児童労働撲滅に向けた新たなカカオ農家支援プログラムの開始を予定しています。



## 中長期目標

2018年8月に責任あるカカオ豆調達方針を策定し、カカオ農家支援活動などを推進してきました。2019年1月にはカカオのサステナブル調達の先駆者であり、本分野での優れたノウハウと経験を持つブラマー チョコレート カンパニー（米国）が不二製油グループの一員に加わり、2019年度には責任あるカカオ豆調達方針の実現に向けた強力な体制を整えることができました。2020年度以降、不二製油グループ一丸となってカカオのサステナブル調達を推進するために、新たに以下の目標を策定しました。この策定においては、SDGsの目標8.7など国際社会の目指す姿からのバックキャストの考え方を取り入れました。

- 2030年までにカカオ豆・カカオ製品のサプライチェーン上における児童労働を根絶するため、2025年までにILOの定める「最悪の形態の児童労働」（WFCL= Worst Forms of Child Labor）をゼロ
- 2030年までにカカオ農園に対して100万本植樹※

中長期目標の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/news/2020/1198316\\_2533.html](https://www.fujioilholdings.com/news/2020/1198316_2533.html)

※ 100万本 植樹：森林への負の影響を低減し、生態系と共存するカカオ農業の実践として、既存のカカオ農園にShade Trees（緑陰樹）等を植えていきます。当社グループはWorld Cocoa Foundation（世界カカオ財団）の主導するCocoa & Forest Initiativeに賛同し、このイニシアチブに資する活動として取り組んでまいります。

## 具体的な取り組み

### コミュニティ支援プログラム

#### コートジボワール

カカオの最大の生産国であるコートジボワールにおいて、ブラマー チョコレート カンパニー（米国）では持続可能なカカオ調達のためのプログラムを複数展開してきました。

具体的には、72農協、41,000農家、1,000農村を対象に、以下の取り組みを行ってきました。

- 児童労働撲滅に向けた取り組み
- 農家の所得水準向上のための各種支援
- 女性の社会的地位の改善のためのプログラム
- トレーサビリティの確立
- 森林破壊の抑制と植林活動
- 地域コミュニティのインフラ（学校・病院・井戸など）の支援

これらの取り組みは不二製油グループの調達方針の実現に寄与するものであり、2019年にブラマー チョコレート カンパニー（米国）が不二製油グループの一員となって以降も継続して推進しています。

今後は、これらの取り組みを通してブラマー チョコレート カンパニー（米国）が長年にわたり構築してきた経験や手法を生かしながら、当社グループ全体で、取り組みの更なる強化を図ってまいります。

ブラマー チョコレート カンパニー（米国）が参画している世界カカオ財団のプログラムについては、本ページ下部「世界カカオ財団への参画」をご参照ください。

## ガーナ

カカオ豆の主要原産国の一つに、アフリカのガーナがあります。不二製油（株）は、2014年以降、カカオ豆購入代金の一部を利用し、ガーナのサプライチェーン上のコミュニティ支援を継続して行っています。これまでに、支援先コミュニティにおいて、「井戸の建設（2014年）」および「収穫率の改善のための研究（2016年～）」「収穫率改善研究の結果に基づく農業指導（2018年）」を行ってきました。

収穫率向上のための研究として、2016年から2018年にかけて、モデル農園を選定し、異なる条件で育成したカカオの収穫量を研究してきました。研究によって、モデル農園の収穫量は、2017年10-12月は前年同時期と比較し、18%の増加となりました。2018年2月からは、研究結果の横展開の目的で、モデル農園近隣エリアのカカオ農家を対象とした、「農園の管理方法」、「農薬の管理方法」などの農業指導を実施しました。2019年度には本コミュニティにおける環境保全の推進のプログラムを検討し、2020年度には、コミュニティのインフラ整備拡充に役立つ活動を予定しています。

また、2019年度には、上記の支援先とは別のコミュニティにおいてガーナ産のトレーサブルカカオ豆の購入を開始しました。この購入代金の一部は、生産者であるカカオ農家コミュニティに還元され、農家の収入向上に役立てられています。

今後も、カカオ豆の持続可能な生産・消費体系構築を目指し、生産者の支援を継続していきます。



農業指導の様子

## エクアドル

責任あるカカオ豆調達方針に基づき、2018年12月より、エクアドルでの小規模カカオ農家支援活動を当社グループの直接サプライヤーとともに開始しました。農業支援を通して、生産性の向上・カカオ豆の品質向上・農家およびコミュニティの生活水準の向上を目指します。現在、支援プログラムでは68農家に対して、当社の直接サプライヤーが農園管理方法や土壌管理、収穫後のプロセス（発酵作業など）に関するトレーニングを行っています。カカオ豆は土壌管理・生産および収穫後のプロセスが品質を大きく左右する原料です。農業支援プログラ



ムを通して、2019年度は支援先農家の単位面積当たりの収穫量が5%向上しました。このことによって、農家の収入向上が期待されます。また、現地にて風味研究を行うことで、カカオ豆の品質改善を図っていきます。



土壌やカカオに負荷の低いオーガニックな虫除けスプレーをつくるための技術指導の様子

## 学術機関・政府・業界との協働

### 世界カカオ財団（WCF）への参画

不二製油グループは2012年より、世界カカオ財団へ加盟しています。世界カカオ財団は、農家が栄え、カカオ生産者コミュニティが活力を持ち、人権が尊重され、環境が保全されるようなカカオ産業の持続可能な繁栄を目指している、メンバー制の国際的なNPOです。

ブラマー チョコレート カンパニー（米国）は世界カカオ財団の設立メンバーであり、現在も世界カカオ財団の理事として参画しています。ブラマーは「African Cocoa Initiative（アフリカカカオイニシアチブ）」や「Cocoa Livelihoods Program（カカオ生計プログラム）」、「Cocoa Action（カカオアクション）」、「the Cocoa and Forests Initiative（カカオ&森林イニシアチブ）」といった世界カカオ財団の主力プログラムへの参画を通して、リーダーシップを発揮しています。新型コロナウイルス（COVID-19）への対応として、ブラマーは業界の他社とともに、世界カカオ財団の基金に協賛しています。この基金は、カカオ農家コミュニティが新型コロナウイルス（COVID-19）対策を講じるために必要となる物資の提供や教育支援に利用されます。

※ 世界カカオ財団の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.worldcocoafoundation.org/> 

### 世界カカオ財団の3原則



World Cocoa  
Foundation

## WCFサステナビリティ3原則

- 利益** 農家のための公正かつ十分な経済的利益
- 人** 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
- 地球** 信頼できる確かな環境に対する責務

## 認証カカオ製品への対応

### 認証カカオ原料の取り扱い

#### Fair Trade



インダストリアル フード サービスズ（オーストラリア）、フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）、ブラマー チョコレート カンパニー（米国）では、開発途上国の小規模生産者・労働者の持続可能な開発を促進することを目指すフェアトレード認証を取得しています。お客様のご要望に応じて、フェアトレード認証の原料を使用した製品を生産・販売しています。

#### UTZ



不二製油（株）阪南事業所・関東工場、インダストリアル フード サービスズ（オーストラリア）、ウッドランド サニーフーズ（シンガポール）、フレイアバディ インドタマ（インドネシア）、フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）、ブラマー チョコレート カンパニー（米国）では、持続可能な農業のための国際的な認証プログラムである「UTZ認証」を継続的に取得しており、今後もお客様のご要望に対応していきます。

## サステナビリティ

# 大豆のサステナブル調達

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

大豆は、冷帯から熱帯まで幅広い地帯で栽培される植物ですが、大豆の生産地では、農園開拓による森林破壊や、農薬散布による農園地域の土壌汚染などが懸念されています。不二製油グループは、大豆が将来の世界の食糧危機を救うと考え、1957年以降、他社に先駆けて食品素材としての大豆の可能性を追求してきました。当社大豆加工素材事業においては、脱脂大豆や丸大豆、大豆たん白などの大豆由来の原料を使用しています。また、植物性油脂事業では、重量ベースで数%程度大豆油を使用しています。環境や社会の影響に配慮した大豆調達を推進することは重要なテーマであると認識しています。

### 考え方

大豆のサステナブル調達を目指し、情報収集および当社としての考え方の整理に取り組みます。

### 推進体制

大豆のサステナブル調達については、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※

において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 社会動向の把握と当社の考え方の策定

### 2019年度実績

Round Table on Responsible Soy (RTRS) やサプライヤーなど、関係機関との面談を行い、ブラジルに関しては、ブラジル植物油協会による大豆モラトリアム宣言など、森林破壊された地域からの大豆を使用しない取り組みなどが行われていることを把握しました。実態調査や現状のサプライチェーン把握に時間を要するため、当社の考え方の策定には至りませんでした。その基礎となる情報を収集しました。

## Next Step

ステークホルダーとの対話などの取り組みを通して、今後も不二製油グループでの大豆のサステナブル調達に取り組んでまいります。2020年度は大豆のサステナブル調達に関する方針の骨子策定を目指しています。2020年5月にはRound Table on Responsible Soy (RTRS) に会員として加盟しました。方針策定に向け引き続き情報収集を行ってまいります。

## 具体的な取り組み

### 非遺伝子組み換え大豆の調達

不二製油グループの大豆加工素材事業では、北米産、中国産、日本産の大豆原料のみを調達しており、そのすべてが、非遺伝子組み換え大豆です。北米では、遺伝子組み換え大豆<sup>※</sup>と非遺伝子組み換え大豆がともに多く流通しているため、北米産大豆に関しては栽培、輸送および保管において厳しい分別管理を行っています。

大豆の主要な調達先である中国では、遺伝子組み換え大豆の栽培は禁止されていますが、近年は搾油原料として海外産の遺伝子組み換え大豆が中国に輸入されており、年々、非遺伝子組み換えを厳格に分別管理することの重要性が増してきています。中国産大豆の調達についてもグループで連携し、不二製油（株）で得た管理ノウハウを取り入れ、厳しい管理要求に継続的に対応しています。

※ 遺伝子組み換え大豆：安定的に大豆を収穫するために除草剤耐性などの機能を、遺伝子を組み換えることで付与した大豆。

## サステナビリティ

# 環境負荷の低い製法の開発

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループでは、一部の製品の製造工程において化学物質や有機溶剤を使用しています。これらの使用は、製品の安全性や品質を脅かすものではありませんが、その処理に大量の水を要する、あるいは、CO<sub>2</sub>を多く排出するなど環境への負荷が高いものもあります。製造工程における環境負荷を認識の上、この負荷を可能な限り低減する必要があると考えています。また、有機溶剤の利用は労働安全衛生上の事故にもつながり得ることを認識しています。有機溶剤を利用しない製造法は、環境負荷のみならず従業員の安全にも寄与し得ると考えています。

### 考え方

環境ビジョン2030で掲げるCO<sub>2</sub>排出量目標、水使用量目標、廃棄物量目標の達成に向け、環境負荷の高い化学処理・有機溶剤処理を用いない加工技術の確立を目指し、技術革新を進めます。

### 推進体制

環境負荷の低い製法の開発については、最高技術責任者（CTO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※に



において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 化学触媒や、有機溶剤を用いない油脂・たん白加工技術の開発

### 2019年度実績

化学触媒を用いる代わりに、環境負荷の低い酵素触媒を用いた油脂加工技術の開発に取り組み、実験室レベルでの製法確立に成功しました。この製法を実用化できた場合、化学触媒を用いる油脂加工法と比較すると、製品油脂1トン当たり0.12トンのCO<sub>2</sub>の削減が可能となる見込みですが、実際の実用化に向けては、スケールアップ検討やコストダウンなど、まだまだ課題があります。

## Next Step

今後も、化学処理・有機溶剤処理を用いない加工技術の確立などの取り組みを通して、不二製油グループでの環境負荷の低い製造法の開発に取り組んでまいります。環境ビジョン2030<sup>※</sup>に貢献する加工技術の開発を目指し、引き続き化学触媒や有機溶剤を用いない油脂加工や、不二製油の事業の中で製造時のCO<sub>2</sub>排出量が特に多い粉末状大豆たん白製品<sup>※2</sup>について、CO<sub>2</sub>排出量を大幅に低減する技術の開発を推進する予定です。

※ 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/management/>

※2 粉末状大豆たん白：アミノ酸スコア（たん白質の栄養価を表す指標で、100に近いほど理想的とされる）が100の優れたたん白源として各種栄養健康食品に利用される他、優れたゲル化力、乳化力、保水力等の特徴を利用して畜肉加工食品や水産加工食品への品質向上の為の食品機能剤としても広く活用されています。

## サステナビリティ

# CO<sub>2</sub>の排出削減

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

近年、地球温暖化等の気候変動に伴う地球規模での問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与え始めています。食品素材メーカーである不二製油グループは、工場の操業に加え、原料の調達や輸送等バリューチェーンの各工程においてエネルギーを使用しています。

### 考え方

不二製油グループは社会の一員として、経済的価値を創出するだけでなく、バリューチェーン全体で地球環境に配慮した事業活動に取り組むことが必要であると考えています。当社グループは環境基本方針※に基づき、環境ビジョン2030※<sup>2</sup>においてCO<sub>2</sub>削減のコミットメントを表明しています。その目標として、Science Based Targets（以下、「SBT※<sup>3</sup>」）を設定しました。生産現場での省エネ活動を引き続き行うことはもとより、エネルギー使用量の少ない新設備の導入や再生可能エネルギーの使用により、CO<sub>2</sub>排出量の削減を推進していきます。

※ 環境基本方針の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/policy/>

※<sup>2</sup> 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/management/>

※3 SBT：パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準(Well Below 2°C)に抑え、また1.5°Cを抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

## 推進体制

CO<sub>2</sub>の排出削減については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2030年目標

CO<sub>2</sub>排出量の削減については2030年目標として、「スコープ1,2※ 40%削減、スコープ3（カテゴリ1※）18%削減」を掲げています。（基準年：2016年）

※ スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

※ スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

※ スコープ3：事業者の活動に関する他社の排出（カテゴリ1～15）

※ カテゴリ1：原材料

### 2030年目標に対する進捗

2019年度はブラマー チョコレート カンパニー（米国）が加わったことで全体の生産量が大幅にアップしました。一方で各社の省エネ活動、再生エネルギーの導入などの効果により2019年度の総排出量は429,606t-CO<sub>2</sub>で、対前年2% [9,048t-CO<sub>2</sub>] の削減、対基準年16% [81,345t-CO<sub>2</sub>] の削減を実現することができました。

### 2019年度目標

- SBT認定の新要件に応じた、修正目標の設定
- 最適なCO<sub>2</sub>排出量データの収集・分析方法の確立、的確な情報開示

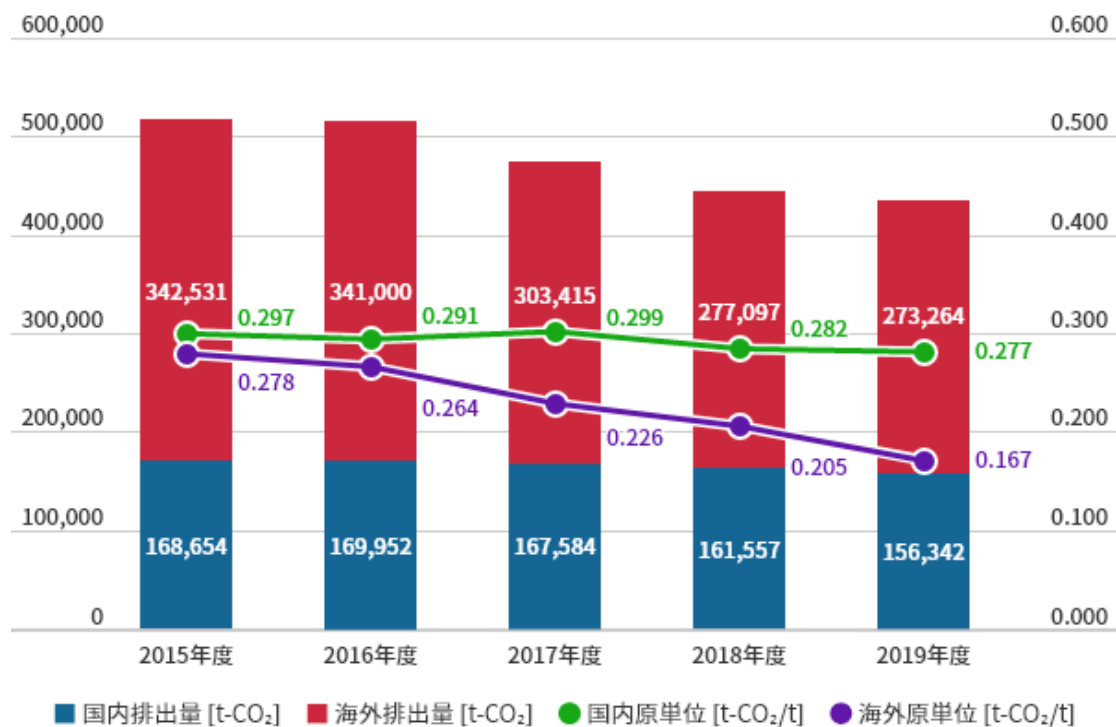
### 2019年度実績

不二製油グループ本社は2018年SBTi※にコミットメントレターを提出し、2020年3月当社が設定した国内外の不二製油グループのCO<sub>2</sub>排出削減目標が承認されました。当社は今回はじめてスコープ3のデータを1次収集・分析し、サプライチェーン全体におけるCO<sub>2</sub>排出量を把握し、スコープ3の削

減目標を設定しました。今後はよりスムーズなデータ収集のため、データ収集システムの検討を進めており、来年度に導入を予定しています。

※ SBTi：Science Based Targetsイニシアティブ（SBTi）の略称。世界資源研究所（WRI）、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアティブで、企業に対し、気候変動による世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ、最大でも2度未満に抑えるという目標に向けて、科学的知見と整合した削減目標を設定することを推進している。

## 年間CO<sub>2</sub>総排出量（スコープ1,2）と原単位推移



※ 再集計の結果、2018年度のデータを修正しています。

## Next Step

今後も「環境ビジョン2030」の達成に向け、生産現場での省エネ活動やエネルギー使用量の少ない新設備の導入、再生可能エネルギーの使用などに取り組みます。また、スコープ3のデータの精度向上を図り、最も排出量の多いカテゴリ1の削減方法をインターナルカーボンプライシングの導入を含めた検討を進め、不二製油グループでのCO<sub>2</sub>の排出削減に取り組んでまいります。2020年度はSBT認定を取得した目標を達成するため、社内に対する説明活動をはじめ、実際のCO<sub>2</sub>削減につながる活動を推進する予定です。

## 具体的な取り組み

### 生産設備の省エネ化

2019年度の省エネ化の一例は以下の通りです。

- 不二製油（株） 阪南事業所において油脂およびクリームの3工場での設備更新や屋外電気のLED化などの取り組みを通じて省エネを推進（年間あたり合計約919.9t-CO<sub>2</sub>の削減）
- 不二製油（株） 千葉工場において脱臭冷却用温水の熱を回収する設備を設置（年間あたり約356t-CO<sub>2</sub>の削減）
- 不二製油（株） りんくう工場およびフジオイル ヨーロッパ（ベルギー）において太陽光発電を導入
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）やハラルド（ブラジル）、フレイアバディ インドタマ（インドネシア）においてLED照明への切り替えを開始

## 再生可能エネルギーの導入

環境ビジョン2030の達成に向けて、当社グループとして再生可能エネルギーの導入を検討しています。不二製油（株）つくば研究所にて太陽光パネルを設置した2016年から、電力の一部として利用しています。また、不二製油（株）りんくう工場（2020年2月）、フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）（2019年6月）などに新たに太陽光パネルを設置し稼働を始めています。さらには、不二製油グループ本社の大阪オフィスで使用する電力として、環境に配慮したエネルギーである「グリーン電力」を使う取り組みを行なっています。今回「グリーン電力証書」の購入により、当社は高知県の太陽光発電を利用し、2020年度のCO<sub>2</sub>排出量の削減（約43t-CO<sub>2</sub>相当）が可能になります。

## サステナビリティ

# 水使用量の削減

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの事業活動は、原材料として調達する農作物の生産や、製品の製造工程において水資源と関わっています。

### 考え方

不二製油グループは水資源と事業活動との関わりを認識し、「環境基本方針※」に基づいて、製品の製造工程における水資源の保全に取り組んでいます。2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030※2」において、グループ全体での水資源の使用量の削減についてコミットメントを表明しています。限りある水資源を持続的に使用するため、製品の製造において水資源の利用効率を向上させることで、直接的に水資源の保全に貢献できると考えています。また、水資源に対して当社の事業活動が及ぼす影響を特定・是正するために、水に関するリスクの把握と対策の推進を行っています。排水に関しては各国・各地域の基準・規制に従って対応しています。

※ 環境基本方針の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/policy/>

※2 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/management/>



## 推進体制

水使用量の削減については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2030年目標

2030年を目標年とした「環境ビジョン2030」を2018年度に策定しています。その中で、水使用量の削減については、グループ全体を対象に「2030年に原単位※で20%減（基準年：2016年）」を掲げています。

※ 生産量あたりの水使用量。

### 2030年目標に対する進捗

2019年度において、水使用量は不二製油グループ全社で対前年原単位11%減少、対基準年24%減少しました。国内の水使用量は対前年原単位4%減少、海外は対前年原単位10%減少しました。これは各グループ会社における再利用水の使用や節水活動が奏功した結果です。また、水に関するデータの収集方法をグループ全体で統一化し、より現状に即したデータの入手が可能になりました。

### 2019年度目標

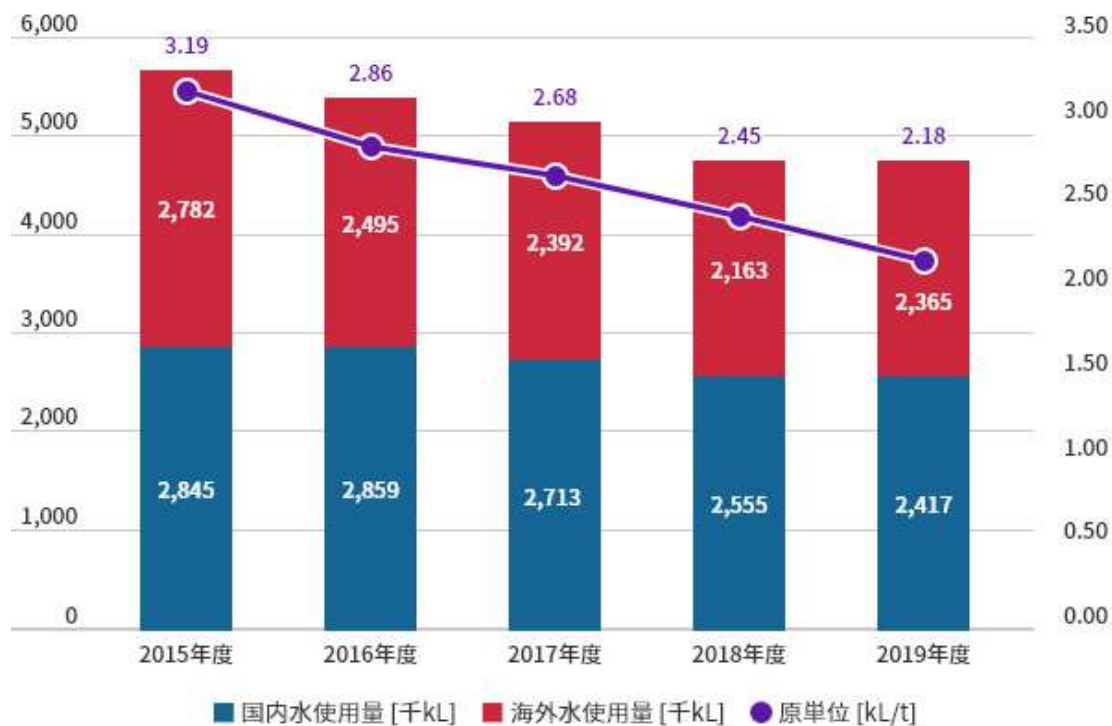
- 最適な水使用量データの収集・分析方法の確立、的確な情報開示

### 2019年度実績

2019年度実績は国内グループ会社では2,417千kLとなり、前年度比5%の減少となりました。海外グループ会社では2,365千kLとなり、前年度比9%増加しました。これは主に生産量の増加等が影響した結果です。

水に関する詳細なデータの収集を開始し、CDP水2019においてA-（マイナス）評価を受けました。CDP水質問書を通じて水資源に関する重要指標について学んだことを活かし、グループ全体で水資源の保全に一層取り組むべく、各グループ会社における詳細な水使用状況を確認しました。

## 年間水使用量と原単位推移



### Next Step

今後も「環境ビジョン2030」の達成に向け、生産工程の水利用効率向上や再生利用などの取り組みを通して、不二製油グループでの水使用量の削減に取り組んでまいります。2020年度は海外グループ会社への説明活動を推進する予定です。また、データ収集の効率化を図るべく、データ収集システムの検討を進めており、2020年度に導入を予定しています。

## 具体的な取り組み

### リスク管理と対策

不二製油グループでは、水資源不足が危惧される事業地域において、給水量・使用量を低減するための取り組みを行っています。例えば、中国の一部のグループ会社においては、想定される水リスクのシナリオを挙げてPDCAを回し、水資源枯渇時の事業継続および水質管理という観点からリスク管理を行なっています。

### 水使用量削減の具体的な取り組み

2019年度は以下のグループ会社において節水活動を実施しました。

- フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）において、近隣の工場とともに再利用水を共同生産・使用することで水資源保全を推進
- 不二製油（張家港）有限公司（中国）において温度調整制御装置を設置し、蒸発水を削減
- パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）において冷却設備に使用する水の使用量を削減
- フジオイル（タイランド）では水使用量の管理強化により水使用量を削減
- フジオイル（シンガポール）においてシンガポール政府主導で生産されている再生水「NEWater」の使用を開始し、水資源を節約
- ハラルド（ブラジル）において自社の庭への灌漑水として水を再利用

## サステナビリティ

# フードロスの削減

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

将来的な人口の増加による食糧需給のひっ迫が危惧される中、限りある食資源を効率よく使用することは食品素材メーカーにとって重要なテーマです。製造工程におけるロスの削減はもとより、BtoBの食品素材メーカーというポジションを活かし、製品開発を通して、お客様であるBtoCの食品メーカーや小売におけるフードロスの削減に貢献できると認識しています。

### 考え方

不二製油グループは、当社製品の賞味期限を延長するだけでなく、当社製品を活用したお客様商品の賞味期限延長のための技術開発に取り組み、バリューチェーン上のフードロス削減に貢献したいと考えています。2020年度新たにESG経営の重点テーマとして取り組みを強化する上で、フードロスに対するより包括的な考え方を検討していきます。

### 推進体制

フードロスの削減については、最高技術責任者（CTO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、2020年度よりESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## Next Step

引き続き、当社製品の賞味期限延長に向けた取り組みに加え、サプライチェーン上のフードロス削減に向け、お客様商品の賞味期限の延長や余った食品の再加工などの技術開発を当社グループで取り組んでまいります。2020年度は、パン市場における商品の賞味期限延長や再加工によるロス削減を目指した活動を推進する予定です。

## 具体的な取り組み

### 賞味期限を延長する製品開発

当社グループでは、さまざまな素材の提供、製造技術の組み合わせ、およびお客様との共創により賞味期限の延長に取り組んでいます。

例えば、チルドデザートプリンは時間の経過とともに滑らかな食感が失われるため、賞味期限が短く設定されていることがあります。不二製油（株）は時間が経過しても滑らか食感を維持できる製菓素材を開発・提供すること、お客様における適切な製造条件を提案することにより、お客様商品の賞味期限延長を可能にします。このように、おいしさの延長を社会に提案・提供することで賞味期限の延長を可能にし、フードロスの削減に貢献したいと考えています。

また、販売余剰になった食品についても再加工することにより、フードロス削減に貢献できると考えています。例えば、焼き立ての食事パン※が販売余剰になった場合、さらに加工して調理パンに生まれ変わるための素材を提案・提供することによりフードロス削減に貢献します。

※ 食事パン：そのまま食べたり、好みの具材と一緒にサンドしたり乗せて食べたりといろいろな食べ方ができる、食パンやバターロール、フランスパンなどを定義しています。



販売余剰になったパン



当社の植物性食品素材で再加工



フレンチトースト





販売余剰になったフランスパン



当社の植物性食品素材で再加工



羽根つきゴルゴンゾーラの惣菜パン

## サステナビリティ

# 廃棄物の削減

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの事業特性上、生産工程において廃棄物を出しています。その多くは各工場からの排水に含まれる汚泥や、油脂事業の精製工程での不純物を吸着させた後に発生する廃白土です。廃棄物の削減に取り組むことは事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、水の使用削減等、環境保全全般にわたり寄与すると認識しています。

### 考え方

不二製油グループは廃棄物と事業活動との関わりを認識し、「環境基本方針※」に基づいて、製品の製造工程における廃棄物削減に取り組んでいます。2030年に達成を目指す「環境ビジョン2030※<sup>2</sup>」において、グループ全体での廃棄物の削減についてコミットメントを表明しています。

※ 環境基本方針の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/policy/>

※<sup>2</sup> 環境ビジョン2030の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/management/>

## 推進体制

廃棄物の削減については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2030年目標

2030年を目標年とした「環境ビジョン2030」を2018年度に策定しています。その中で、廃棄物の削減については、グループ全体を対象に「2030年に原単位※で10%減（基準年：2016年）」を掲げています。また、資源リサイクルについては、国内を対象に「2030年まで再資源化率を99.8%以上に維持」することを掲げています。

※ 原単位：生産量あたりの廃棄物量。

### 2030年目標に対する進捗

2019年度において、廃棄物量は不二製油グループ全社で対前年原単位4%減少、対基準年3%増加となりました。国内グループ会社は対前年原単位0.3%増加、海外グループ会社は対前年原単位2%減少しました。国内グループ会社の原単位が増加した主な要因として、生産量増加に伴う廃白土や汚泥、植物性残渣の増加が挙げられます。一方で、海外グループ会社の原単位が減少した要因として、廃棄物量の増加に増して生産量の増加が大きかったことがあげられます。国内の再資源化率は99.33%でした。

### 2019年度目標

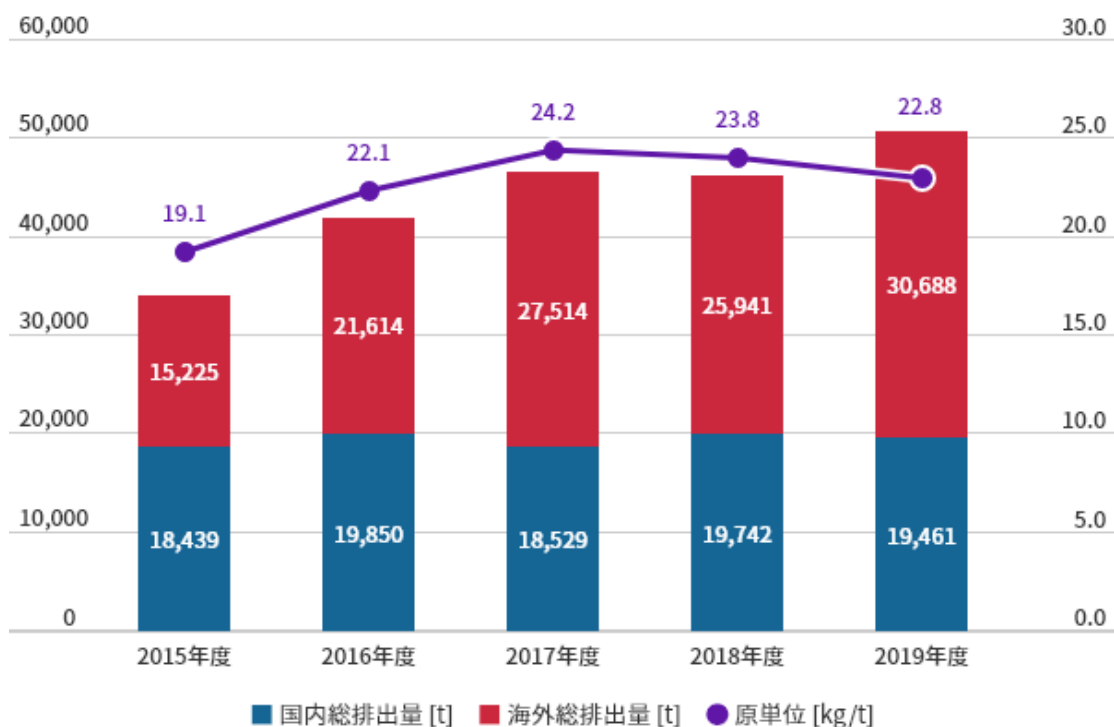
- 最適な廃棄物データの収集・分析方法の確立、的確な情報開示

### 2019年度実績

国内グループ会社の2019年度の廃棄物総排出量は19,461トンとなり、前年度比1.0%減少しました。海外グループ会社の2019年度の廃棄物総排出量は30,688トンとなり前年度比18%増加となりました。国内グループ会社の廃棄物総排出量が減少した主な要因として、各工場の廃棄物削減活動が挙げられます。一方で、海外グループ会社の廃棄物総排出量が増加した主な要因として、汚泥、植物性残渣の増加、国の規制等の変更により一部の廃白土の有価での引き取り先が無くなったこと、およびブラマー チョコレート カンパニー（米国）が不二製油グループに加わったことが挙げられます。

今後不二製油グループ全体で削減に取り組むためにより正確でスムーズなデータ収集が必要となります。既にデータ収集システムの検討を進めており、21年度導入を予定しています。

### 年間廃棄物総排出量と原単位推移



### 国内グループ会社年間廃棄物総排出量と再資源化率



※ 再集計の結果、2018年度のデータを修正しています。

## Next Step

今後も「環境ビジョン2030」の達成に向け、植物性残渣の有効利用や産業廃棄物から有価物化への取り組み推進などを通して、不二製油グループでの廃棄物の削減に取り組んでまいります。

## 具体的な取り組み

### 廃棄物削減の取り組み

2019年度の各グループ会社における主な取り組みは以下の通りです。

- 山東龍藤不二有限公司(中国)、天津不二蛋白有限公司(中国)、フジオイル(シンガポール)では汚泥を圧縮あるいは乾燥させて処理することで、廃棄物量の削減を推進しています。
- フジオイル ヨーロッパ(ベルギー)では、油分を含む廃棄物をグリーンエネルギーの原料として活用しています。
- ブラマー チョコレート カンパニー(米国)では、廃棄物の一部を有価売却し再エネ資源として活用いただく活動を推進しています。

### 食品リサイクルの取り組み

国内グループ会社では「食品リサイクル法」に基づき、食品廃棄物の再利用に取り組んでいます。国内グループ会社での食品廃棄物の発生量は、2019年度は約34,410トンとなり、前年度に比べ約2,078トン増加しました。リサイクル率は昨年より2ポイント増加し99.3%となっています。

同法が食品製造業界に対して設けている目標は「食品循環資源の再生利用等(食品リサイクル)の実施率85%以上」ですが、不二製油グループでは目標設定当初の2007年度から97.3%以上の高い実施率を達成し、その後も維持し続けています。この水準を今後も維持すべく、取り組みを続けていきます。

## サステナビリティ

# 包装材の削減

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの事業活動は、製品製造において包装材の削減に関わっています。BtoBという事業特性上、タンクローリーやコンテナで出荷される製品も多くありますが、チョコレートやクリームなど一部の製品においては、ダンボールやその内装材などの包装材を使用しています。資源の枯渇やプラスチック海洋汚染などが危惧される中で、特にリデュース（薄膜化、軽量化、代替素材の活用）、リサイクル、リユースすることで、包装材の削減に貢献できると認識しています。

### 考え方

サステナビリティの観点から、減量化、循環可能な材質への置換、リサイクルなど環境負荷を軽減させる取り組みの必要性があると考えています。2019年度は、包装材の削減について、関係部門が調査・検証を実施しました。2020年度からは、取締役会の諮問期間であるESG委員会で取り扱い、グループレベルで取り組むESG経営の重点テーマとして活動を推進する中で、具体的な考え方を整理していく予定です。



## 推進体制

包装材の削減については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、2020年度よりESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※ において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## Next Step

2020年度は包装材使用量の調査年と位置づけ、包装材として出荷されるプラスチック、段ボールを対象とした使用量の調査、環境負荷を低減するための素材や情報の社内共有化などの活動を推進する予定です。

## サステナビリティ

# シアナッツのサステナブル調達

## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

シアバターは、不二製油グループの植物性油脂事業において、主にココアバター代用脂（CBE：Cocoa Butter Equivalent）として使用される重要な原材料です。ココアバター代用脂は、菓子製造業で幅広く使用されるとともに、ノンパーム用途油脂としても使用されています。シアバターは、シアの木のカーネル※ から抽出されます。シアカーネルは、圧倒的に女性が収穫するため、女性の作物として知られています。シアの木は、サハラ砂漠以南の西アフリカに位置するシアベルトに生育しており、年に1度、5月～6月の間に実を实らせませす。

※ シアカーネル：シアの木の果実からとれる種子（シアナッツ）の中にある胚。主な生産地はナイジェリア、マリ、ブルキナファソ、ガーナなど。

### 考え方

サプライチェーンにおける将来への約束は、当社グループの持続可能性を支える重要な柱であると考えています。シアナッツのサステナブル調達への取り組みにより、シアバターのバリューチェーンにそって、サステナビリティの達成と共通価値の創造を目指しています。

取り組みを進めるにあたり、以下の3点の改善に注力していきます。

- シアの木の緑地保全と森林破壊
- シアバターの社会・環境フットプリント
- 地域における価値創造

また、当社グループのサステナブル調達は、有能かつエンゲージされた人々との強固なプラットフォームを基盤としています。このプラットフォームは広い見識とステークホルダーエンゲージメントを原則としています。

## 具体的な取り組み

### シアの木の緑地保全

収穫されたシアカーネルは、農村の家庭において加熱処理された後、搾油工場で食用のシアバターに加工されています。シアの木などの樹木は、シアカーネルの加熱処理において燃料の薪として使用されています。薪用に木々が伐採されることは、シアの木などの生態系にとって深刻な脅威です。フジ オイル ガーナでは、シアナッツの供給安定化の取り組みに加え、シアの木の植林と周辺の緑地保全に取り組んでいきます。

### シアバターの社会・環境フットプリント

農村においては、シアカーネルを加熱処理するための燃料である薪と水は必要不可欠な資源です。フジ オイル ガーナでは、資源消費量の削減、農民の作業負荷の低減、品質向上を目的に、村落と協力しながらシアカーネルの収穫に携わる地域の女性たちに知見を共有しています。

今後は、以下の取り組みを進めていきます。

- 公正な供給網を目的とした、透明性および最短供給ルートの追及を進めます。
- サプライヤー行動規範を用いて、人権、倫理、環境影響に関する啓発を行います。
- 地域コミュニティに対して労働安全衛生、資源の利用、品質向上、作業負荷の低減に関する教育を行うだけでなく協同組合、事業、ビジネス開発に関する研修も行っています。

### 地域経済への貢献

フジ オイル ガーナは、ガーナのテチマンに所在しています。地域のパートナーとの協力により、シアバターの加工の高度化に取り組んでいます。西アフリカで調達されるシアカーネルは、圧搾、抽出を経て搾油されます。フジ オイル ガーナでは、シアの付加価値を向上させるとともに、地域雇用を創出しています。搾油工程の副産物は、グリーンエネルギー源や石鹼原料のみならず食品用途としても使用されています。


### 外部団体との協業

フジ オイル ガーナは、Global Shea Alliance (GSA) ※ と Shea Network Ghana<sup>※2</sup> に参画しています。これら団体の活動内容は以下の通りです。


- 女性グループに提供できるナッツ保管庫
- 女性のためのビジネス研修
- 労働安全衛生イニシアティブ

- 植林のための用具の開発
- 緑地管理の研修
- 保全に関する試験的なプロジェクト

※ Global Shea Alliance（GSA）：団体の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://globalshea.com/> 

※2 Shea Network Ghana：団体の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <http://sheanetworkghana.com/> 

## サステナビリティ

# Social (社会)

### 数字で見る社会への取り組み



マレーシア・サバ州での  
小規模農家支援による  
RSPO認証取得農家数  
(2016年1月～2019年3月の累積)

新卒総合職における女性比率  
(2020年4月時点)  
(不二製油グループ本社  
および不二製油(株))

協賛している  
「SDGs for School<sup>※</sup>」の  
受講者数  
※主催は(一社) Think The Earth

## マネジメント

### 人権マネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 教育・普及啓発活動
- ▶ 人権デュー・ディリジェンス
- ▶ グリーバンス(苦情処理)メカニズム
- ▶ 対話を通じた取り組みのレビュー

### サステナブル調達マネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

# 重点領域の活動報告

## 食の創造

### 重点テーマ

#### 食資源不足へのソリューション提供

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### 糖の摂取過多への対応

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### トランス脂肪酸含有量の低減

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 食の安全・安心・品質

### 重点テーマ

#### 食の安全と品質の徹底

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## ダイバーシティ

### 重点テーマ

#### ダイバーシティ経営の実践

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 労働安全衛生

### 重点テーマ

#### 労働安全衛生の推進

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み



## サステナブル調達（主原料）

### 重点テーマ

#### パーム油のサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### カカオのサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

### 重点テーマ

#### 大豆のサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 基本領域の活動報告

### 雇用・人材育成

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

### 従業員の健康維持・促進 （健康経営）

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

### コミュニティとの共生

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

### シアナッツのサステナブル調達

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 具体的な取り組み

## データブック

ESGデータブック  
(598KB)



## サステナビリティ

# 人権マネジメント

## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの事業活動はさまざまな人の関わりによって成り立っています。従業員はもとより、サプライチェーン上の労働者から消費者まで、当社の事業活動がさまざまなステークホルダーの人権について、直接的、あるいは間接的に影響を及ぼし得ると認識しています。

### 考え方

グローバルに活動する不二製油グループは、グループ憲法に定める「人のために働く」という価値観に基づき、バリューチェーンのあらゆる段階を通じて人権を尊重した事業活動を行う責任を果たすという責任があると考えています。「国連ビジネスと人権フォーラム2016」への参加およびステークホルダーとの対話を機に、人権に対する考え方をあらためて整理し、2017年4月に「不二製油グループ人権方針」を公表しました。

▶ 「不二製油グループ人権方針」PDF (369KB) 

### 推進体制

不二製油グループ本社のCSR担当役員である最高ESG経営責任者（C“ESG”O）管掌のもとで、ESG経営グループが全社的な人権尊重の推進・啓発、人権リスクの把握・統括を行い、各事業所・各職場において人権尊重の実践に努めています。

また、バリューチェーンでの人権の尊重は、ESG経営の重点テーマ<sup>※</sup>に落とし込み、取締役会の諮問機関であるESG委員会<sup>※2</sup>にて進捗報告や課題検討を行い、取締役会に対して具申されています。

※ ESG経営の重点テーマの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/materiality/>

※2 ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 教育・普及啓発活動

不二製油グループでは、ビジネスと人権に関する教育・啓発活動を推進しています。

2019年度は、人権方針の考え方を当社グループ全体に周知し、「ビジネスと人権」に関するテーマの推進について意識高揚を図る目的で、2019年12月4日～13日を「不二製油グループ 人権週間」として定め、最高総務責任者（CAO）と最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の共催のもと、ビジネスと人権に関する以下のプログラムを展開しました。プログラムを通し、従業員からは「グループ憲法の“人のために働く”と人権のつながりを認識できた」「人権について考えるきっかけになった」「会社が人権を重要視している意思が伝わった」などの意見が得られました。

| 人権週間のプログラム                                   | 対象                   |
|--|----------------------|
| 経営者メッセージ<br>（CEOメッセージ、CAOメッセージ、C“ESG”Oメッセージ） | 不二製油グループ 全社          |
| ビジネスと人権 e-learning 動画                        |                      |
| ビジネスと人権 解説記事                                 |                      |
| ビジネスと人権 デイリーニュースe-mail                       | 不二製油グループ本社および不二製油（株） |
| ダイバーシティセミナー                                  |                      |

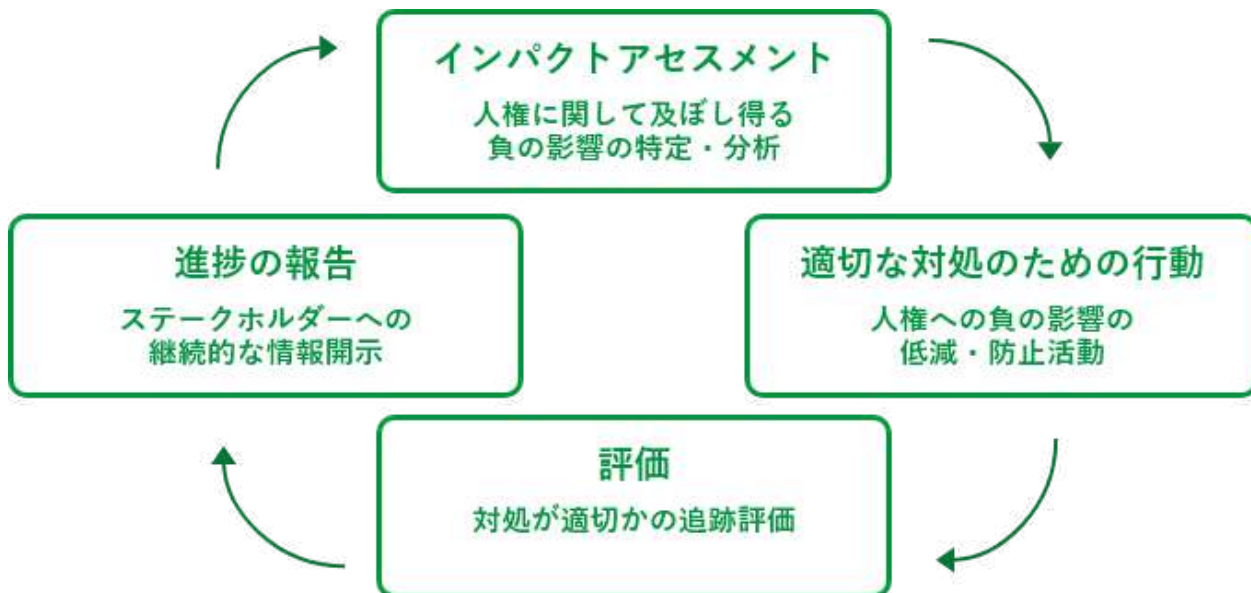
### ビジネスと人権 e-learning 動画



# 人権デュー・ディリジェンス

## 人権デュー・ディリジェンスの全体像

不二製油グループは、人権尊重責任を実行する一環として人権デュー・ディリジェンスを実施しています。



## インパクトアセスメントのプロセス

### 人権リスクの特定プロセス

2016年度、不二製油グループの事業活動が関与し得る人権への負の影響を特定・評価し、優先的に対処すべき重要な課題の特定をするため、人権インパクトアセスメントを行いました。アセスメントを実施するプロセスにおいては、社内関係部署の関与にとどまらず、外部有識者として、Verisk Maplecroft社および経済人コー円卓会議日本委員会から知見を得ました。

第1段階として、Verisk Maplecroft社のノウハウをもとに、当社グループの事業活動や操業地域が関与しうる人権リスクを定量的に評価しました。第2段階として、その結果に基づいて、経済人コー円卓会議日本委員会の参画を得て社内関係者にインタビューを行い、当社グループの実情を可能な限り反映して人権リスクを特定しました。

2016年度にインパクトアセスメントを実施して以降、M&A等により事業環境に変化があることから、2020年度に第2回目のインパクトアセスメントを実施する予定です。

## 特定した人権リスクと進捗状況

| 特定した人権リスク             |   | 具体的な懸念点                                      | 対策                         | 進捗   |
|-----------------------|---|--|----------------------------|--|
| 1. グループ従業員を対象とした教育・研修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する研修の不在により、グループ人権方針が従業員の行動としてオペレーションレベルに落とし込まれないリスク</li> <li>特に、東南アジアおよび中国の海外グループ会社において、労働時間や職場における差別など、意図せずに労働者の人権侵害が発生するリスク</li> <li>自社の実質的な管理下でない合併会社、または最近買収したグループ会社において、労働時間、適正賃金、労働安全衛生、職場における差別、結社の自由と団体交渉、強制労働、人身取引など、労働者の人権侵害が発生するリスク</li> <li>特に、東南アジア、中国、アフリカの海外グループ会社で使用する請負・派遣労働者における強制労働、人身取引、労働安全衛生、適正賃金、労働時間、結社の自由と団体交渉に関する問題が発生するリスク</li> </ul> | ① 人権方針が従業員の行動に落とし込まれる仕組みが不十分                 | 教育・研修の実施                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年12月に人権週間を設け、ビジネスと人権に関する情報をグループ全体に配信することで、当社の人権方針と実務上で注意すべき事項の徹底を図りました。</li> <li>※ 人権週間の詳細については、本ページ内「教育」の記事をご参照ください。</li> </ul>  |
|                       |   | ② 合併会社や最近買収したグループ会社の人権リスク把握が不十分              | 各社リスクマネジメントシステムの中で人権リスクも管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ会社に設置している「リスクマネジメント委員会」に対して、不二製油グループ本社 ESG 経営グループが左記の人権リスクを説明しました。（2019年度、人権を含むリスクアセスメント活動の対象としたグループ会社数：27社、対象としたグループ会社の割合：96%）</li> <li>各グループ会社において人権リスクへの対策を進めました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SEDEXのSMETA監査を受けているグループ会社については、指摘事項への対応を通してリスク低減を行いました。</li> <li>SEDEXのSMETA監査を受けていないグループ会社においては、派遣会社・請負先に対して当社独自のアンケートを実施し、当社の考え方をご理解いただきリスク低減に努めていただきました。</li> </ul> </li> </ul> |
|                       |   | ③ 派遣・請負労働者について人権リスク把握が不十分                    |                            |  |
| 2. 苦情処理メカニズム          | <ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーの労働者や地域住民から苦情を受け付け、対応できないリスク</li> </ul>  | 社内には内部通報制度が存在するが、サプライチェーンを対象とした苦情処理メカニズムが未構築 | サプライチェーンを対象にメカニズムを構築       | <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年5月、「責任あるパーム油調達方針」に基づくグリーンバンス（苦情処理）メカニズム※を構築・公表し、運用しています。2020年3月末時点で累計101件の苦情を受け付け、そのうち73件についてClosedあるいは取引停止に至りました。</li> <li>※ グリーンバンスメカニズムの詳細については、以下のURLをご参照ください。<br/><a href="https://www.fujiioilholdings.com/en/cs/grievance_mechanism/">https://www.fujiioilholdings.com/en/cs/grievance_mechanism/</a></li> </ul>  |

| 特定した人権リスク            | 具体的な懸念点  | 対策                        | 進捗  |
|----------------------|--|---------------------------|---|
| <b>3.原材料サプライチェーン</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>パーム油サプライチェーンの上流において、人身取引、強制労働、児童労働、適正賃金、長時間労働、土地収奪などの人権侵害が発生するリスク</li> <li>カカオサプライチェーンの上流において、児童労働、強制労働、人身取引、不適正賃金、長時間労働等の人権侵害が発生するリスク</li> </ul> | <p>特にパーム、カカオは人権リスクが高い</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>パーム油については、責任あるパーム油調達方針に基づき、トレーサビリティの向上、サプライチェーン改善活動、小規模農家支援活動などを推進しています。</li> </ul> <p>※ 各活動の詳細については、以下のURLをご参照ください。<br/> <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/palm_oil/</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カカオについては、責任あるカカオ豆調達方針に基づき、コートジボアール、エクアドル、ガーナにおいてコミュニティ支援や小規模農家支援の活動を推進しています。</li> </ul> <p>※ 各活動の詳細については、以下のURLをご参照ください。<br/> <a href="https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/">https://www.fujioilholdings.com/csr/environment/cacao/</a></p> |

## グリーンバンス（苦情処理）メカニズム

### 従業員を対象とした内部通報制度

国内・海外グループ会社従業員および一部協力会社従業員を対象にした、内部通報制度※を設けています。

※ 内部通報制度の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/compliance/>

### サプライチェーンを対象としたグリーンバンスメカニズム

2018年5月、「責任あるパーム油調達方針」に基づくグリーンバンスメカニズム※を構築・公表しました。不二製油グループウェブサイト「グリーンバンスメカニズムWEBページ（英語）」を設け、メカニズムおよび進捗を公表しています。

※ グリーンバンスメカニズムの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance\\_mechanism/](https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/)



# 対話を通じた取り組みのレビュー

---

## 有識者ダイアログ

2019年6月、ビジネスと人権の取り組みに関してアドバイスをいただき今後活かす目的で、「ビジネスと人権に関する有識者ダイアログ」を実施しました。「ビジネスと人権」をテーマにダイアログの機会を持つのは、2016年度以降4回目です。有識者として、国連ビジネスと人権ワーキンググループのダンテ・ペシェ氏、およびロイドレジスタージャパン株式会社 取締役の冨田秀実氏にご参加いただきました。当社からは、最高経営責任者（CEO）、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）、油脂・チョコレート事業部門の執行役員およびCSR部門のメンバーが参加しました。

ダイアログでは、ビジネスと人権に対する包括的な考え方のほか、具体的な取り組みとして2018年5月より運用を開始した「パーム油のグリーンバンス（苦情処理）メカニズム」に関する意見交換を行いました。意見交換を通して、ステークホルダーとの対話の重要性を確認したほか、グリーンバンスメカニズムを運用するに当たっての考え方についてアドバイスをいただきました。とりわけ、「親会社レベルのグリーンバンス※」に対する考え方として、サプライチェーン上の問題ではなくとも、対応する事が望ましいということ、国連ビジネスと人権指導原則に基づきご助言いただきました。いただいた助言は、当社の活動改善に役立てています。特に親会社レベルへのグリーンバンスについては、2019年度に当社の直接サプライヤーへの情報提供および問題が懸念される親会社のモニタリングを開始し、2020年4月に公開した改訂版のグリーンバンスプロシージャー※<sup>2</sup>において、RSPO※<sup>3</sup>の定義に従いグリーンバンスとして取り扱うことを公表しました。今後も、有識者による助言・アプローチの確認を得ながら、ビジネスと人権に関する取り組みを進めてまいります。

※ 親会社レベルのグリーンバンス：当社のサプライチェーン上の農園の親会社が、当社のサプライチェーン外で運営する事業に対するグリーンバンス（苦情）のうち、当社方針に抵触するもの。

※<sup>2</sup> 改訂版グリーンバンスプロシージャーの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance\\_mechanism/](https://www.fujioilholdings.com/en/csr/grievance_mechanism/)

※<sup>3</sup> RSPO：Round Table on Sustainable Palm Oilの略。持続可能なパーム油のための円卓会議。



## 食資源不足へのソリューション提供

### 特に貢献を目指すSDGs



### マネジメント情報

#### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは創業間もない頃から、人口増加とともに起こる食資源不足の問題に対して、植物性食品素材を通してソリューションを提供することを目指してきました。具体的には、植物性のたん白源が、動物性たん白源の不足を補うと考え、1957年から60年以上、大豆たん白の可能性を追求しています。2050年に世界の人口は97億人に増加すると予測されています。植物性のたん白を使用した食品素材を通して、人口増加などに伴う食資源不足の問題にソリューションを提供できると認識しています。

#### 考え方

昨今では、社会的な「食資源不足」や「環境」問題への危機感がますます高まっています。従来、植物性のたん白素材は動物性たん白の「代替」でしたが、当社グループでは、単に動物性食品を置換するのではなく、「植物性食品素材ならではのおいしさの提供と社会課題解決」をコンセプトに、市場における植物性食品というカテゴリーを確立し、社会課題の解決に貢献したいと考えています。

## 推進体制

食資源不足へのソリューション提供については、最高技術責任者（CTO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 動物性たん白、乳製品を代替する植物性食品素材の製品化および販売

### 2019年度実績

動物性たん白、乳製品を代替する植物性食品素材の販売数量は、過去3年間堅調に伸長しています。これは主に日本において「おいしくヘルシーな食素材の提案」といった取り組みが寄与した結果と考えます。

|                  | 販売数量（2018年度比） | 販売数量（2016年度比） |
|------------------|---------------|---------------|
| 動物性たん白代替の植物性食品素材 | 140%伸長        | 毎年110%以上伸長    |
| 乳製品代替の植物性食品素材    | 106%伸長        | 141%伸長        |

## Next Step

今後も人口増加・環境問題深刻化に伴い、食資源不足が予想されています。この社会課題を解決すべく、動物性たん白、乳製品を代替する植物性食品素材の製品化などの取り組みを進めてまいります。2020年度は本格的な肉素材・食肉製品を植物性食品素材で実現すること、植物性素材をベースとしたチーズ様食品やスープ類の製品化を目指した活動を推進する予定です。

## 具体的な取り組み

### 研究開発による代替素材の拡充

当社グループでは長年培った大豆たん白の開発技術を駆使し、さらに新しい知見を活かし、植物性素材ならではのおいしさを提供できる代替素材の開発に努めています。

例えば、2019年度は当社グループのUltra Soy Separation技術（USS技術）を活用した新製品として豆乳クリームバター「ソイレブール」を開発しました。ソイレブールはすっきりした口溶けの植物性バターです。また、組み合わせる素材の味をひきたてるといったおいしさ機能を発揮します。練り込み油脂として使用いただくと、パンや焼菓子のくちどけがよく、ふんわり・しっとりした食感に仕上がります。

おいしい植物性素材を社会に提案・提供することで、消費者の皆様の食の喜びに貢献することはもちろん、地球環境への負荷が低い方法で食資源不足の解決に寄与したいと考えています。



ソイレブール



ソイレーズンサンド

## 市場への提案による価値創出

世界で急速に植物性食品への関心が高まった背景には、気候変動や人口増加といった社会課題への問題意識があります。これはミレニアル※ Z世代※<sup>2</sup>といった若い層が未来の地球を考え行動しているものです。一人ひとりがSNSを通じて世界に発信できる世の中になり情報の伝わり方も急激に変わりました。この変化に呼応し、不二製油（株）も今までの商品化のプロセスやスピード、コンセプトそのものを変える必要があります。その一つの方法として2019年9月にUPGRADE Plant based kitchenという植物性（plant base）の惣菜のレストランを大丸心齋橋店に期間限定でオープンしました。お客様は40代迄の女性が圧倒的で購買者層の70%以上を占めます。海外のお客様からも評価が高く、リピーターのお客様もいらっしゃいます。不二製油グループのPBFS（Plant-Based Food Solutions）の発信拠点、お客様との共創の場として位置付けており、今後店舗で得られた購入データやメニュー、オペレーションを活かした新製品を順次発売していきます。

※ ミレニアル：1981年～1996年までに生まれた世代。（諸説あり）

※<sup>2</sup> Z世代：1997年以降に生まれた世代。（諸説あり）





UPGRADE Plant based kitchen 大丸心齋橋店



大豆ミートの油淋鶏からあげ

## ブルキナファソにおける栄養改善および女性の収入向上のための大豆商品サプライチェーン構築とビジネス調査

ガーナの当社グループ会社であるフジ オイル ガーナでは、原料のシアナッツの多くを隣国のブルキナファソから調達しています。この地域でシアナッツを収穫している女性たちの多くは、大豆生産にも従事しています。

そこで、当社グループは、ブルキナファソにおいて大豆の調達および「大豆ミート」の開発・製造・販売による現地の消費者の栄養改善と農家の収入向上を目指し、事業化可能性調査を実施しています。本案件は、国際協力機構（JICA）の「2018年途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」※に採択されており、本枠組みの中で、SDGsターゲットへの貢献可能性についても検討を進めています。

これまで、現地での大豆調達ネットワークの構築、女性大豆農家組織の現状調査などを実施し、その上で大豆収量増加に向けた取り組みにも着手しています。また、発育阻害や微量栄養素不足などの栄養課題の改善に寄与すべく、現地の食生活および栄養状態に合わせた商品開発の方法など、さまざまな関係者に協力いただきながら検討を進めています。

現地の目線に立って社会課題を理解し、当社の強みを生かしながらその解決に貢献できるよう、今後もバリューチェーンの各段階における調査を予定しています。

※ 国際協力機構（JICA）「途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」：

開発途上国における持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献するビジネスを計画している本邦法人の提案に対して、調査費用1件5,000万円を上限として最大3年間の期間でJICAが支援を行い、事業計画の策定を行うもの。





農家グループとのミーティング



大豆畑

## 糖の摂取過多への対応

### 特に貢献を目指すSDGs



### マネジメント情報

#### テーマと事業活動の関わり

肥満や生活習慣病を予防するため、糖の過剰摂取を無くすことに対する世界的な注目が高まっています。例えば、WHO（世界保健機関）は2015年に、成人あるいは未成年が一日に摂取する糖類について、一日に摂取するエネルギーの10%以下に抑えることを推奨する指針を公表しています。不二製油グループは、業務用チョコレートやホイップクリームなどの多くの製品に砂糖を使用しています。また、BtoBの食品素材メーカーとして糖質の一部の代替となり得る植物性たん白素材※の研究に強みを持っています。これらのことから、糖の摂取過多の抑制に貢献できると認識しています。

※ 糖質の一部の代替となり得る植物性たん白素材：主食（パンやシリアルなど）や菓子に含まれる糖質について、部分的に当社の植物性たん白素材に置き換えることができます。お客様がパンやシリアルを製造する際に、植物性たん白素材を部分的に利用いただくことで、その製品の糖質の含有量低減に貢献できます。

#### 考え方

世界の人々の健康のために、おいしく、糖の摂取を抑えるためのソリューションを提供していきたいと考えています。食品の糖質の一部をたん白質に置き換えることにより栄養バランスに優れ、且つおいしい食品素材をお客様、そして消費者に提供できると考えています。高たん白糖質オフ食品

をお客様へ提案・提供することで、消費者における糖の摂取過多の解決に貢献したいと考えています。



## 推進体制

糖の摂取過多への対応については、最高技術責任者（CTO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、2020年度よりESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## Next Step

今後は、ノンシュガー製品の拡販や食品（パンなどの主食や菓子）の糖質の一部を代替する植物性たん白素材の開発などの取り組みを推進していきます。2020年度はパン、シリアルといった主食系食品のたん白質の比率を高める食品素材の開発を進めます。

## 具体的な取り組み

### ノンシュガーチョコレートへの拡販

砂糖の摂取を控えたいという要望に応えるノンシュガーチョコレートの販売量を増やしています。ブラマーチョコレートカンパニー（米国）では大手のお客様向けにノンシュガーのコンパウンドチョコレート※の販売を増やしており、専用の製造ラインで生産しています。日本やヨーロッパでも需要はますます高まり、アジアでも砂糖の摂取を控えたいという消費者が増えると考えています。不二製油グループのこだわりはおいしさと健康です。当社グループのチョコレート事業のネットワ

ークを活かしておいしいノンシュガー製品を世界各地で提供できるようにするために、原材料の選定、レシピの設計、製造方法、お客様への販売などにおいて協力して進めています。

※ コンパウンドチョコレート：チョコレートの主原料はカカオ・乳・砂糖・油脂であるが、この油脂についてカカオから採れるココアバター以外の植物性油脂を使用した製品のこと。

## 糖質オフ食品の拡大

当社グループでは、おいしい植物性たん白素材の研究を続けることにより、糖質の多い食品（主食や菓子）の糖質の一部をたん白質に置換し、栄養バランスに優れた食品の提案・提供ができると考えています。

例えば、主食として食べられるパンやシリアルなどの糖質の一部をたん白質に置換することにより、おいしさはそのまま無理なく糖質を減らすことができます。それら糖質に置換できるおいしい植物性たん白質素材をお客様に提案・提供することで、消費者の食の喜びと健康に貢献します。



糖質オフクッキーバー



糖質オフシリアル

※ 写真はイメージです。

## トランス脂肪酸含有量の低減

### 特に貢献を目指すSDGs



### マネジメント情報

#### テーマと事業活動の関わり

食用油脂の加工法として水素添加技術（硬化技術）が開発されて以降、トランス脂肪酸（TFA）を含む油脂は急速に利用が広まり、食品の多様化に貢献してきました。しかしその後の研究により、エネルギー比で2%以上のトランス脂肪酸の大量摂取を続けた場合には、心疾患のリスクを高めることが報告されました。2003年にはWHO/FAO会合において、トランス脂肪酸の最大摂取量を1日当たりの総摂取エネルギーの1%未満にするように勧告がなされました。

さらに、2018年にWHOは、加工食品を製造する際に発生するトランス脂肪酸を低減するための行動指針を公表しました。この指針では、2023年までに、工業的に生産された食品のすべての製品に対してトランス脂肪酸の低減（2g-TFA/100g-oil以下）を達成することなどを各国政府や食品企業に呼びかけています。

不二製油グループでは、製造時にトランス脂肪酸が発生しないエステル交換などの技術に強みを持っています。チョコレートやマーガリン用に低トランス・ノントランス脂肪酸油脂を製品化することで、お客様そして消費者に対し、おいしく健康な食素材の提供に貢献できると考えています。

#### 考え方

不二製油グループでは、従前よりお客様と協働しながら各地域でトランス脂肪酸の低減に向けて取り組んできましたが、さらに取り組みを強化するために、2019年度に当社グループとしての考え方



を整理しました。“おいしさと健康で社会に貢献する”というグループ憲法の考え方にに基づき、WHO（世界保健機関）の指針に沿って、トランス脂肪酸の摂取量が総摂取エネルギーで1%をオーバーしている地域において、2023年度にトランス脂肪酸を2g-TFA/100g-oil以下に低減していくことを目指し、2019年度より社内体制を強化して取り組んでいます。

## 推進体制

トランス脂肪酸含有量の低減への対応については、最高技術責任者（CTO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、2020年度よりESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## Next Step

2023年度での達成を目指し、各国でのトランス脂肪酸の法規制に基づいてトランス脂肪酸含有量の低減に取り組んでまいります。各グループ会社で年度ごとの目標値を設定し、全社で進捗を管理して対応を進めていきます。

## 具体的な取り組み

### ノントランス酸・低トランス酸への対応

世界のさまざまなエリアで、トランス脂肪酸の使用規制が進んでいますが、特に米国では、FDAの通達※を背景とした低トランス脂肪酸のパーム油需要が拡大しています。トランス脂肪酸低減への対応を強化するために、海外グループ会社のフジ ベジタブル オイル（米国）では、ニューオリンズの新拠点の2021年度内の稼働開始を予定しています。

※ FDAの通達：FDA（米国食品医薬品局）が2015年6月に発表。心臓病のリスクを高めるとされる「トランス脂肪酸」の原因となる油について、2018年6月以降は食品への使用を原則認めないとした。

## サステナビリティ

# 食の安全と品質の徹底

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは食品素材メーカーとして、お客様そして消費者における食の安全に影響を与え得ることを認識しています。製品設計から原料調達、製造、出荷、そして消費者が口にするまでを考慮して食の安全と品質を徹底することが重要であると考えています。

### 考え方

不二製油グループにとって、安全・安心な製品を社会に提供することは、事業活動の前提です。当社グループでは、お客様に安心して、安全な製品をご使用いただくために「品質基本方針」を定め、製品設計からお客様にお届けするまで、お客様の目線に立った製品づくりを目指しています。品質保証規程に基づく品質および食品安全マネジメントの強化、継続的な従業員の品質意識向上のための活動を推進することで、食の安全と品質の徹底に貢献できると認識しています。

### 品質基本方針

1. 法およびその精神を順守し、安全・安心な商品をお客様にお届けする。
2. 創造的な商品を開発し、タイムリーにお客様にお届けする。
3. 顧客満足度の向上に努める。



4.真意の伝わるコミュニケーションで問題解決に努める。

## 推進体制

食の安全と品質の徹底については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

不二製油（株）では、品質に関するお客様からの苦情、クレーム、お問合せについて、営業部門が受け付けています。これらは品質管理部で精査され、適切な部署で検証や調査を実施しています。その後、品質管理部を経て営業部門からお客様へ回答しています。

不二製油グループの各社で受け付けしたお客様の苦情、クレームのデータは、各社が収集・分析しています。不二製油グループ本社はそれらの情報を集約・分析し、グループ会社全体で情報共有しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 海外品質保証体制レベル向上のための品質監査項目のブラッシュアップ
- 品質担当者間のネットワーク構築
- 品質保証規程のブラッシュアップと浸透

### 2019年度実績

品質監査項目のブラッシュアップについては、現場の管理レベルが把握できる内容に変更し、2019年10月以降の監査での使用を開始しました。また、品質担当者間のネットワーク構築として、世界の品質事故、食品法規制の動向などを生産性推進グループで収集し、グループ会社へ発信する、情報共有の取り組みを始めました。品質保証規程のブラッシュアップと浸透品質保証規程の理解を深めるために、規程に記載された「品質保証活動」について解説した資料をグループ会社へ配布しました。

## Next Step

今後も「不二製油グループで製造されるすべての製品において、自社が原因となるクレームをゼロにする。」に向け、従業員の品質意識向上のための教育活動や認証取得などの取り組みを通して、

不二製油グループでの食の安全と品質の徹底に取り組んでまいります。

2020年度は「① 重大品質クレームゼロを実現するために、従業員の品質意識向上を図る」、「② 不二製油グループ本社を中心とした品質ネットワークの構築を推進する」を目指し、集合教育実施状況調査、定期品質データ収集の見直しなどの活動を推進する予定です。

## 具体的な取り組み

---

### リスク管理と対策

#### 品質マネジメント体制

当社グループでは、「不二製油グループ安全品質環境基本方針」を事業活動に適用するため、グループ各社で品質マネジメント体制を構築しています。また、当社グループとして、「安全環境管理規程」および「品質管理保証規程」を制定し、これらの規定に基づき各グループ会社の管理状況のモニタリング（安全・品質・環境監査）を実施しているほか、各グループ会社の担当者を対象に、「安全・品質・環境会議」を地域ごとに開催し、取り組みの共有化・グループ内の好事例や管理ノウハウの横展開を行っています。

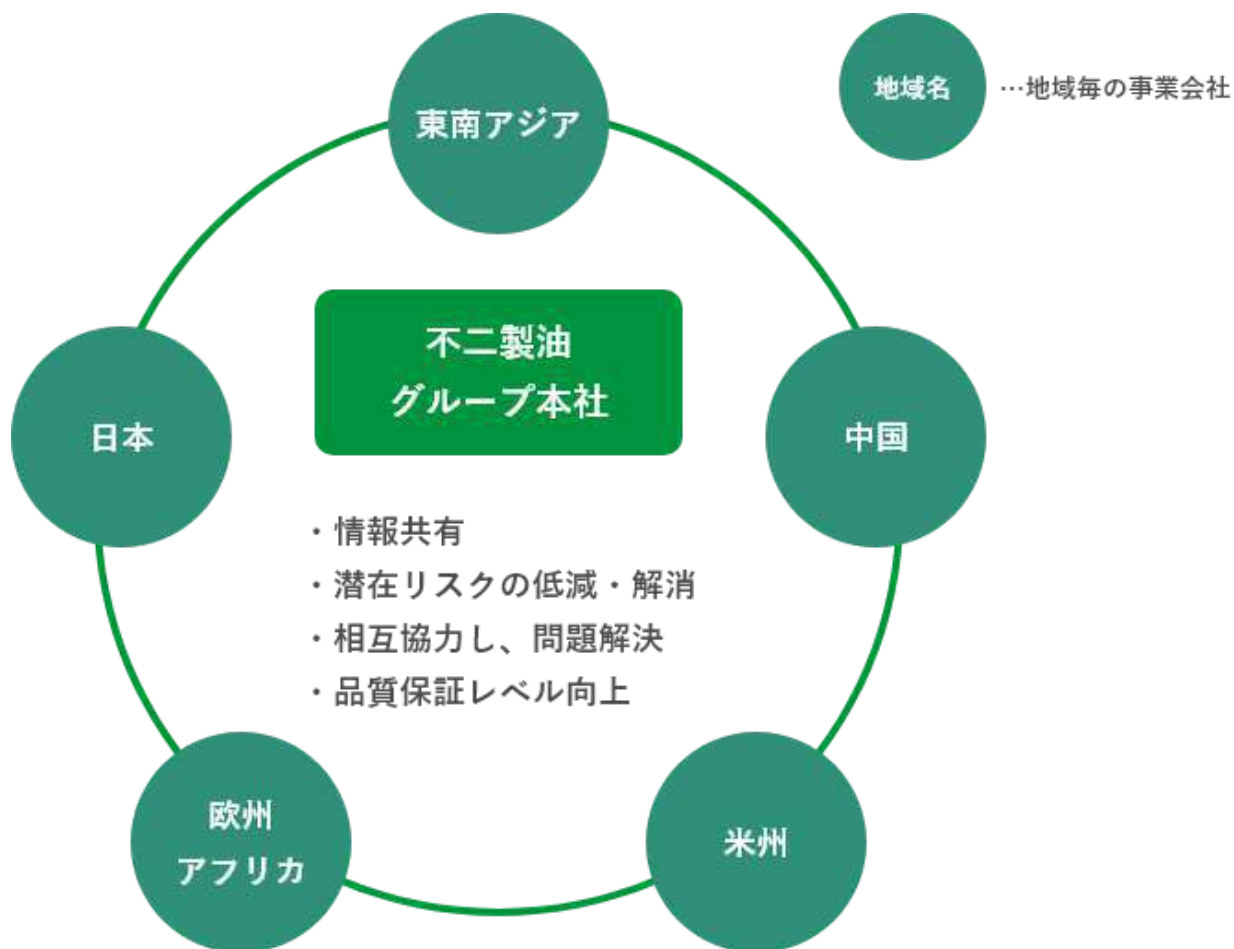
#### マネジメント認証の取得

マネジメント認証の取得状況の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/>

#### 品質管理者間のネットワーク構築

潜在的なリスク(他グループ会社の経験知を共有していない、自国以外の最新の食品規制情報や国際的な食に関するトレンドを共有していない等)の低減・解消に努め、また、問題発生時には相互に協力して速やかな解決を図るため、各グループ会社の持つ資源（経験に基づくノウハウ・地域特有の規制動向等）を相互活用できるネットワークの構築を進めています。具体的には、包括的に品質保証に携わる品質管理者間での情報共有を促進し、品質保証体制の向上を目指します。



## 食の安全に関するリスク管理手法

食の安全に関するリスクについても、不二製油グループ全体のリスクマネジメントシステム※の中で、各グループ会社および職能が管理・対応しています。

※ リスクマネジメントシステムの詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/governance/risk/>

## 食の安全に関するリスクと対策

不二製油グループ全体での2019年度のリスクアセスメントの結果、食の安全に関して、異物やアレルギー物質、不適切な原材料の混入リスクが改めて認識されました。これらのリスクについては、品質マネジメント認証の取得および内部監査での重点的な評価・指導を通じて、発生の可能性低減に努めています。

## 教育

不二製油グループでは、従業員の品質意識の向上のために教育活動を行っています。不二製油（株）では行動指針を掲げ、各工場での取り組みを支援するとともに、衛生講演会などを実施しています。2019年度は衛生講演会に100名が参加しました。

そのほか、日本産業界の「品質月間委員会」が定める品質月間（毎年11月）に参画しています。品質月間においては、品質テーマを決めて周知徹底を図るなど、従業員全員の意識の啓発に力を入れ

ています。

また、当社グループ全体の品質マネジメント水準を向上させるべく、海外グループ会社に向けて、新たに導入した分析機器の技術指導を継続して行っています。グループ内の先進的な分析技術をほかのグループ会社に広め、より安全・安心な製品を世界中のお客様にお届けできるよう、今後もグループ間の技術交流を広めていきます。

## 製品表示

製品の表示内容は、販売する国によって大きく異なるため、各グループ会社の品質保証部もしくは品質保証を担っている部署が情報を収集し、各国・各地域の法令に則った製品表示の徹底に努めています。例えば、不二製油（株）では、法令については品質保証部が毎日情報収集し、改正があれば日々配信している「食品安全情報」を通じて社内関係者に伝えることで、迅速かつ確実に製品表示に反映しています。

また、製品表示の内容で法令に反する誤りがないか、実際に表示する前に開発部門・生産部門・品質保証部などの担当者がチェックする仕組みをつくり、管理を徹底しています。さらに、お客様が求める情報は、商品規格書や不二製油（株）ウェブサイトなどでタイムリーに開示することで透明化を図っています。

2019年度、製品表示に関する重大な違反は、日本および海外グループ会社において発生していません。

## リコール・事故の状況

2019年度、不二製油グループにおいてリコールは発生しませんでした。

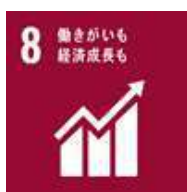
| 年度   | リコール発生件数 | 内容   |
|------|----------|--|
| 2019 | 0        | —  |
| 2018 | 1        | 2018年3月フジオイル ヨーロッパ（ベルギー）製造の一部の油脂製品およびチョコレート製品で、EU規則による上限値を上回るグリシドールエステル※が含まれる事案が発生し、リコールを実施しました。すべての対象商品について消費者に販売される前に回収されたことを確認の上、再発防止策を講じました。 |
| 2017 | 0        | —  |

※ グリシドールエステル：油脂を精製する過程で発生する物質で、発がん性等の人体への影響の観点から、欧州ではすでに含有量について法制化されており、CODEXにおいても安全性について議論されている物質。

## サステナビリティ

# ダイバーシティ経営の実践

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

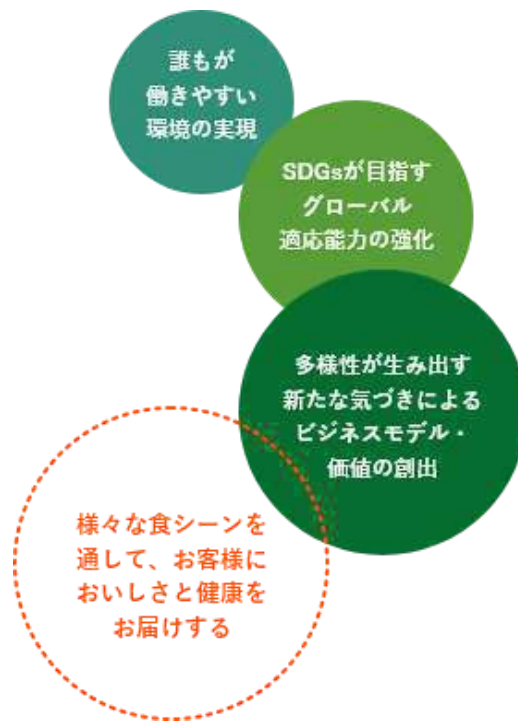
### テーマと事業活動の関わり

グローバルに事業活動を展開する不二製油グループにとって、人材の属性・価値観の多様性を尊重することは重要な社会的責任です。また、社会価値が変化する中で社会に貢献し続けるためには、過去の延長線上ではなく将来を見据えたバックカスティングの事業戦略が重要であり、創造性がますます求められるようになります。同質の集団の中で創造力を発揮するのは限界があります。社会への価値提供の側面からもダイバーシティは重要です。人材が活躍できる環境や風土を整えることが、創造性豊かな戦略に基づいた事業創出に資すると認識しています。

### 考え方

多様な人材が価値観と個性を発揮できる環境を整えることが、社会に対して持続可能な価値を創造し続けるための源泉になると考えています。不二製油グループでは、「不二製油グループ憲法」の中で「人のために働く」という価値観を掲げています。これは、仕事をする上で対峙する人の立場に寄りそって考えることを意味し、当社グループがダイバーシティを活かし、社会に価値を提供するための基本となる考え方です。

この考え方に基づき、2020年度以降に向けて「不二製油グループダイバーシティビジョン」を策定しています。また、不二製油（株）においては、このビジョンを具体化するための「ダイバーシティ基本方針」を定めています。



## 不二製油グループダイバーシティビジョン

### ダイバーシティを楽しもう

世界の多様な人材がお互いに刺激しあい、イノベーションを起こしていく。この過程をお互いに楽しみながら、多様性に富んだ世界中のお客様に様々な食シーンを通じておいしさと健康をお届けできるよう「人のために働く」を実践し、社会へ貢献します。

### ダイバーシティ推進における重要な領域

不二製油グループでは、2020年度以降のダイバーシティビジョン策定に際して、ダイバーシティを推進する上での重要な領域として、性別、国籍、世代、専門性、経験を整理しました。従業員一人ひとりのバックグラウンドや個性が活きる姿を目指し、制度や意識の改革に取り組みます。



## 不二製油ダイバーシティ基本方針

多様な人材を幅広く求め、それぞれが持てる能力を最大限に発揮できる風土を醸成することで、社会への新たな価値提供を加速していきます。

- 1.採用、育成、登用などの人材発掘の全段階において、人員構成の多様性を意識します。
- 2.多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮できるよう、柔軟性のある制度展開を行います。
- 3.多様な人材の戦略的な活用を意識し、社会および会社への利益貢献へとつなげます。

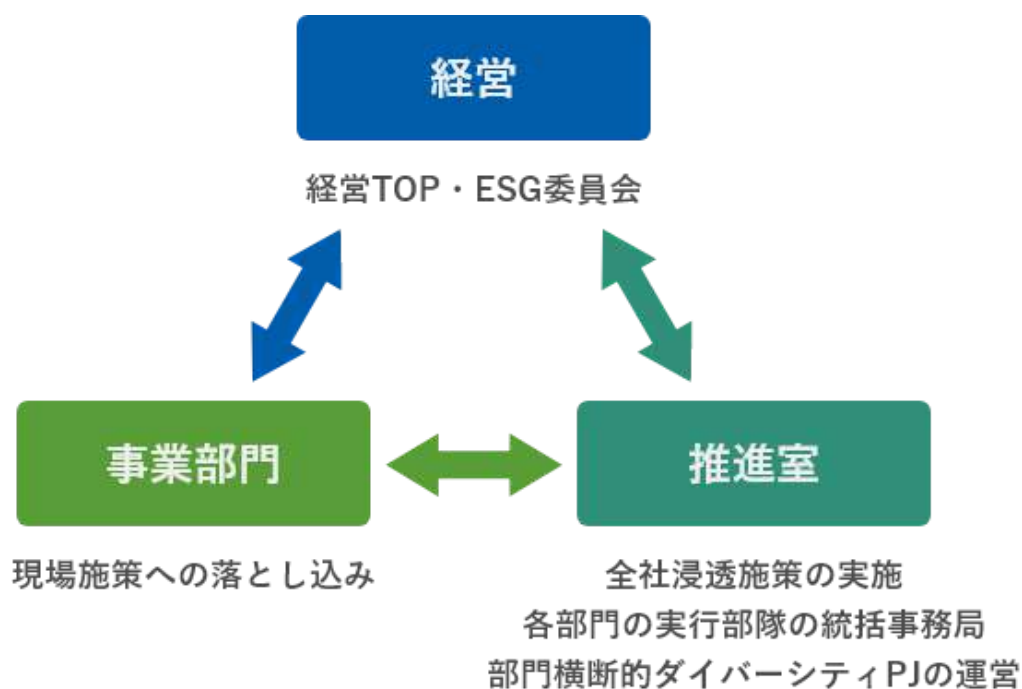
## 推進体制

ダイバーシティ経営の実践については、最高総務責任者（CAO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

### 推進体制



## 目標・実績

### 2019年度目標

- ダイバーシティ経営のビジョン・ロードマップの策定



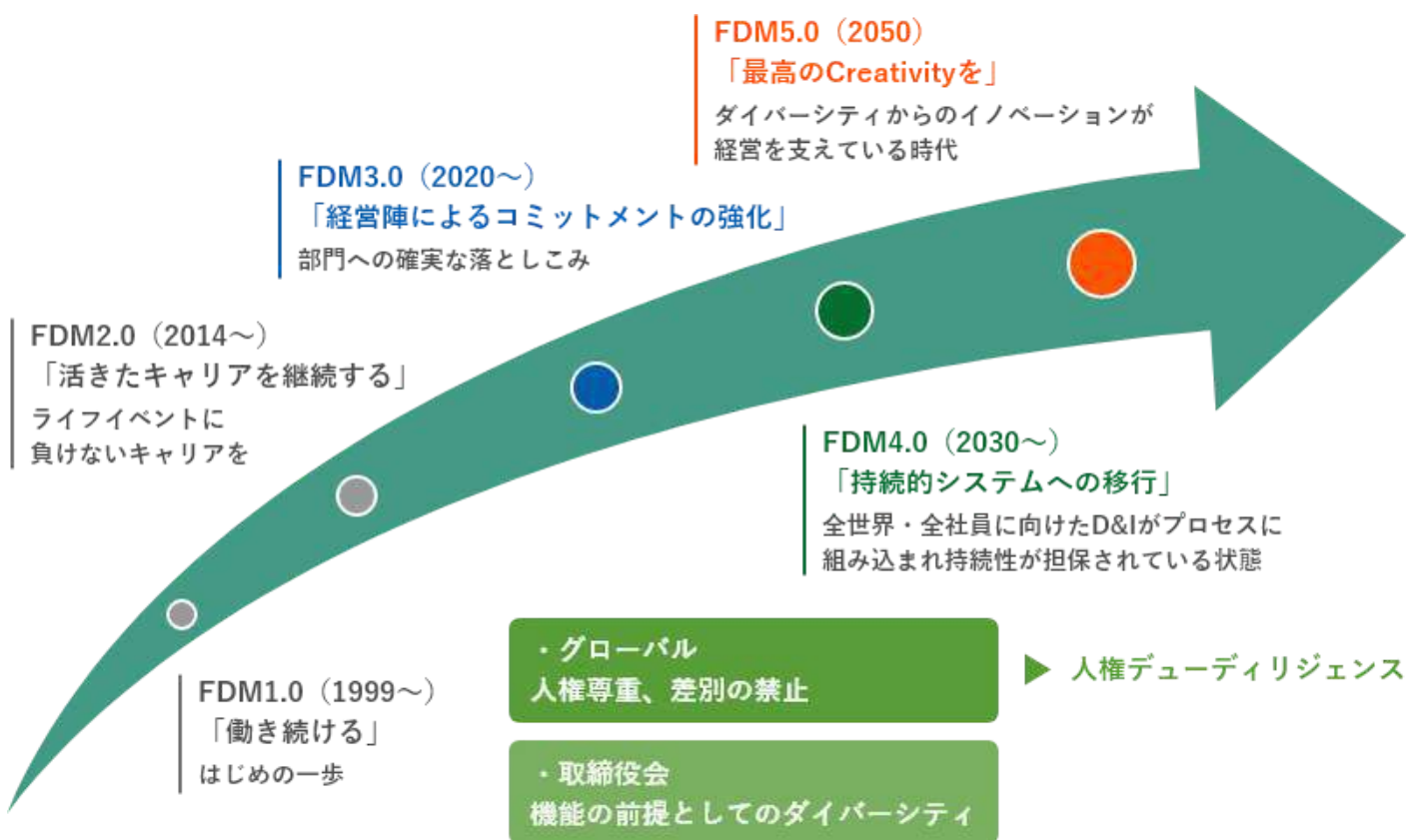
## 2019年度実績

上記の目標に対する2020年度以降に向けてのビジョン※・ロードマップを策定しました。

※ ビジョンは本ページの「考え方」をご参照ください。

### ロードマップ

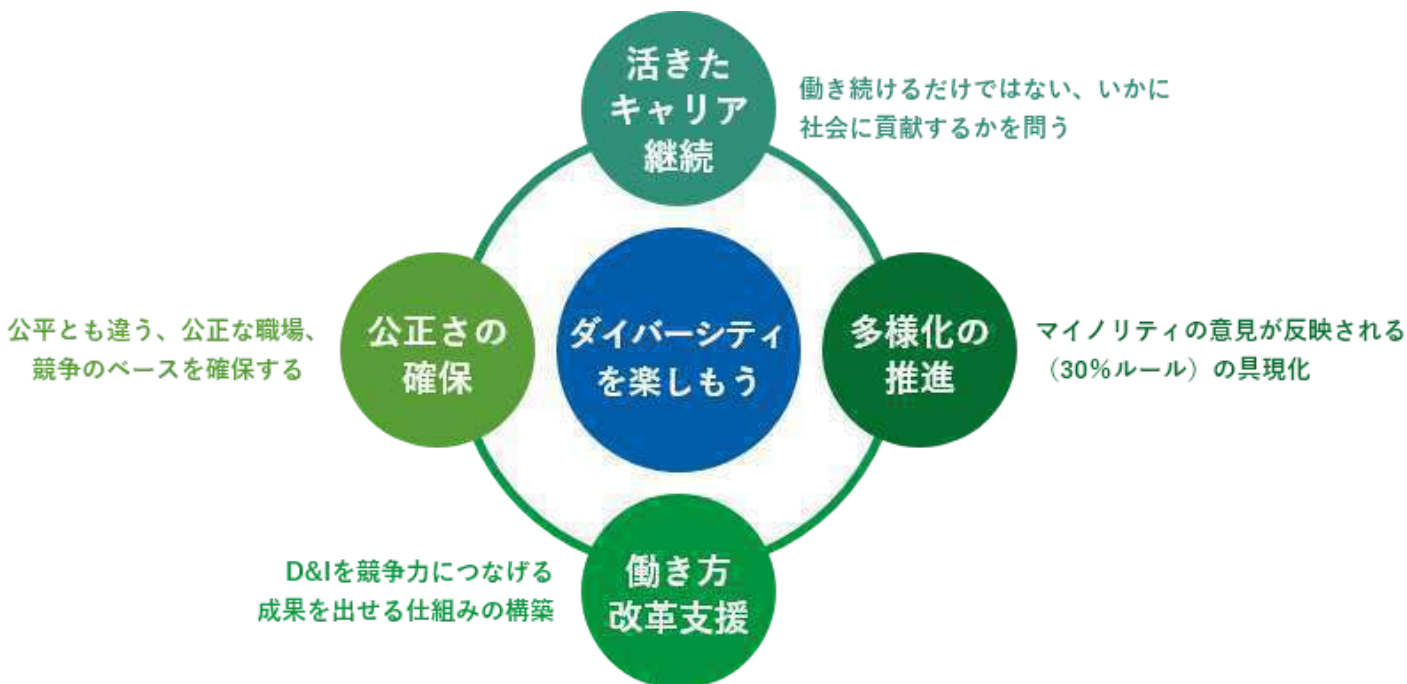
イノベーションの源泉としてダイバーシティが経営を支え、おいしさと健康で社会に貢献し続ける姿を実現するためのロードマップを下図の通り整理しました。不二製油グループでは1999年度よりダイバーシティの推進に取り組み、これまでキャリアの継続にかかる全社的な制度や施策の強化を行ってきました。2020年度以降は新たなフェーズとして、経営陣によるコミットメントの強化のもとで、各部門におけるダイバーシティを実践していきます。



※ FDM : Fuji Diversity Management

## Next Step

ロードマップに基づき、FDM (Fuji Diversity Management)3.0の施策として、多様な働き方を促進するため制度の拡充や意識改革の取り組みを通して、不二製油グループでのダイバーシティ経営の実践に取り組んでまいります。



2020年度は、主に以下の項目について、活動を推進します。

○活きたキャリアの継続

シニア層の活躍促進

- セカンドキャリア・ライフプラン研修の実施

○公正さの確保

部門目標の設定

管理職の意識改革

- アンコンシャス・バイアス研修の実施

○多様化の推進

障がい者雇用環境の整備

## 具体的な取り組み

### 日本における取り組み

#### 活きたキャリアの継続を目指して

##### シニアの活躍

すべての従業員が当事者となるシニア層の潜在能力に注目し、今期のダイバーシティ推進の主要な柱の一つとして位置づけています。2020年度は下記の2つの施策を実施します。

### ① セカンドキャリア・ライフプラン研修の充実

50代での2度の研修を通して、早い段階でのキャリアの棚卸を可能にします。

### ② 個別キャリア面談の実施

研修対象者全員への個別キャリア面談を実施し、職場の期待と本人の要望をすり合わせ、今後の能力向上の方向性等について話し合います。

当社では、シニア層が高い能力と広い視野を背景に、多くの選択肢を持ち、定年後の自己実現を図れるよう支援するとともに、強い貢献意識をもって会社を支える人材を確保していきたいと考えています。

## ライフイベントを乗り越える

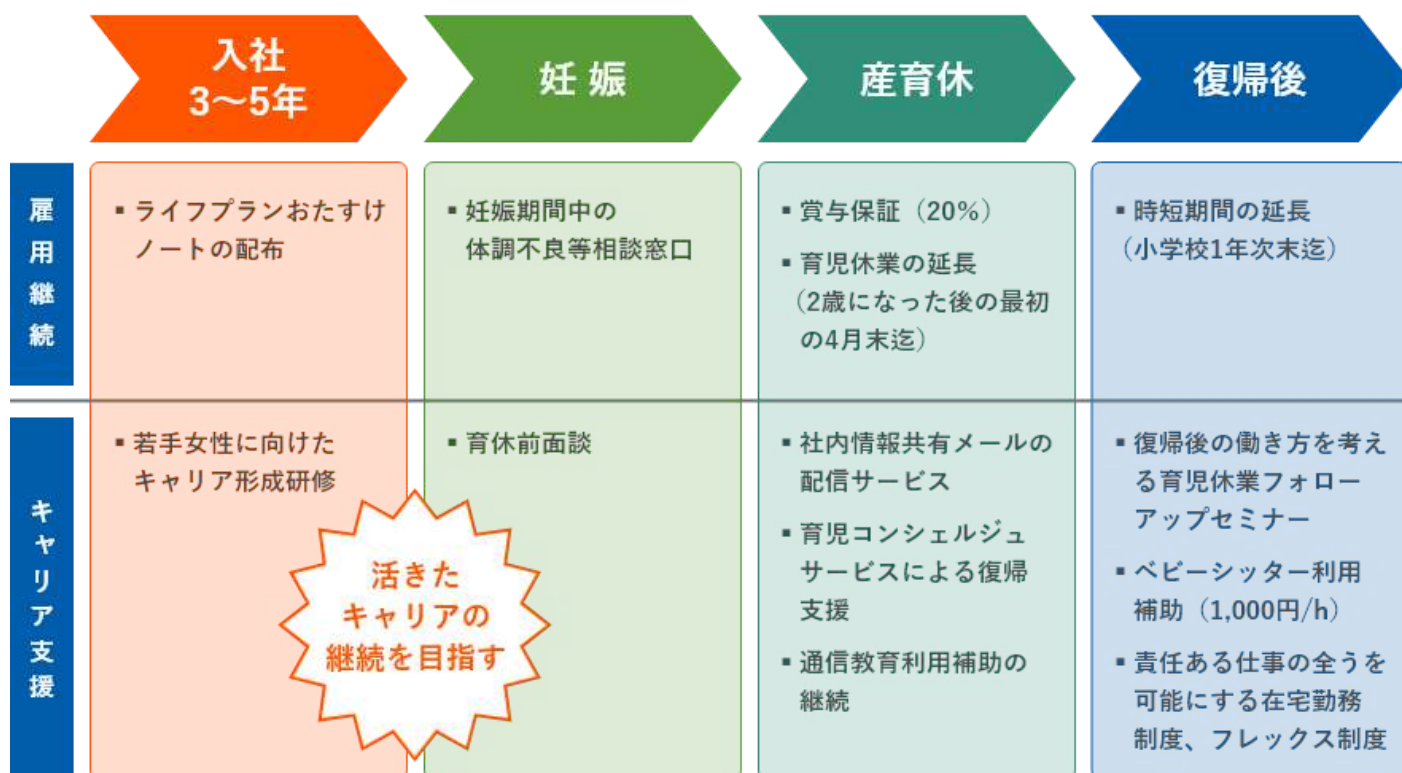
当社では、永年にわたり女性の育児休業取得率100%を継続していますが、育休後のキャリア形成という面では課題もありました。そこで2014年度以降は支援のあり方を大きく方向転換し、それまでの雇用の継続を意識した制度に加え、ライフイベントを乗り越えてキャリアを積極的に構築していこうとする層をサポートするさまざまな制度を取り入れています。

2016年度には、入社3～5年目の若手女性に向け、ライフイベントを乗り越える研修として、生涯を通じたキャリアの形成、両立支援制度、世代間の相互補助の形成についての提案、ロールモデルの提示、などを行っています。現在、この層が出産やキャリアの発展期を向かえ、しなやかに逞しくキャリアを形成する新しいロールモデル像を作り出しています。この研修は3～4年に1度の実施をベースにしており、2020年度も実施を予定しています。

また、2014年度から開始した育休復帰フォローアップセミナーは、上司・配偶者・男女の育児勤務者の3者形式でスタートしており、育児勤務者を取り巻く家庭・職場での支援の輪の形成や、育児勤務者自身の意識の変革につながりました。2019年度は、研修の骨子をまとめた小冊子「育休復帰おたすけノート」（上司版、育児勤務者版）を配布しています。

現在、女性管理職に占める育児勤務者も45%となっており、ライフイベントの有無に関わらず、キャリアを形成できる体制が整ってきたことを示しています。

## ライフイベントを踏まえてフォロー体制を整備



### 公正さの確保

#### 部門目標の設定

トップ方針を組織活動に完全に根付かせるため、2020年度は各部門での課題把握、目標設定、推進メンバー設置を実施します。目標と成果については、定期的に経営トップへの報告を行います。部門状況により、ダイバーシティの推進にばらつきのある状態を可視化することで、さらなる改善へとつなげていきます。

#### 管理職の意識改革

機会の均等を確保するためには、人材育成の中心を担う管理職のあり方が最も重要になります。このため2019年度以降、管理職を対象として人材育成やダイバーシティマネジメントに関する研修を充実させてきました。2020年度は、アンコンシャス・バイアス※研修等を予定しています。

※ アンコンシャス・バイアス：個人が持つ、無意識の思考のパターン、考え方の癖。自然界で大量の情報を瞬時に処理・対応して、生きていくために獲得した能力だが、現代では環境の変化に対応できないこと等が問題となっている。そのため、時折バイアスを意識上に持ってきて、修正することが必要となる。

### 多様な人材の活用推進

#### 女性の活躍推進

1999年度に当社のトップ方針として女性活躍推進が打ち出され、これに対して女性活躍推進委員会（現：Fuji Active Network）を立ち上げ、本格的な取り組みを開始しました。

2016年度には、管理職に占める女性の比率目標を設定し、2020年4月までの4年間に管理職比率は3.78%から10.54%へと上昇しました。しかしながら、育成面での課題などから、2020年度の目標数値20%には達しませんでした。今後、採用・育成における機会の均等をさらに重視する必要があると認識しています。

採用に関しては、新卒の総合職に占める女性の割合が、2017年度以降4年間、ほぼ半数で推移しています。また育成面に関しても、仕事のアサイン、OJT※、OFF-JT※<sup>2</sup>を含め、より公正な運用を推進していく予定です。

この他、2016年度より、内閣府の「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に、不二製油グループ本社のCEOが賛同しており、従業員ならびに社会に対して、経営におけるダイバーシティの重要性を発信しています。

※ OJT：On the job trainingの略称。日常の業務につきながら行う教育訓練。

※2 Off-JT：Off the Job Trainingの略称。通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練。



## 外国籍社員の採用

さまざまな能力を持つ外国籍人材を採用しており、研究開発、企画、管理など多くの分野で活躍いただいています。国籍を理由とした待遇差はなく、個人の特性やスキルを尊重した職場配置を行っています。また、お祈りなどをできる多目的室の設置など、宗教・慣習を尊重した職場づくりに努めています。

## 障がい者の活躍推進

これまでも障がい者雇用に取り組んできましたが、知的障がいを持つ従業員が活躍する職場は多くはありませんでした。これに対応するため、2015年度より、地域の学校との連携や、職場体験実習の実施、先進企業との情報交換を通し、体制を整えています。一人ひとりの個性に配慮しながら、活躍の場を提供する、という基本姿勢に立ち返ることで、育成にあたる管理職の意識改革にもつながっています。

2020年度は、全社的に業務の洗い出しを行い、より多くの活躍の場を提供できる体制をつくることを目標にしています。

## LGBT

2019年度、不二製油グループで実施した人権週間※の一連の活動の中で、理解浸透が道半ばであるLGBTに関するセミナーを実施しました。当社の性的マイノリティである従業員が、自ら手紙を通して研修への積極的な関与を図ったことにより、多くの従業員がごく身近なダイバーシティの事例として、LGBTを捉えるきっかけとなりました。結果、役員をはじめ多くの従業員が実際にアライ（支援者）となり、ダイバーシティ推進担当を通して、対象の方への支持を表明するメッセージが沢山発信されてくるようになりました。一部の国内グループ会社でも同様のテーマで出張研修を実施しています。

### <研修参加者の声>

LGBTに限らず、人間は種々の価値観や考え方、個性、環境の中に生きています。そのそれぞれはその人物の価値を決めるものではなく、その人がその人であるためのものです。企業は同じ目的のために働いて、社会に価値を創出していく団体であり、人に順位をつける組織ではありません。本来の業務以外のことで批判したり、仕事をしづらい環境を作ることには絶対に許されないし、その人である尊厳を犯すことはあってはならない。「人のために働く（当社のビジョン）。」そのことを改めて考えさせられました。

※ 人権週間の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human\\_rights/](https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human_rights/)

## 非正規雇用の正規化

2017年度から、有期雇用契約の対象であった「準社員」を期間の定めのない「地域限定社員」に改めました。また、活躍の意欲にあふれる非正規雇用社員を対象に、年1回、正社員登用試験を実施しています。2020年度には男女併せて7名を登用しています。今後も本制度を通じて、能力と意欲のある人材の積極的な登用を図っていきます。

## 従業員主体の取り組み

ダイバーシティ推進のための重要施策の一つとして、1999年度より、部門横断的なプロジェクトであるFuji Active Network（FAN）を運営しています。人事担当役員がプロジェクトオーナーとなり、従業員自身がイニシアチブを取って、実際のニーズに根ざした草の根的な活動を実施しています。

2019年度では経営層へのリレーインタビューを実施し、ダイバーシティや人材育成についてのメッセージを、イントラネットを通じて全世界の従業員に届けています。また、米国のグループ会社であるブラマー チョコレート カンパニー（米国）とダイバーシティやESGについての意見交換を実施し、グループ間での共創を図っています。社内をリードする多くのダイバーシティ施策がFANを通じて生まれています。



## 各種制度の利用促進

当社グループではダイバーシティ推進において、常にトップからの強力な発信がなされています。一方で、従業員が自ら気づき、行動を起こすことも重視しています。上辺だけの成果を追い求めるのではなく、風土に根付き、従業員に腹落ちした形のダイバーシティを目指しています。

その一環として、ワーク・ライフ・バランス支援の制度についても、利用者層の拡充を図っています。最近では、多くの従業員が当事者となり得る介護休業制度と男性育児休業制度について取り組んでいます。

2013年度以降、介護セミナーの開催や介護ハンドブックの配布により、介護について相談することがごく普通の社風になるよう啓発を行っています。加えて、2016年度より介護費用の補助を実施しています。これにより、介護制度の利用者は管理職や男性社員も含め徐々に出てきています。

男性育休の取得促進については、2014年度以降継続して取り組んでいます。当社では、あくまで自由意志での取得を基本としていますが、2019年度は男性育休の取得率は91%を達成しました。休業期間は1週間未満が中心でしたが、2020年度に入り、数ヵ月～半年を越える取得者が複数出てきており、制度が根付いてきています。

## 働き方改革

### 働き方改革推進の全体像

ダイバーシティの実現に欠かせない働き方改革を推進するため、2016年度に“Creative Workプロジェクト”（現CWORK推進会議）を立ち上げました。生産性の向上による総労働時間の削減およびワーク・ライフ・バランスの向上を目指し、意識改革、業務改革、制度改革、職場創生の4つの改革に取り組んでいます。

2017年度からは、在宅勤務制度をさらに発展させるべく、テレワークを試行的に実施、サテライトオフィスの導入も行い、新たなワークスタイルを検討しています。併せて、RPAの導入、申請フローの電子化、TV会議の積極利用により、コミュニケーションの活性化、ペーパーレス化も推進しています。

これにより、新型コロナウイルス（COVID-19）への対応では、スムーズな在宅勤務への移行が行われ、従業員の約半数が実際に在宅勤務を経験しました。これを契機に、ITを活用して、時間や場所にとらわれずに成果を発揮できる仕組みをさらに定着させていきたいと考えています。

## グローバルな取り組み

不二製油グループの事業活動には、従業員、お取引先様、お客様、消費者、そしてサプライチェーン上の小規模農家の方々まで、さまざまなステークホルダーと関わっています。当社グループは「人のために働く」をグループ憲法の価値観の一つに据えています。「人のために働く」ことの本質は、仕事をする上で関わる人の立場に立って考え・行動することに他なりません。

2019年12月、人権週間※において、グローバルにメッセージを発信し、人権尊重や差別の禁止に関する啓発活動を行いました。このような活動は今後も継続してまいります。

※ 人権週間の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ [https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human\\_rights/](https://www.fujioilholdings.com/csr/social/human_rights/)

## 外部からの評価

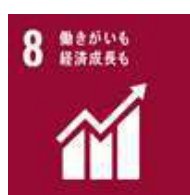
2020年3月末時点迄の、ダイバーシティに関連する主な外部評価は以下の通りです。

- 17年3月 大阪市女性活躍リーディングカンパニー 市長表彰受賞
- 17年8月 厚労省「プラチナくるみん」認定
- 19年12月 MSCI日本株女性活躍指数構成銘柄入り

## サステナビリティ

# 労働安全衛生の推進

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループの事業活動は、さまざまな人の関与のもとで成り立ちます。就業形態の多様化、雇用の流動化等が進む中で、従業員の安全を確保することは企業の社会的責任です。労働安全衛生を推進することで、従業員の健康に対して直接的に貢献できると考えています。

### 考え方

「不二製油グループ憲法」を構成するバリュー（私たちが行動する上で基本となる価値観）の最初に掲げている「安全と品質、環境」の中で、「安全」は当社グループが成長を続けるために最優先すべきテーマです。安全衛生の面では下記の6項目を「安全衛生基本方針」とし、“ルールを守り、経験を伝え、皆で築こう安全職場”をスローガンに、当社従業員および当社事業所内にて働くすべての方々の命を守るとともに労働災害ゼロ達成を目指しています。

### 安全衛生基本方針

1. 命の尊さを安全の基本とする。
2. 全員参加を安全の基礎とする。
3. 安全管理は職制の責任である。

- 4.安全は健やかな身体から生まれる。
- 5.安全な職場づくりをする。
- 6.危険を知り、危険を防ぐ。

## 推進体制

労働安全衛生については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※ において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 全グループ会社で作業開始前の危険予知活動（ミーティング）の定着化
- 労働災害発生リスクの高いグループ会社における安全管理活動のさらなる充実化

### 2019年度実績

既に危険予知活動が定着していた生産拠点を含め、すべての生産拠点で危険予知活動に取り組みました。また、事故リスクの高いグループ会社では危険予知活動の他、事業所内の不安全箇所と不安全状態をリスト化し、改善に取り組みました。具体的には、フジオイル アジア（シンガポール）とその傘下のグループ会社でのヒヤリハット発掘活動、安全キャンペーンなどを実施しました。

なお、2019年度は不二製油グループで100件の労働災害（不休、休業災害）（重篤災害は0件）が発生しました。これらの原因はすべて確認され、再発防止策を講じるとともに全グループ会社にて情報共有し、重要な問題については横展開を進めました。

## Next Step

今後も“人間尊重および安全第一を最優先とし、「安全で快適な職場」づくりによって全グループ会社にて災害ゼロを継続”に向け、労働災害を防止する教育・啓発活動の実施などの取り組みを推進します。2020年度は、全グループ会社にて不安全行動撲滅のため、危険予知訓練、指差呼称または Stop Look Think Act活動※ を実施予定です。また、重大な物的事故を防止するため、各グループ会社にて設備の総点検実施などを予定しています。

※ Stop Look Think Act活動：指差呼称の簡略版で、「作業時、行動に移す前に一旦立ち止まり、状況を確認して、考えてから行動に移す」活動。

# 具体的な取り組み

## リスク管理と対策

労働安全衛生リスクは、不二製油グループのリスクマネジメントシステムにおいて、全社重要リスクとして特定されています。不二製油グループ本社に2017年に生産性推進グループを設け、「不二製油グループ憲法」にそって、各グループ会社と連携し、生産拠点ごとに労働安全衛生監査を実施してリスクを評価し、事故の撲滅と管理レベルの向上に取り組んでいます。

労働安全衛生監査について、国内のグループ会社と事業所は毎年監査を計画し、2019年度は生産拠点9軒を地域統括会社である不二製油（株）の安全品質環境監査室安品環監査チームにて実施しました。海外のグループ会社に対しては、前回の監査評価の結果に応じて次回の監査を計画しており、2019年度は生産拠点8軒を不二製油グループ本社の生産性推進グループが労働安全衛生監査を実施しました。監査では、前回監査での是正項目の改善状況の確認、そして新たな労働安全衛生リスクと改善必要項目をリスト化し、それらに対し改善を進めることで、さらなる労働安全衛生レベルの向上を目指しています。

また、労働安全衛生に関するリスク管理と対策を評価、改善するために、労使間の対話を重視しています。例えば、不二製油（株）では、労働協約に基づき、「労働安全衛生委員会」を毎月開催し、労働安全衛生に関する従業員の期待や懸念について協議を行っています。

## マネジメント認証の取得

マネジメント認証の取得状況の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/about/authen/>

## 教育

不二製油グループでは、生産拠点での労働災害の防止を重要な課題と考え、対策に努めています。特に、作業の中で災害につながる不安全行動や不安全状況がないかをチェックし対策を講じるとともに、リスクマネジメントのPDCA推進とヒヤリハット活動などにも取り組んでいます。さらに、グループ全体での従業員の安全に対する意識向上が重要と考え、複数言語で安全リーフレットを作成し各グループ会社に配布しています。各グループ会社では電光掲示板や情報発信掲示板を設置し、日々安全について注意を呼びかけています。また、安全体感教室を設け実際に危険な状態を体感するなど、従業員の安全意識向上への取り組みを進めています。

国内グループ会社では、ヒューマンエラーの防止策として、「声出し 指差」「ひと仕事 ひと指差」をスローガンに「指差呼称推進活動」に取り組み、各拠点において指差呼称が定着してきました。労働安全の基本である“一呼吸置き、確認する”をさらに定着させるため、今後も引き続き取り組んでいきます。

海外グループ会社では、安全衛生委員会※の設置や安全パトロール※<sup>2</sup>の実施、安全伝承活動※<sup>3</sup>、安全ミーティング※<sup>4</sup>などさまざまな安全活動に取り組み、全社一丸となって労働災害防止に取り組んでいます。

※ 安全衛生委員会：会社から指名された委員長のもと、労使の代表者による安全衛生に関する報告、議論を行う委員会。

※<sup>2</sup> 安全パトロール：不安全箇所、不安全状態の改善、撲滅のため、安全衛生委員会のメンバーによる工場内のパトロール。

※<sup>3</sup> 安全伝承活動：過去に発生した労働災害とその対策を後世に伝え、従業員の安全意識の向上を図る活動。

※<sup>4</sup> 安全ミーティング：作業開始前にその日に注意しなければならない安全事項など、作業員に周知するためのミーティング。

## 安全体感教育の実施



不二製油（株）

## Safety Campaign 2020 (Slips, Trips & Falls)



ハラルド（ブラジル）



フジ グローバル チョコレート（M）（マレーシア）





フレリアバディ (タイランド)

## インセンティブ

「労働安全衛生」の分野を含め、ESGに関して優れた取り組みを行った部門・グループ会社を表彰する仕組みとしてESG経営賞を設けています。

2019年度は、前年度（2018年度）の労働安全への取り組みに対して国内の1事業所が表彰を受けました。

## サステナビリティ

# 雇用・人材育成

## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは海外15カ国に37の主要拠点を有し、グローバルに事業を展開しています。その事業を支えているのは、約6,000名の従業員です。従業員は不二製油グループの価値創造を支える重要なステークホルダーです。人材育成は、従業員一人ひとりの能力開発・スキルの向上に資するとともに、当社の価値創造の基盤となるテーマです。

### 考え方

不二製油グループでは、事業を取り巻く環境のあらゆる変化に対応し社会に貢献し続けるために、その変化に柔軟に対応しうる組織づくり、人づくりが重要だと考えています。従業員と会社は互いに成長し、支え合う存在であるという考えのもと、個々が自律して能力を向上させるための教育支援をはじめ、組織強化のためのマネジメント人材の育成、事業のグローバル化を支える人材育成などに力を入れています。

この考え方に基づき、不二製油グループでは、「人材に関する方針」を定めています。

### 人材に関する方針

1. 「意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
2. グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
3. 公平・公正な人事制度（評価／処遇／育成）を構築・運営します。
4. 教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
5. 多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

## 推進体制

不二製油グループでは最高総務責任者（CAO）を最高責任者として、またグループ会社では各社社長が中心となり、人材育成の取り組みを推進しています。主要な取り組みについては、経営会議※等にて報告・レビューを行っています。

※ 経営会議：原則として月1回開催される社長および執行役員を主要メンバーとする社長の諮問機関。経営に関する重要事項について「経営会議」において十分に審議し、監視することにより社長および取締役会の意思決定に資するものとした上で、業務遂行の法令遵守および効率的な遂行が実施できる体制を整備、強化しています。

## 具体的な取り組み

### グローバル人材育成

中期経営計画の人事戦略において、グローバル人材育成を掲げています。グローバルに力を発揮できる人材の登用・育成を目指して、取り組みを推進しています。

### マネジメント人材の育成

不二製油グループでは、「不二製油グループ憲法」という共通の価値観のもと、国や地域、組織の枠を超えて、互いを尊重し認め合い、組織力を高め、一体感を持って社会へ貢献できるよう、マネジメント人材の育成が重要だと考えています。2019年度は、海外グループ会社における現地採用の新任社長3名を対象に、本社研修を開催し、国内各拠点の現場視察や、グループ憲法の理解と浸透を図るセッションを行いました。また中国エリア幹部の選抜研修では11名の幹部が2019年8月に来日し、グループ会社間のコミュニケーションを高めました。中期経営計画の達成に向け、マネジメント人材の開発に取り組んでいます。



その他、不二製油グループでは、将来のマネジメント層の早期育成を図るべく、2016年度からグループ討議や面接演習などを通じた集団場面・対個人場面における行動傾向を把握するアセスメント

を取り入れた研修を実施しています。本研修を通じて、マネジメントのあるべき姿を認識するとともに、各自が自身の課題と強みを客観的に把握します。受講後においても上司や人事部を交えたフィードバック面談やOJT計画の立案から振り返りまで行うなど、周囲が育成に深く関わりながら実行することで、確実な成長につなげていきます。

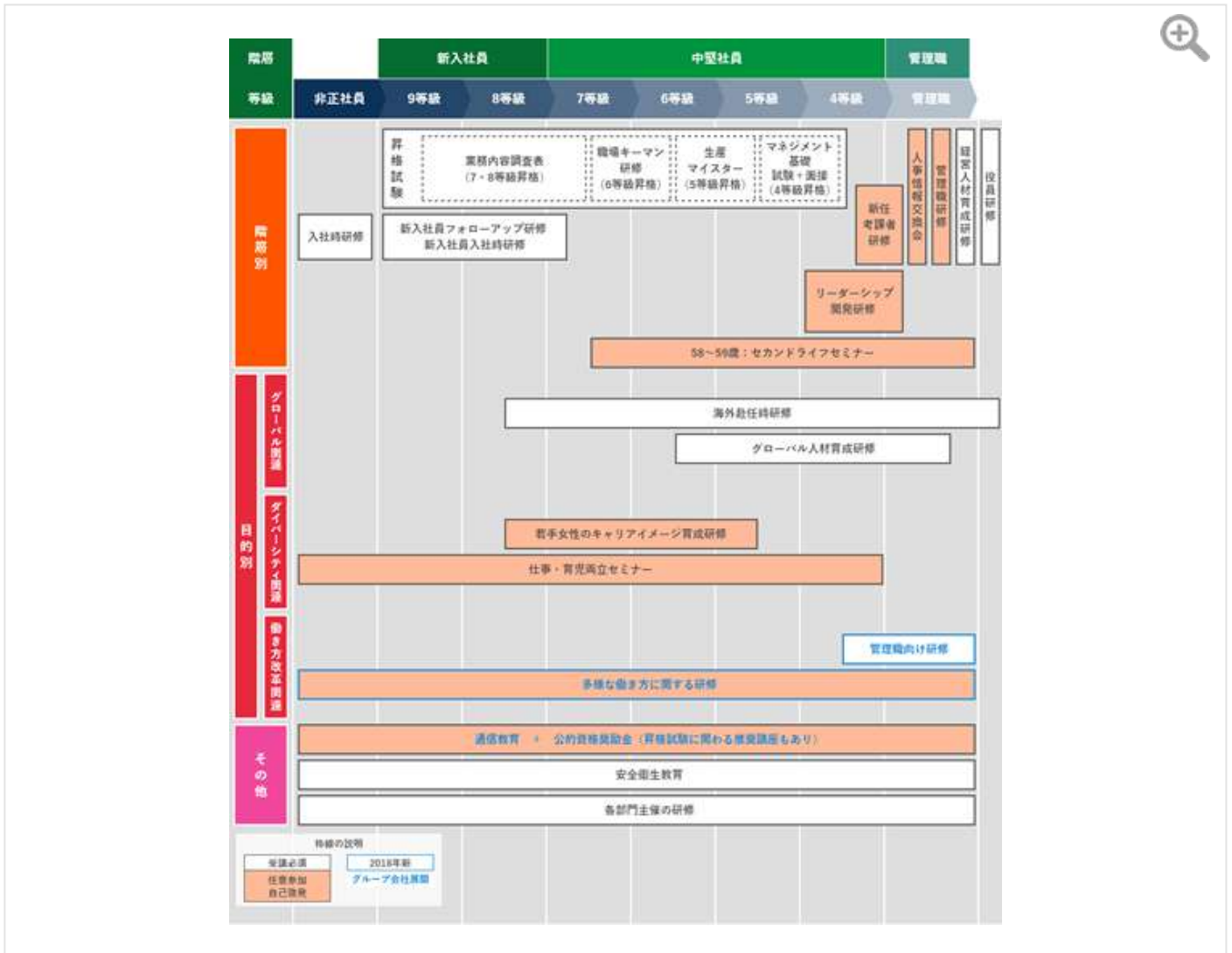
## グローバル化を支える人材育成

不二製油グループでは、語学力アップのための自己啓発や集合研修を実施するとともに、専門領域に応じた海外駐在など、グローバルマインド醸成やグローバル視点でビジネス経験を積むための取り組みを行っています。

## キャリア支援体制

不二製油グループ本社（株）および不二製油（株）では、役員、管理職、一般社員、新入社員などの階層別研修や通信教育受講者への補助金制度を設け、従業員のスキルアップを支援しています。また、上司からの年度評価フィードバック時に成長ポイント、啓発ポイントを共有する機会を設けるほか、全正社員を対象に、キャリアのたな卸しと今後のキャリア展望を可視化した「キャリアアップコミュニケーションシート」に基づく上司との面談機会を年に1度設け、キャリア育成、および適正配置による活躍の場を提供しています。

## 不二製油（株）研修体系図（2019年度）



## 従業員とのエンゲージメント

従業員が健康でイキイキと各自が持つ力を最大限発揮できる職場づくりを目指して、不二製油グループ本社（株）および不二製油（株）では従業員意識調査を定期的実施しています。働いている職場の環境や制度など、広範な観点から率直な意見を集め、経営陣や管理職に分析結果をフィードバックするとともに、業務や職場環境のよりよい改善につなげています。

## 労使間の対話

不二製油（株）では、従業員と会社はともに支えあう存在であるという考えのもと、労使間の対話を重視しています。会社側は人事部門が対話の窓口となり、創業と同時期に設立された不二製油労働組合とともに、70年にわたって従業員の働きやすい職場環境の整備に尽力してきました。毎月1回、労使間（会社側人事総務部門の代表と労働組合中央執行委員にて構成）にて、従業員がやりがいをもってその力を最大限に発揮し、成長・活躍するための対話の場を設けています。また、制度

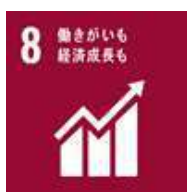
等の改訂の際は全国の事業所ごとに組合員の意見を聴取するなど積極的に取り組んでいます。不二製油労働組合はユニオンショップ制を採用し、管理職以外の正社員の加入率は100%です。



## サステナビリティ

# 従業員の健康維持・促進（健康経営）

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループにとって従業員の健康は、本人・家族の幸せだけでなく、企業価値を高める重要な経営施策であると認識しています。

### 考え方

2017年1月、不二製油グループが積極的に健康経営に取り組むことを示す「不二製油グループ健康経営推進宣言」を表明しました。

本宣言に基づき、従業員の健康増進のためのさまざまな施策を展開しています。従業員が自ら健康維持・増進に取り組めるよう、有効な情報やプログラムの提供を行うことで、従業員がイキイキと働く健康文化を作っていきます。

#### 不二製油グループ 健康経営推進宣言

「私たちは、油脂と大豆事業を中核に、おいしさと健康で社会に貢献する、食の未来創造カンパニーを目指します。」とグループ憲法のビジョンに掲げています。健康は本人・家族の幸せだけでなく、企業力を高める重要な要素であり、不二製油グループは積極的に健康経営に取り組むことを宣言します。

健康経営は従業員の健康と幸せを第一義の目的と考えており、従業員がイキイキと元気に働くことが企業価値の向上につながります。健康経営で最も重要なことは、自分の健康は自分で守るという各人の健康意識です。私たちは健康意識を持ち、「清く、正しく、明るく、元気に」働きます。そして、人のために働き、人の問題を解決して、企業としての社会貢献を推進します。健康経営の推進にあたり、従業員の健康維持・増進を図る施策・支援を進めています。具体策としては、生活習慣病の予防、メンタルヘルス不調の予防、体力増進活動などに取り組んでいきます。

2017年1月1日

不二製油グループ本社株式会社  
代表取締役社長 清水 洋史

## 推進体制

最高総務責任者（CAO）を最高責任者として、グループとして健康経営の取り組みを推進しています。不二製油（株）の人事総務部門に健康経営推進グループを設置し、産業医や保健師・看護師・産業カウンセラーなどの専門家による健康推進体制を構築しています。予防の各段階において、個人および職場に対するサポートに取り組んでいます。

## 具体的な取り組み

### 社員を守る施策（健康管理体制強化）

各種定期健康診断の完全実施を徹底しています。不二製油（株）における健康診断受診率は100%（2020年3月時点）、二次健診受診率は94.4%（2020年4月時点）でした。二次健診受診率の100%達成を目指すとともに、保健指導の強化によって、健診結果を個々の健康に活かす取り組みに力を入れています。

メンタル不調予防としては、ストレスチェックの実施はもとより（2019年度回答率95.3%）、職場ごとに抽出された課題への対策として、全員面談や心理アセスメントを行い改善に向けた取り組みのサポートをしています。

また、「ライフキャリアカウンセリング」サービスとして、社内常駐カウンセラーによるキャリアの悩み相談やメンタル不調者のサポート、および社外提携カウンセリングルームの活用により、誰でも気軽にカウンセリングを活用できる環境を提供し、メンタル不調の早期対応を行っています。万一、病気や怪我で長期間の休業が発生した場合は、保健スタッフが休業中の従業員の健康管理を行い、安心して治療に専念してもらえるようサポートします。復職時にも健康面での配慮のサポートを行うことで、スムーズな復職の流れを作り、本人も職場もイキイキと働き続けられる組織づくりを行っています。

## 生活習慣病予防施策

「百歳健活・生涯現役」と題して、重篤疾患予防施策の第1弾として、社員向けの血圧改善プログラム・卒煙サポートプログラムを2019年11月より開始しました。また、国内の社員食堂にて自社の大豆製品メニュー（まめプラスメニュー）や減塩メニュー、ヘルシーメニュー（カラダよろこぶメニュー）などを提供することで、食習慣改善意識の向上を図っています。

生活習慣病予防  
いつまでも現役として活き活きと元気に働きましょう。  
「百歳健活・生涯現役」を・・・

健康経営は、従業員の皆さんの健康と幸せを第1義の目的としています。またグループ憲法では、「おいさと健康で社会に貢献する、食の未来創造カンパニーを目指す」ビジョンとして掲げており、不二製油全従業員一人一人が健康であってこそ、このビジョンが実現できると考えています。「不二製油グループ健康経営推進宣言」に基づき、従業員の皆さんの健康維持・増進を図る施策・支援として、生活習慣病予防対策を以下のプログラムにて実践していきます。  
不二製油株式会社  
代表取締役社長 大森 達司

●第1弾：重篤疾患予防（脳卒中・心血管疾患）

1. 血圧改善プログラム  
目標値：収縮期血圧180mmHgも、拡張期血圧110mmHg以上を「0」  
3年で収縮期血圧の平均値を5mmHg低下する。

① 健康診断結果に示したの指導強化  
② 健康意識向上のための継続的な教育（講話・GLOBAL SQUAREに情報提示・減塩食体験など）  
③ 職場全体での減塩への取り組み（食堂での見える化、健康を意識できる食堂へ）

2. 卒煙サポートプログラム  
目標値：2年で喫煙率10%減少

① 喫煙・禁煙に関するアンケート調査  
② 禁煙パッチなどの禁煙サポートの提供（卒煙プログラムへの参加）  
③ たばこに関する定期的な勉強会  
④ 禁煙ワークショップの開催  
⑤ 禁煙41日の設定→禁煙7年の設定（第2弾）

健康経営推進グループ

社員食堂で提供された健康メニューの啓発ポスター

## 自分の健康に対する意識改革・教育活動

2018年度より、自身の健康を管理するための「健康測定機器」（血圧・体組成・活動量）を不二製油（株）の阪南事業所・東京支社・大阪支店に設置しています。

また、全社的な「働き方改革」への意識向上のため、表彰制度としてCWORK（Creative WORK）Awardを開催し、その中に「健康意識向上部門」を設けました。「通勤バスから自転車通勤への切り替え」など、部署単位で健康の増進に資する目標を掲げてもらう仕組みを作ったことによって、健康意識向上につながりました。

「健康管理システム」の導入による、健康データの見える化についても2019年4月より本格導入し、保健指導の充実を図っています。「健康管理システム」は、従業員が自身の健康診断の結果などの健康に関するデータの推移を確認できることから、健康に対する意識の向上につながります。病気や健康に関する情報の社内イントラネットへの掲載、Eラーニングの実施、産業医や保健師による講習会の実施、健康イベントの開催等を行い、健康に意識を向けるきっかけを提供し、従業員の意識改革を促しています。2019年度は、管理職を対象にした産業医によるラインケア※講習を実施しました。

※ ラインケア：現場の管理監督者が行う従業員の健康ケア。

## 外部からの評価

健康経営に対する一連の取り組みについて評価いただき、不二製油グループ本社および不二製油（株）は日本の経済産業省による「健康経営優良法人2020 ホワイト500」に選定されました。国内

のグループ会社を含めた外部評価の一覧は以下の通りです。

#### 健康経営優良法人 2020 ホワイト500に選定

- 不二製油グループ本社（株）
- 不二製油（株）
- （株）フジサニーフーズ

#### 健康経営優良法人2020中小規模法人部門に選定

- 不二つくばフーズ（株）
- オーム乳業（株）

## サステナビリティ

# コミュニティとの共生

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは世界15カ国37社の主要拠点を有しています。食文化は地域によって異なる中で、食品素材メーカーという特性上、工場の操業や製品の販売などの事業活動を、地域社会に根ざして行っており、コミュニティとの共生は事業の基本となる活動です。また、社会貢献活動の推進は、従業員の働き甲斐向上やサステナビリティへの意識向上にもつながるものと認識しています。

### 考え方

企業は社会の一員であるという認識のもと、社会貢献活動や社会との対話を通して、地域社会の発展に貢献していきたいと考えています。不二製油グループ憲法の「プリンシプル=私たちの行動原則」にて地域に根差した企業活動を行い、積極的に社会に貢献することを表明しています。地域社会の一員として、事業所のある地域や事業内容に関係する社会貢献活動を行っています。

## 推進体制

社会貢献活動については、それぞれの操業国・地域との関わりのもとで不二製油グループの各社が推進しています。グループ、あるいは地域横断的な社会貢献活動については、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもと不二製油グループ本社のESG経営グループCSRチームが主導しています。

## 具体的な取り組み

### 食育プロジェクト

不二製油グループでは、次世代を担う子どもたちに「食の大切さと大豆のチカラ」を伝えるため、2014年度から「食育プロジェクト」を特定非営利活動法人「放課後NPOアフタースクール」と協働して実施しています。公募制によって当社の社員が「社員先生」を務め、小学校で出前授業を行います。

2019年度は、「大豆おやつ（豆乳ココアプリン）づくり」と「大豆カードゲーム」の2種類の出前授業を計24回実施し、約600名の小学生に、人の健康によく、世界の食糧不足を救う“大豆のチカラ”について学んでいただきました。本格的にプロジェクトを開始した2015年度以降、累計で2,739名の子どもたちが食育プロジェクトに参加しています。



出前授業の様子



### <授業を受けた子どもたちの声>

- 今日は色々教えてくれてありがとうございました。とても勉強になってこれから今日のことを思い出して水や食べ物を大切にしたいと思いました。
- 地球のためにすききらいしないのと、大きくなったら食べ物の仕事をしたいです。
- にいちゃんが牛乳と卵とカニとエビアレルギーなので、豆乳を使ったおいしいレシピをありがとうございました。
- みんなと協力して作ったらおいしくて、それにみんなといっしょに食べたらさらにおいしかったです。

## SDGs for Schoolへの協賛

Think The Earth（NPO）が中学生・高校生に向けてSDGsの理解普及を図るため行っている「SDGs for School」※は、持続可能な社会実現について学ぶプロジェクトです。この出前授業で、不二製油グループは教材用のチョコレート2種類（パーム油使用のもの、パーム油不使用のもの）を提供しています。2019年度は、1,396名の受講者に、チョコレートを通して身近な食とSDGsの関係や、持続可能なパーム油の重要性を考えていただきました。

### <授業を受けた高校生の声（一部抜粋）>

- ビジネスと環境が共存することができないのかな、と思った。
- 手遅れになる前に行動することが大切だと実感した。一人ひとりが協力することで大きな力となり、世界は必ず変えることができる。
- 発展途上国の人々が教育を受けられるようにすることも、現在も破壊が続く熱帯雨林の保護も、どちらも捨ててはいけない課題です。今後はSDGsにつながる問題を国が協力すればいいことではなく、自分たちにも関わる問題として受け止め、もし機会があればSDGsに関係する活動に参加しようかと思っています。

※ 「SDGs for School」の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <http://www.thinktheearth.net/sdgs/> 

## 阪南の森プロジェクト

不二製油（株）では、2018年3月から大阪府の泉佐野丘陵緑地の公園づくりに社員がボランティアで参加しています。現地では地元ボランティア、大阪府、企業の3者が連携して、森づくりや竹林管理などに携わっており、月一回、土曜日に公園緑地を育てる活動を展開しています。

泉佐野丘陵緑地は大阪府が直営する公園で、公園というモノづくりから公園で出会うコトづくりを目標にいろいろなプログラムへの参加や活動により公園づくりを継続しています。竹を間伐し、園路や階段などを手作りで行い、楽しく公園づくりを行っています。



作業の様子



プロジェクトにより整備した園路

## 不二たん白質研究振興財団

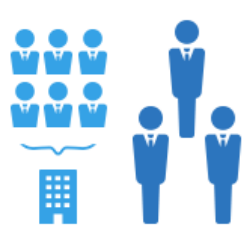
大豆たん白に関する学術研究振興を支援する目的で、1979年に「大豆たん白質栄養研究会」を発足させ、研究者の研究活動への助成を行ってきました。1997年に文部省（当時、現文部科学省）所管の財団法人「不二たん白質研究振興財団」を設立して、この活動を財団として法人化し、その後2012年には内閣府所管の公益財団法人として活動の継承と発展に努めてきました。2019年度には研究会の発足から40年の節目の年を迎え、研究助成件数は累計1,100件を越えています。

また財団には研究助成活動に並ぶ、もう一つの柱として公益広報活動があります。その活動の一環として社会人を聴講者に迎えた無料の公開講演会を毎年開催しています。2019年度も開催を予定していましたが、10月12日開催予定が東日本台風（台風19号）で延期となり、延期とした2020年3月21日も新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、開催を中止しました。なお、講演予定の内容は記録誌として編纂し、聴講予定者に配布の予定です。本公益財団法人は今後とも研究者への助成活動と研究成果の公開活動を通して、社会に貢献をしていきたいと考えます。

## サステナビリティ

# Governance（ガバナンス）

## 数字で見るガバナンスへの取り組み



不二製油グループへの  
リスクマネジメントシステム  
導入率  
(2019年度)

社外取締役の人数  
(全取締役9人中)  
(2020年6月18日時点)

## 重点領域の活動報告

### リスクマネジメント

#### 重点テーマ

#### 実効性のあるリスクマネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

#### 重点テーマ

#### 情報セキュリティマネジメント

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step

## ガバナンス

### 重点テーマ

#### グループガバナンス

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step

### 重点テーマ

#### コーポレートガバナンスの向上

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 目標・実績
- ▶ Next Step
- ▶ 具体的な取り組み

## 基本領域の活動報告

### コンプライアンス意識の浸透

- ▶ テーマと事業活動の関わり
- ▶ 考え方
- ▶ 推進体制
- ▶ 具体的な取り組み

## データブック

ESGデータブック  
(598KB)



## サステナビリティ

# 実効性のあるリスクマネジメント

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループにおいて、リスクマネジメント※は経営そのものだと考えています。不二製油グループ憲法で掲げている「おいしさと健康で社会に貢献する」、「人のために働く」を実践するためには事業の継続が必須であり、そのためにはリスクマネジメントの取り組みが欠かせないものであると考えています。

※ リスクマネジメント：企業経営に関わるリスクの発生予防に努めるとともに、リスクが実際に発生した時の損失・影響度を最小限にとどめ、経営の目標・計画を達成すること。

### 考え方

リスクマネジメントを推進することによって、社会からの信頼を獲得する「高信頼性企業の実現」を目指します。経営戦略の実践とともにリスクマネジメントを推進することで、経営の目標・計画を達成し、経営を支えます。

## 不二製油グループにおけるリスクマネジメントの位置づけ



### 推進体制

実効性のあるリスクマネジメントについては、最高ESG経営責任者（C“ESG”O）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

### 目標・実績

#### 2019年度目標

- 各グループ会社の共通リスクに対して注意喚起を強化し、リスクの発生を低減
- 不二製油（株）のBCP再構築、海外主要グループ会社のBCP構築を推進
- ブラマー チョコレート カンパニー（米国）へ不二製油グループのリスクマネジメントシステムを導入

#### 2019年度実績

注意喚起によるリスク発生の低減策として、関係部門との連携により注意喚起ツールを作成し、各グループ会社に対して定期的に通達しました。不二製油（株）のBCP再構築としては、リスク低減、早期復旧、生産の代替対策の見直しを行いました。また、海外主要グループ会社においてはBCP策定ロードマップを策定しました。新たに不二製油グループに加わったブラマー チョコレートカンパニー（米国）については、リスクマネジメント委員会を設置し、当社グループのリスクマネジメントのPDCA活動を開始しました。

### Next Step

今後も「リスクに強く社会からの信頼を獲得する高信頼性企業の実現」に向け、不二製油グループの実効性のあるリスクマネジメントに取り組んでまいります。2020年度は全社リスクマネジメント



ト、TCFD対応、主要グループ会社におけるBCP構築を推進するために、全社重要リスクのPDCA管理、TCFDに基づくシナリオ分析などに取り組みます。

## 具体的な取り組み

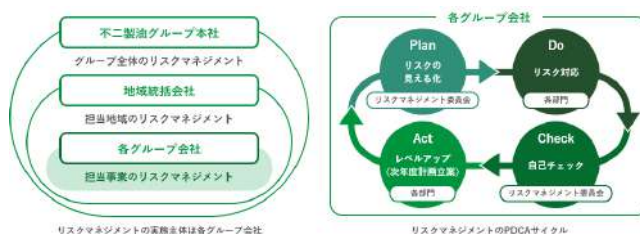
### 各グループ会社におけるリスクマネジメントの手法

#### PDCA

不二製油グループでは地域統括会社、各グループ会社に対して、それぞれの役割を明確にし、各グループ会社にリスクマネジメント委員会を設置しています。このリスクマネジメント委員会が主体となって、「リスクの洗い出しと重要リスクの選定⇒リスク対策実施⇒チェック⇒次年度計画のレベルアップ」のPDCAを1年ごとに回し、不二製油グループ本社、地域統括会社、各グループ会社間で連携を取りながら、リスクマネジメントを推進しています。

緊急時においては、平時のリスクマネジメント委員会を母体に「緊急対策本部」を立ち上げ、グループとして迅速かつ適切に対応できるシステムを構築しています。

#### 不二製油グループのリスクマネジメント



#### リスクアセスメント手法

各グループ会社のリスクマネジメント委員会が主体となり、自社のリスクを可能な限り洗い出し、リスクマップ（縦軸：自社への損失・影響度、横軸：発生可能性）にマッピングすることで評価します。評価の結果、自社にとって損失・影響度が大きいリスクを「重要リスク」として特定し、すべての「重要リスク」に対して対応方法を決定し、リスク低減を図ります。このプロセスにより、自社が優先的に管理すべきリスクを明確にしたリスク管理を行い、リスクの発生予防、リスク発生時の損失最小化、事業継続を図っています。

### 全社重要リスクの特定

2019年度から経営陣が認識するリスク、マテリアリティマップ、各グループ会社のリスクマップ等の情報ソースから全社重要リスク※を特定する仕組みを構築し、運用を開始しました。

※ 特定した全社重要リスクの詳細については、以下のURLをご参照ください。

## 気候変動リスクと機会

グループ全体の経営戦略の策定機能を担っている不二製油グループ本社が、気候変動に関連するリスクと機会を管理しています。CSR、リスクマネジメント、環境等のさまざまな部門が専門の観点から、業界団体・公開情報・ステークホルダーとの対話などを通じて気候変動に関する情報収集を行い、戦略立案に活かしています。気候変動に関する戦略は、取締役会諮問機関であるESG委員会の中で報告され、取締役会に具申されます。また、気候変動が要因となるリスクに関しては、不二製油グループ全体のリスクマネジメントシステムにて管理しています。

2019年5月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を表明し、2019年度にTCFDが提言する気候変動のシナリオ分析を実施しました。

分析の結果、平均気温が4°C上昇した場合、自然災害による自社の操業停止や一部主要原料の調達に大きな影響を与える可能性があることを認識しました。この気候変動リスクへの対応として、省エネ活動、再エネ活用等、これまでグループ全体で取り組んできたCO2排出量削減をさらに推進し、脱炭素社会の実現に向け貢献してまいります。他方、脱炭素社会においては不二製油グループが強みを持つPlant Based Food（植物性食品）の市場拡大が見込まれており、気候変動機会として認識しました。不二製油グループは、2050年からのバックキャストで、植物性食品素材によって社会課題を解決する「Plant Based Food Solutions」（PBFS）のコンセプトのもと事業を展開しています。乳・肉といった食資源不足が懸念される将来においても、おいしさを保ち健康に資する植物性食品素材を提供してまいります。今後はシナリオ分析のグローバル展開、財務的な影響の把握等を進め、事業戦略へ反映していく予定です。

## 気候変動関連のリスク・機会

※ リスク・機会の発生見込時期欄：「短期：2025年までに発生する」、「中期：2025年以降～2030年までに発生する」、「長期：2030年以降～2050年までに発生する」を表します。

※2 該当シナリオ欄：内容欄に記載したリスク・機会が特に顕著に現れるシナリオを、○印で表しています。

| 項目          |                       |        | 内容           | 発生見込時期※   | 該当シナリオ※2 |     |  |
|-------------|-----------------------|--------|--------------|---|----------|-----|--|
|             |                       |        |              |   | 2°C      | 4°C |  |
| リ<br>ス<br>ク | 移<br>行<br>リ<br>ス<br>ク | 政策・法規制 | 環境規制対応コストの増加 | CO2排出規制強化によるカーボンフットプリント制度、炭素税の導入、排出枠の購入費用や省エネ・再生可能エネルギー対応への設備投資費用等による生産関連コストの増加、配送車両数の制限、炭素税の燃料への影響等による物流関連コストの増加、が見込まれ、利益減となるリスクがあります。 | 中期       | ○   |  |

| 項目 |         | 内容                                       | 発生見込時期※   | 該当シナリオ※2   |     |   |   |
|----|---------|--|---|--|-----|---|---|
|    |         |  |   | 2°C  | 4°C |   |   |
|    | 技術      | 研究開発コストの増加                               | 環境負荷を軽減するための新原材料探索、新食品素材・アプリケーションの研究開発を強化するためにコストが増加し、利益減となるリスクがあります。                                     | 長期   | ○   |   |   |
|    | 市場      | サステナビリティ重視の消費者ニーズ・製品需要への対応不足             | サステナビリティを重視するグローバルな消費者ニーズ、製品需要への対応が遅れたり、対応が十分でない場合、競合他社にシェアを奪われる等により売上が計画通りに達成できないリスクがあります。               | 中期   | ○   |   |   |
|    | 評判      | 環境への対応不足                                 | CO <sub>2</sub> 排出等の環境対応不足、サプライヤーによる森林破壊等への間接的加担等により当社グループが社会批判を受けた場合、評判低下により主要顧客を喪失し売上が減少するリスクがあります。     | 短期   | ○   |   |   |
|    | 物理的リスク  | 急性                                       | 操業停止・サプライチェーンの寸断  | 自然災害の威力増加、海面上昇に伴う高潮、台風、洪水被害等の増加により自社工場およびサプライヤーの操業停止、物流網の寸断、倉庫被害等により欠品が発生し売上が減少する、またBCP対策費用、保険料等のコストが増加し、利益減となるリスクがあります。 | 中期  |   | ○ |
|    |         | 慢性                                       | 一部主要原料の調達困難   | 平均気温上昇による耕地面積の減少、異常気象、病気や害虫の増加等により、一部主要原料の収穫量が大幅に減少し、調達が困難となるリスクがあります。   | 長期  |   | ○ |
|    |         |  | 生産・物流関連コストの増加   | 平均気温が上昇することで、労働安全衛生対応、冷却設備能力、生産効率の低下、製品の品質不良等の生産関連コストが増加、また倉庫、配送車両の温度調節設備等の物流関連コストが増加し、利益減となるリスクがあります。                   | 中期  |   | ○ |
| 機会 | 資源効率    | 生産・物流関連コストの低減                            | 省エネ活動により設備稼働コストが低減し、共同配送、モーダルシフト等の推進により効率配送が可能となり物流コストが低減する機会が見込まれます。                                     | 中期   | ○   |   |   |
|    | エネルギー源  | 再生可能エネルギーの活用によるCO <sub>2</sub> およびコストの削減 | 太陽光パネルの導入、グリーン電力証書の購入等の推進によりCO <sub>2</sub> 削減とコスト削減に寄与しています。   | 短期   | ○   |   |   |
|    | 製品・サービス | 耐熱性食品・非常食・高栄養食品の需要増加                     | 平均気温上昇、自然災害の威力増加等により、耐熱性のある食品、非常食、熱中症対応食等、当社の抗酸化性、耐熱性、大豆加工等の技術を活用できるロングライフ・高栄養食品の需要が拡大し、売上が増加する機会が見込まれます。 | 短期   |     | ○ |   |

| 項目     | 内容                                    | 発生見込時期※  | 該当シナリオ※2 |     |
|--------|---------------------------------------|--|----------|-----|
|        |                                       |  | 2°C      | 4°C |
|        | 気温上昇による製品の需要増加                        | 平均気温上昇により、ビール系飲料、飲料、冷菓、冷蔵の麺類等の需要が増加し、それらの原料として使用される当社製品の売上が増加する機会が見込まれます。  | 中期       | ○   |
| 市場     | PBF市場の拡大                              | 環境意識の高まり、エシカル消費の増加等によりPBF※製品の需要増加、PBF市場の拡大により、当社が得意とする代替技術・ハイブリッド技術のさらなる活用範囲が広がり売上が増加する機会が見込まれます。<br>※ PBF（Plant Based Food：植物性食品） | 短期       | ○   |
| レジリエンス | サステナビリティに適合する最適な事業ポートフォリオの構築による企業価値向上 | 省エネ、再生可能エネルギーの活用等を推進することで、環境負荷を軽減し、社会が求めるサステナビリティに適合する最適な事業ポートフォリオの構築が可能となり、社会の信頼を獲得し、企業価値が向上する機会が見込まれます。                          | 中期       | ○   |
|        | 強固なBCPの構築による企業価値向上                    | 自然災害への備えとして強固なBCPの構築により、顧客需要を満たし強い信頼関係を構築することが可能となり、社会の信頼を獲得し、企業価値が向上する機会が見込まれます。  | 短期       | ○   |

## BCP

不二製油グループが「おいしさと健康で社会に貢献する」、「人のために働く」を実践するためには事業の継続が前提条件であり、BCPは欠かせないものです。従業員の安全確保および事業資産の損害を最小限にとどめ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするため、以下のBCP基本方針のもとにBCPを推進していきます。具体的には、自然災害、大規模事故、感染症の蔓延などを想定した事業継続計画（BCP）の見直しや、自然災害発生時の情報システムの継続性確保（ICT-BCP）などに取り組んでいます。

### BCP基本方針

1. 従業員・来客の人命を最優先する。
2. 二次災害を防止し、地域に迷惑をかけない。
3. 企業としての供給責任を果たす。

## 教育・インセンティブ

### 教育・啓発活動

各グループ会社への定期的な訪問・テレビ会議などにより、リスクマネジメントに関する教育・啓発活動を実施し、各グループ会社におけるリスクマネジメントのPDCA活動の定着化と質の向上を図っています。また、新任の海外赴任者を対象とした海外赴任前研修において、リスクマネジメントの基礎、不二製油グループのリスクマネジメントシステムについて教育を行っています。

### インセンティブ

「リスクマネジメント」の分野を含め、ESGに関して優れた取り組みを行った部門・グループ会社を表彰する仕組みとしてESG経営賞を設けています。

## サステナビリティ

# 情報セキュリティマネジメント

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループが事業活動を通して社会に貢献していくための基盤としてリスクマネジメントが重要であり、デジタルデータの価値が向上する昨今ではリスクマネジメントの一つのテーマとして、情報セキュリティマネジメントが期待されます。また、情報セキュリティマネジメントは、自社の経営情報のみならず、お客様や従業員などのデータ保護を徹底するという側面からも重要です。

### 考え方

不二製油グループでは、情報システムを取り巻くさまざまな脅威に対し、情報資産の機密性・完全性・可用性を確保・維持するためにセキュリティレベルの向上に取り組んでいます。当社グループの方針として、情報管理規程および情報セキュリティ規程を策定し、規程の周知徹底に向けた従業員教育を継続して行っています。技術的には、外部からの不正アクセスを防御する仕組みやコンピュータウイルスを防御する仕組みなど、多層的な対策を講じています。今後も、情報セキュリティレベルの検証・確認・向上を継続していきます。



## 推進体制

実効性のあるリスクマネジメントについては、最高財務責任者（CFO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。同管掌役員のもと、情報管理統括責任者およびCSIRT（Computer Security Incident Response Team）を設置しています。CSIRTとして各グループ会社に情報管理責任者および情報セキュリティ管理者を指名するとともに、外部の専門家の助言を得ながら、計画的に全グループ会社の情報セキュリティ水準向上を図っています。

また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 情報セキュリティマネジメント成熟モデルのCOBIT※ レベル3の達成

※ COBIT：ITガバナンスの成熟度を測るフレームワークで、0～5段階で評価。5が最も成熟しているレベル（Optimizing）。2019年4月時点ではレベル1～2。

### 2019年度実績

2019年度は主にランサムウェア※ 感染対策をテーマとして施策を実行し、上記ガバナンスモデルの目標を達成しています。同施策を実行してから、ランサムウェアによる被害は発生していません。一部、中国のグループ会社においては新型コロナウイルス（COVID-19）等の影響により未完の施策が存在し、状況が沈静化次第、施策実行の再開を予定しています。

※ ランサムウェア：感染したPCやファイルを使用不能とし、PCやファイルを使用するための「身代金」を要求する不正プログラム。

## Next Step

ICTによるプロセス改革と企業価値創出、およびグループガバナンスを実現するため安全・安心なICTを不二製油グループに継続的に提供していきます。不二製油グループ全社を挙げて情報セキュリティ活動に取り組むことで、取引先をはじめ社会から信頼される会社になることを目指します。2020年度は2019年度の施策を継続実施するとともに、情報漏洩対策等の新たなテーマにて施策を実行し、COBITレベル4への到達を目指します。また国内・海外グループ会社の従業員を対象とし、情報セキュリティ意識向上のためのトレーニングプログラムを継続実施してまいります。

## サステナビリティ

# グループガバナンス

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは、1980年代より本格的な海外進出を開始し、2020年3月末現在、15カ国に主要拠点を有しています。社会の変化のスピードがますます加速する中、不二製油グループが継続して社会に価値を創出していくためには、地域ごとの社会課題やニーズに対してスピード感をもって対応していく必要があります。経営の現地化・グループ全体最適を追求するために、当社グループは2015年10月よりグループ本社制の経営体制を敷いています。グループ経営の基盤として、グループガバナンスが重要であると考えています。

### 考え方

不二製油グループ社員全員の価値観の共有化を図るため、「不二製油グループ憲法」を策定しています。グループガバナンスの基本であるグループ憲法を具現化するために、グループ経営に関する基本方針として「グループ方針」を定め、そのもとで有効なグループガバナンス体制の構築を推進しています。

## 推進体制

グループガバナンスについては、最高経営戦略責任者（CSO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- エリア軸（地域統括会社ごと）の意思決定および業務執行の実効性向上

### 2019年度実績

2018年度に欧州統括会社であるフジ ヨーロッパ アフリカ（オランダ）設立、ブラマー チョコレート カンパニー（米国）取得決定があり、2019年度は不二製油グループのグループガバナンスにとって新たなステージに入りました。エリア・事業ごとに適正かつ迅速な意思決定・業務執行を行うための規程・細則を策定しました。

また、刻一刻と変化する新型コロナウイルス（COVID-19）の状況に対し、リスク管理面ではエリアマネジメント（エリア・国ごとの状況把握において）が機能しています。

## Next Step

今後も、有効なグループガバナンス体制の構築に向け取り組んでまいります。2020年度はグループ方針に基づく会議運営や、グループ憲法・グループ方針の理解促進などの活動を推進する予定です。

## サステナビリティ

# コーポレートガバナンスの向上

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループが株主・投資家、取引先など様々なステークホルダーや社会の期待と要請に応え、企業価値を持続的に向上させていくためには、事業の方向性や業務の適正さを適時にモニタリングすることが必要となります。コーポレートガバナンスは、そのための仕組みの基盤となるものであり、これを弛まず向上、発展させていくことが非常に大切であると考えています。

### 考え方

当社グループは、実効的なコーポレートガバナンスを通じて、法令違反、不正や不祥事などの企業価値を毀損するような事態の発生を防止し、かつ、会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図ることを目指します。株主、顧客、その他取引先、当社役職員などのステークホルダーや社会の期待に応え、透明、公正かつ迅速果敢な意思決定を行うための重要な仕組みとしてコーポレートガバナンスを位置づけています。

当社グループは、意思決定の迅速化のため、新設分割による純粋持株会社体制に移行し、事業会社である地域統括会社への権限委譲を進めています。一方、グループ本社は、グローバルな視点でグループ経営の戦略立案およびグループ会社の管理を行っています。

## 推進体制

コーポレートガバナンスの向上については、最高総務責任者（CAO）の管掌のもとで取り組みを推進しています。また、ESG経営の重点テーマの一つとして、取締役会の諮問機関であるESG委員会※において進捗や成果を確認しています。

※ ESG委員会の詳細については、以下のURLをご参照ください。

▶ <https://www.fujioilholdings.com/csr/approach/>

## 目標・実績

### 2019年度目標

- 取締役会実効性評価の結果を踏まえた行動計画の策定と実行

### 2019年度実績

※ 具体的な取り組みの取締役会実行性評価をご参照ください。

## Next Step

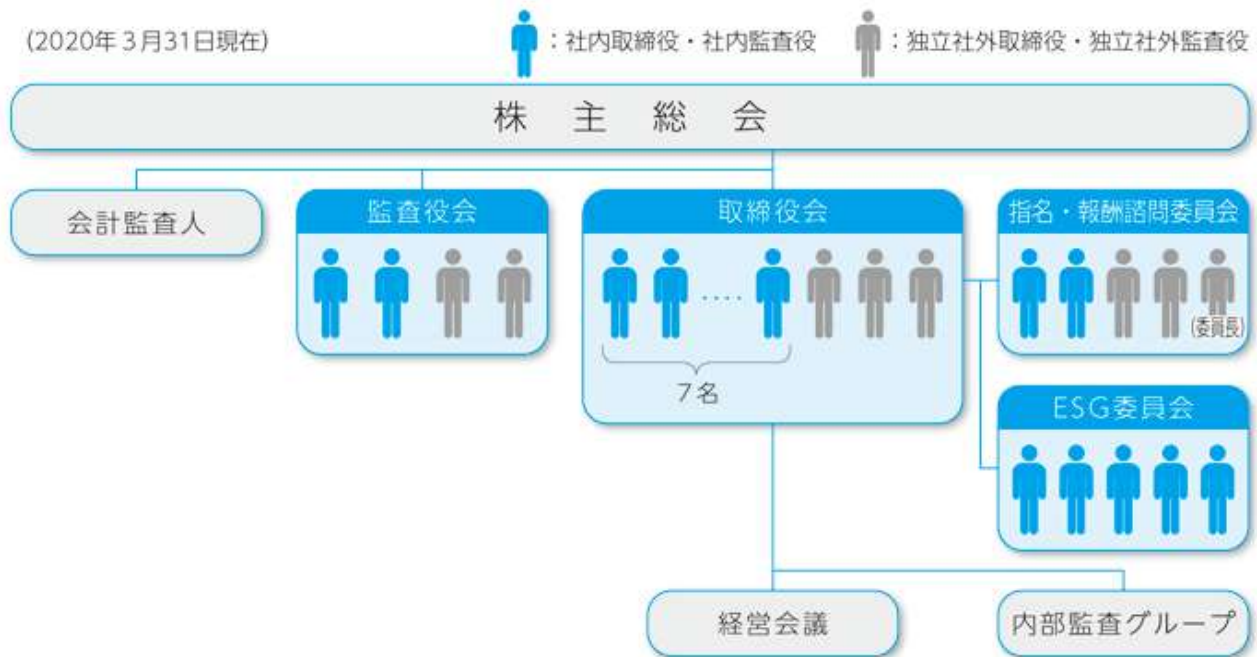
※ 具体的な取り組みの取締役会実行性評価をご参照ください。

## 具体的な取り組み

---

## ガバナンス体制

## コーポレートガバナンス体制図



### 取締役会

取締役会規則のもと、原則月1回の定時「取締役会」と必要に応じて招集される「臨時取締役会」を開催しています。取締役会では、法令に定められた事項はもとより事業経営に係る重要事項の審議とともに、業務執行状況のモニタリングが行われています。

### 監査役会

監査役会は、監査方針および監査計画、その他監査活動に係る重要事項を審議・決定します。監査活動に基づき明らかになった重要な事項等については、取締役や執行部門に対して報告・助言を行っています。

### 指名・報酬諮問委員会

役員選任および役員報酬決定のプロセスの透明化を図るため、取締役会の諮問機関として社外取締役が過半数を占める「指名・報酬諮問委員会」を2015年10月に設置しました。第92期（2019年4月1日～2020年3月31日）は計15回開催いたしました。

### ESG委員会

不二製油グループにおける、食の創造によるソリューション、食の安全・安心・品質・サステナブル調達、環境、ダイバーシティ、労働安全衛生、ガバナンス、リスクマネジメントと言ったESG（環境・社会・企業統治）に関する重要課題を審議し、取締役会への提言・具申を行っています。



## 取締役会実効性評価

不二製油グループ本社では毎年、第三者機関による取締役会実効性評価（アンケートやインタビュー形式）を行っています。その結果は取締役会にフィードバックされ、次年度以降の取締役会運営のあり方について審議が行われます。2019年度の評価は、前年度に提起された課題（例：グローバル&グループガバナンスの強化、特にM&Aによりグループ編入した会社）の進捗確認を中心に実施いたしました。

### 1. 評価の概要（対象、評価プロセス、質問項目）

対象：アンケート ・ 取締役10名 および 監査役4名  
インタビュー ・ 課題に対する進捗確認 代表取締役社長  
・ 新任の取締役・監査役に対する全般的な質問（夫々1名）

評価プロセス：第三者機関による匿名性を担保した調査と結果分析

### 2. 質問項目

- I. 取締役の構成と体制
- II. 取締役会の運営と実務
- III. 取締役会の審議事項
- IV. 取締役会の監督機能
- V. 指名・報酬諮問委員会の体制と活動状況
- VI. 2019年度の課題に関する改善活動状況

### 3. 評価結果

第三者機関が関与した形での取締役会評価を通じて、① ガバナンス改善に対して社長が強いリーダーシップを発揮していること、また取締役会においても高い意識を有していること、② 経営環境が大きく変化する中、各役員がグローバル企業への変革が急務であるとの強い危機感を有していることが確認されました。

今後の取締役会の課題としては、① 2019年度に提起された課題について一定の改善は見られるものの、さらに改善活動を進める必要があること、② グループ本社の取締役会として監督（モニタリング）機能をさらに強化する必要があることなどが確認されました。グループ本社は、今後も継続して取締役会実効性評価を行い、PDCA改善サイクルを通じて取締役会の運用改善とコーポレートガバナンスの強化を図ります。そして、企業価値の持続的な向上を推進していきます。

## 内部統制

内部統制の一環として、取締役会直属の内部監査グループによる監査、および各機能グループによる業務監査を行っております。

## サステナビリティ

# コンプライアンス意識の浸透

### 特に貢献を目指すSDGs



## マネジメント情報

### テーマと事業活動の関わり

不二製油グループは、社会の一員としてコンプライアンス活動の推進が重要であると考えています。社会から必要とされる存在であり続けるための基盤として、グループ全体におけるコンプライアンス意識の浸透に取り組んでいます。

### 考え方

不二製油グループは、日々の業務の中で法令や社内規程の順守はもとより、社会（ステークホルダー）からの期待や要望に応えられるよう、高い倫理観を持って行動することが重要と考えています。2015年10月に制定した「不二製油グループ憲法」には、こうしたコンプライアンスの基本的な考え方が織り込まれています。

さらに、この考え方を実践するための具体的な行動を明らかにすべく、「不二製油グループ行動規範三原則」を定めています。

### 不二製油グループ行動規範三原則

1. ルールを守ります。  
各国及び地域に適用される法律・法令を守ります。

会社の定めた規則やルールに従って行動します。  
社会規範を守り、社会の期待と信頼に応えます。

## 2. 正直に行動します。

自分の良心に従って行動します。  
ミスや失敗を隠しません。

報告と説明は、事実に基づき、適時・適切に行います。

## 3. 公正に行います。

公正かつ適正な取引を行います。

公私のけじめをつけ、不正な行為はしません。

事業活動に関わる人々の人権を尊重し、人種、性、宗教の多様性に配慮します。

強要や賄賂行為は行いません。

反社会的勢力の介入を許しません。

## 推進体制

最高総務責任者（CAO）を最高責任者として、グループ全体のコンプライアンスの取り組みを推進しています。不二製油グループ本社の法務部門が、グループ全体のコンプライアンス意識の浸透に資するさまざまな施策の企画や課題の改善に取り組んでいます。法務部門から適宜の報告を受け、不二製油グループ本社の経営会議が、コンプライアンスの取り組みのレビューを行っています。

## 具体的な取り組み

### 教育

#### ビジネス行動ガイドライン

不二製油グループ憲法の行動原則について、さまざまな日常業務で遭遇する典型的事例を取り上げて説明した「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン」を制定し、冊子やPDFにて、従業員に配布しています。また、多言語（8カ国語）への対応も行っています。

#### コンプライアンス研修

2019年度から、必要な部門に必要なコンプライアンス教育を実施すべく、法務部門が、人事部門をはじめとする関連部門と協働の上、コンプライアンス研修の体系化に取り組んでいます。加えて、法務部門が国内および海外の拠点を巡回し、事業現場の状況やニーズを把握しながら、注意すべきコンプライアンス分野の啓発を行っています。また、2018年度から「コンプライアンス・情報セキュリティ強化月間」として、毎年10月に、不二製油グループの従業員を対象にeラーニング（日本語、英語、中国語、ポルトガル語）を実施しています。

## モニタリング

監査役や内部監査担当部門と連携を図り、海外グループ会社も含めたコンプライアンス実践状況のモニタリングに取り組んでいます。2018年度からは、海外グループ会社を巡回し、コンプライアンスチェックリスト（地域特有の法令やリスクを勘案して作成したもの）を用いた実地点検活動を開始しています。

## 内部通報制度

国内グループ会社では、「不二製油グループ社内通報窓口」を運用しています。また、通報者の秘密・匿名性を確保することにより、通報しやすい環境を整備すべく、社外の法律事務所にも通報窓口を委託しています。特定分野の協力会社を対象とした通報窓口としては、適正な取引継続の観点で、2018年度から「公正取引ヘルプライン」を運用しています。

海外グループ会社においては、グループ会社従業員向けの内部通報制度「不二製油グループコンプライアンス・ヘルプライン」を運用しています。

不二製油グループ本社の内部通報規程では、「不二製油グループ社内通報窓口」、社外の法律事務所に委託している通報窓口、「不二製油グループコンプライアンス・ヘルプライン」を対象に、通報者となった従業員を、通報したことを理由に解雇および不利益に取り扱うことを禁止しています。また、通報者に対して不利益な取り扱いや嫌がらせなどをしたものに、就業規則などに従い処分を課すことができると定めています。

グループ全体で寄せられた通報件数は、ここ数年は年間5～10件の範囲で推移しており、通報内容については速やかに調査し、必要な是正措置や通報者へのフィードバックを行っています。なお、グループ全体にわたって、毎年内部通報制度に関するアンケート調査を実施し、通報制度の周知徹底や運用改善に努めています。

## 腐敗防止

独占禁止法順守と並び、公正な取引に係る重点コンプライアンス分野の一つとしての贈収賄防止についてはグローバルに適用する規程を制定し、啓発活動の中でも重点を置いています。コンプライアンス活動の体系化を行う中で重点的に啓発を行う部門を定め、腐敗防止に関する研修を毎年実施することとしています。

## 政治献金

当社グループは、政治献金の拠出はありません。

## コンプライアンス違反

2019年度、不二製油グループにおいて、当社グループの事業運営に関わる重大なコンプライアンス違反はありませんでした。